

第2期夕張市地方人口ビジョン及び地方版総合戦略  
策定委員会  
＜第2回＞

事務局提出資料【参考資料編】

---

令和2年1月  
夕張市地域振興課

## 【参考資料1】

＜第1回策定委員会での質問事項に対する回答＞

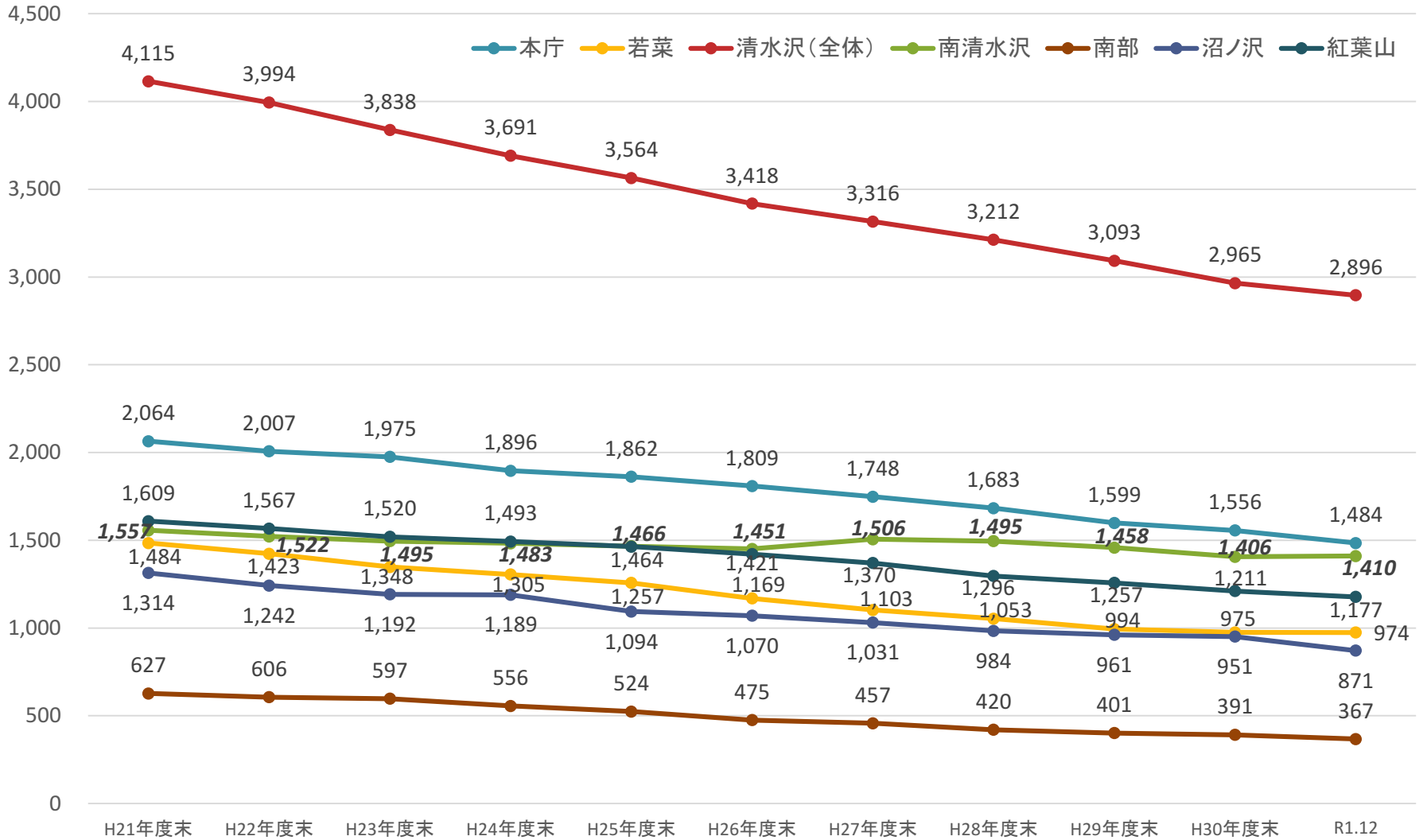
# 第1回策定委員会での質問事項に対する回答

## 【質問及び回答一覧】

	質問	回答
1	地区ごとの人口減少とその要因について、数字の裏側にある部分も含めて資料がほしい。	3p～11p
2	H24年の転出入の増加の要因を教えてください。	平成24年7月9日より住民基本台帳法の改正に伴い人数に外国人が含まれることになったことが主な要因と考えられる。(12p)
3	60歳以上の方の社会増減が多い要因を教えてください	そもそもの人口比率が多いことや、医療、介護、子との同居等の理由により、都市部に転出するケースが推察される。
4	ライドシェアや白タクを可能にする方法があるのかどうかを調べてほしい。	ライドシェアは天塩町で実績があり、ガソリン代相当額を支払い、タクシーとの競合がない路線で実施(別添資料を参照)。いわゆる白タクは不可。
5	第1期の検証結果について、KPI(数値目標)の達成状況だけでなく、具体的な状況を知りたい。	13p～17p
6	第2期の策定方針について、第1期を踏まえた修正なのか、それとも抜本的な見直しなのか、方向性を知りたい。	一から策定するのではなく、第1期をベースとして修正を行うものです。

# 【質問1】地区ごとの人口推移

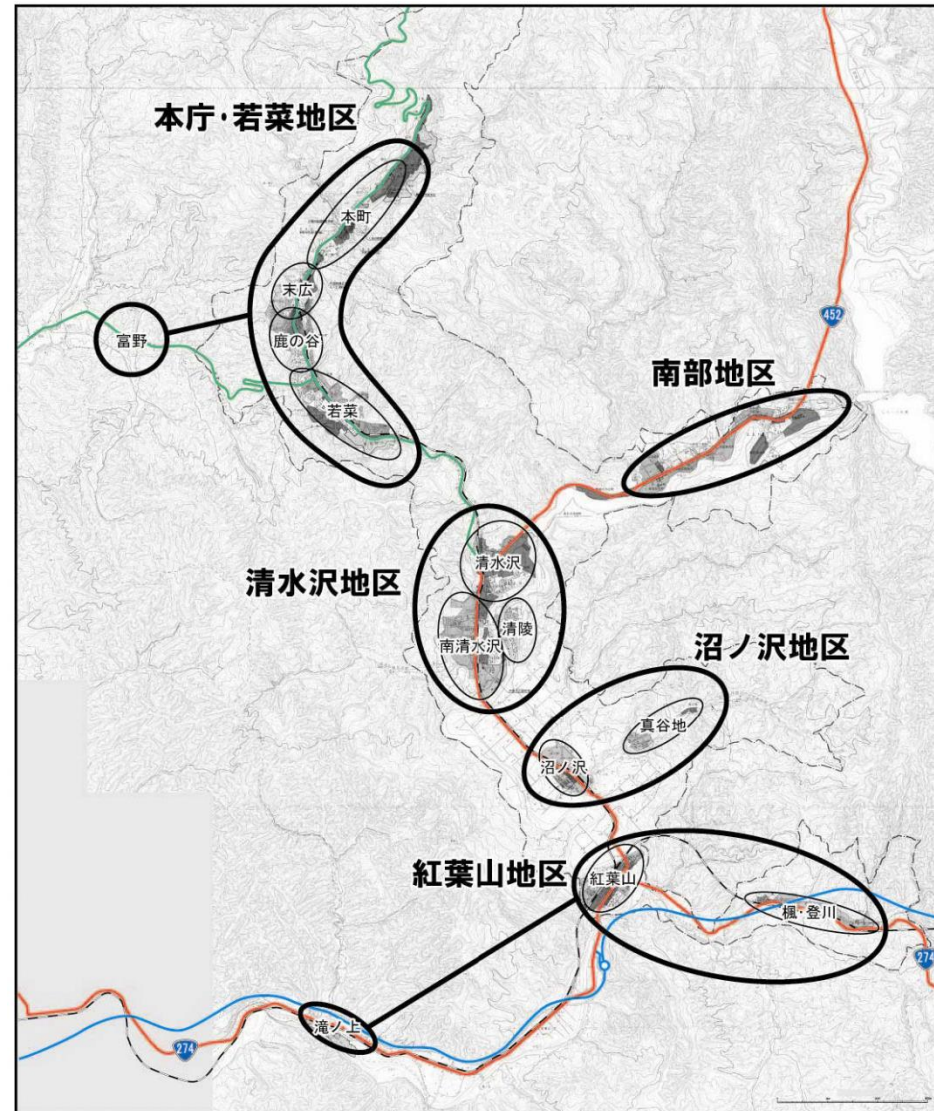
地区別人口推移



# 【質問1】地区別の将来人口の推計①

9地区に分けて将来人口を推計

まちづくり マスタープラン での区分	本推計での 区分	該当する住所 (一部抜粋)
本庁・若菜 地区	本庁地区	本町、末広、昭 和、旭町、鹿の 谷、富野
	若菜地区	常盤、日吉、若菜、 平和、千代田
南部地区	南部地区	南部、鹿島
清水沢地区	清水沢地区	清水沢、南清水 沢
沼ノ沢地区	沼ノ沢地区	沼ノ沢
	真谷地地区	真谷地
紅葉山地区	楓・登川地区	楓、登川
	滝ノ上地区	滝ノ上
	紅葉山地区	紅葉山



# 【質問1】地区別の将来人口の推計②

2通りの推計方法による推計結果を示す。

方法①: 社人研で使用されている夕張市全体の移動率、子ども女性比、0～4歳性比を各小地域に適用して、将来人口推計を行った。(図中の凡例では「社人研」と表記)

方法②: 小地域(町丁・字)毎に純移動率及び子ども女性比(男・女児別)を算出し、これを用いて将来人口予測を行った。(図中の凡例では「小地域毎」と表記)

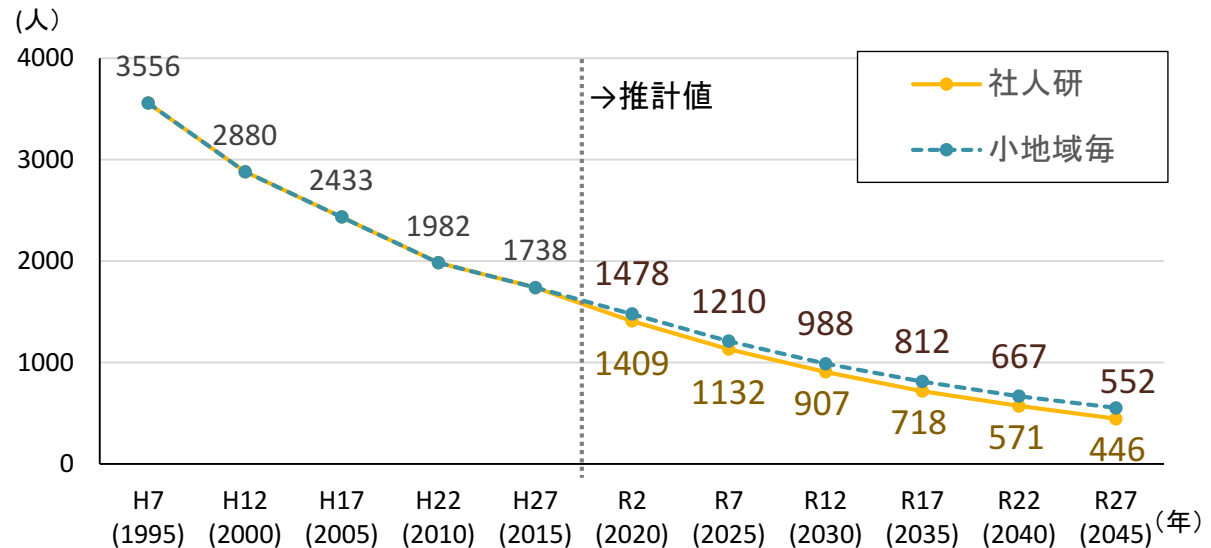
※国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV2(H27 国調対応版)」を使用して推計

## 本庁地区

H27(2015)年人口: 1,738人

R22(2040)年人口: 571~667人

人口減少率: 61.6%~67.1%



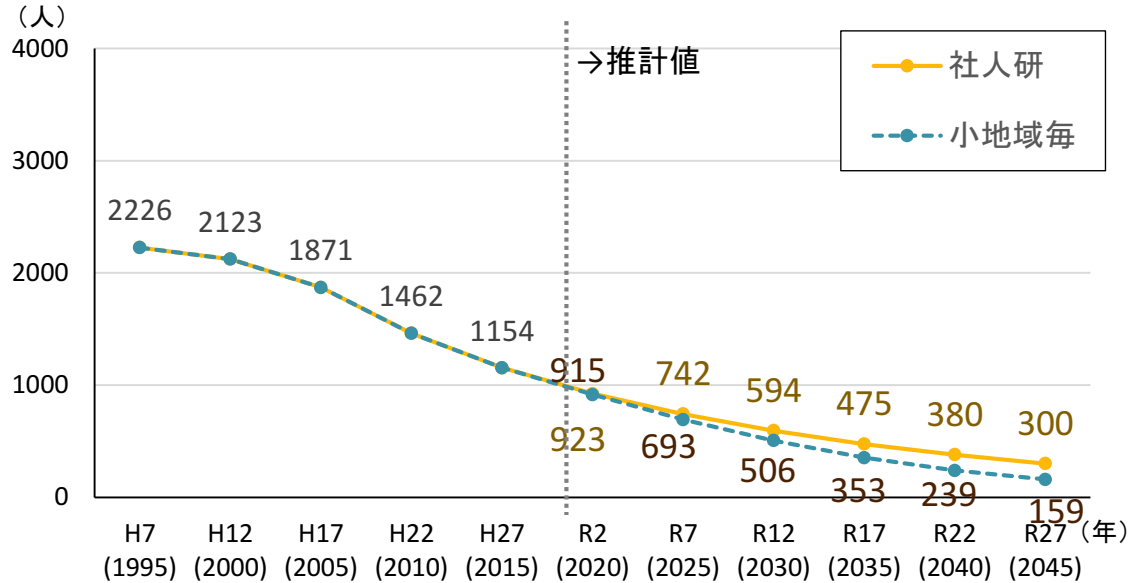
# 【質問1】地区別の将来人口の推計③

## 若菜地区

H27(2015)年人口:1,154人

R22(2040)年人口:239~380人

人口減少率:67.1%~79.3%

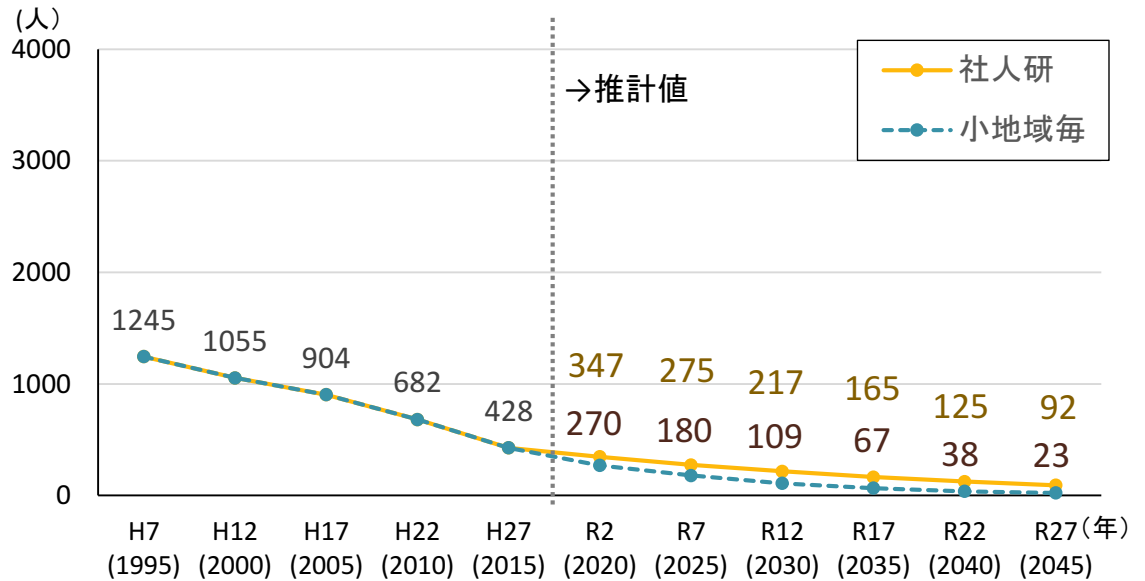


## 南部地区

H27(2015)年人口:428人

R22(2040)年人口:38~125人

人口減少率:70.8%~91.1%



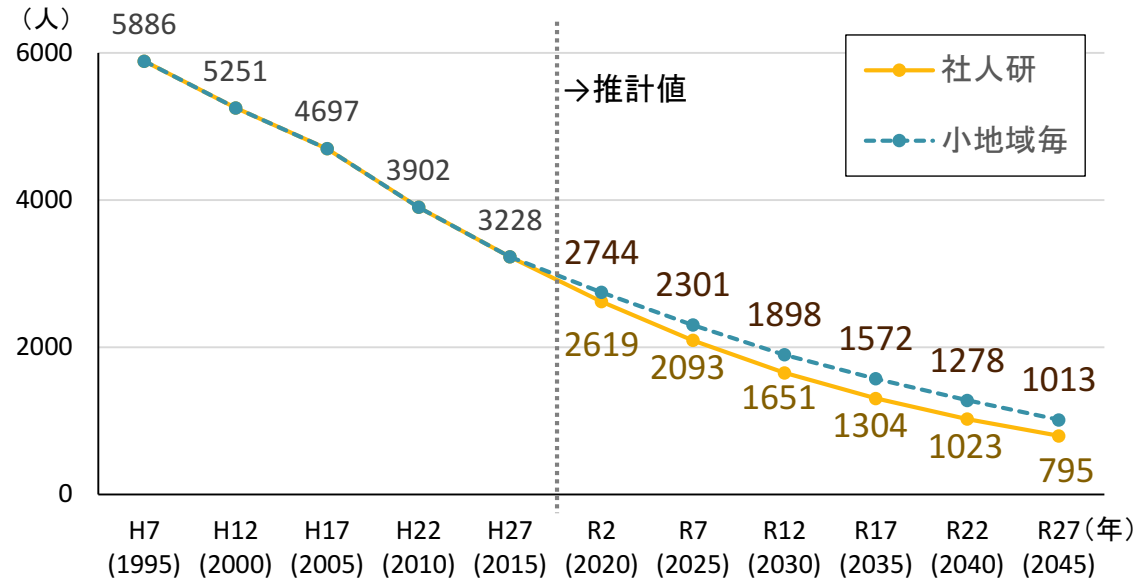
# 【質問1】地区別の将来人口の推計④

## 清水沢地区

H27(2015)年人口: 3,228人

R22(2040)年人口: 1,023~1,278人

人口減少率: 60.4%~68.3%

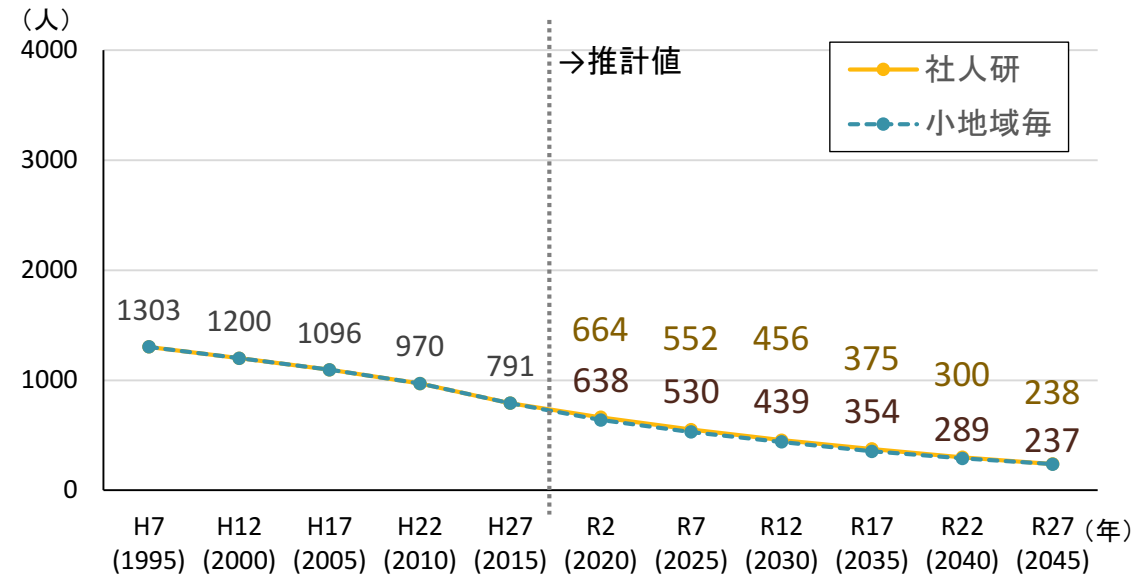


## 沼ノ沢地区

H27(2015)年人口: 791人

R22(2040)年人口: 289~300人

人口減少率: 62.1%~63.5%





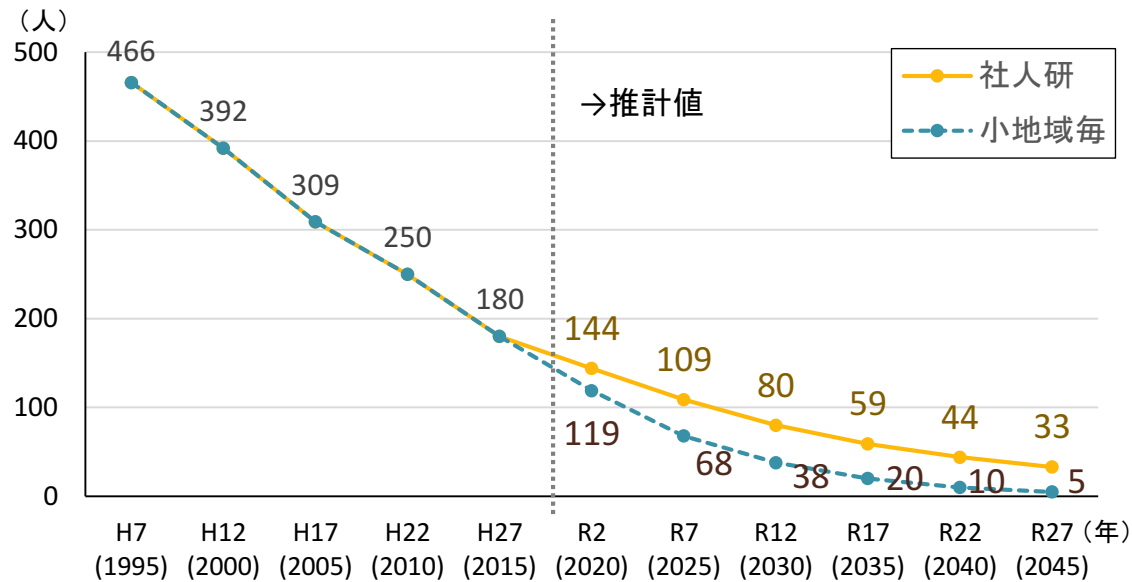
# 【質問1】地区別の将来人口の推計⑤

## 真谷地地区

H27(2015)年人口:180人

R22(2040)年人口:10~44人

人口減少率:75.6%~94.4%

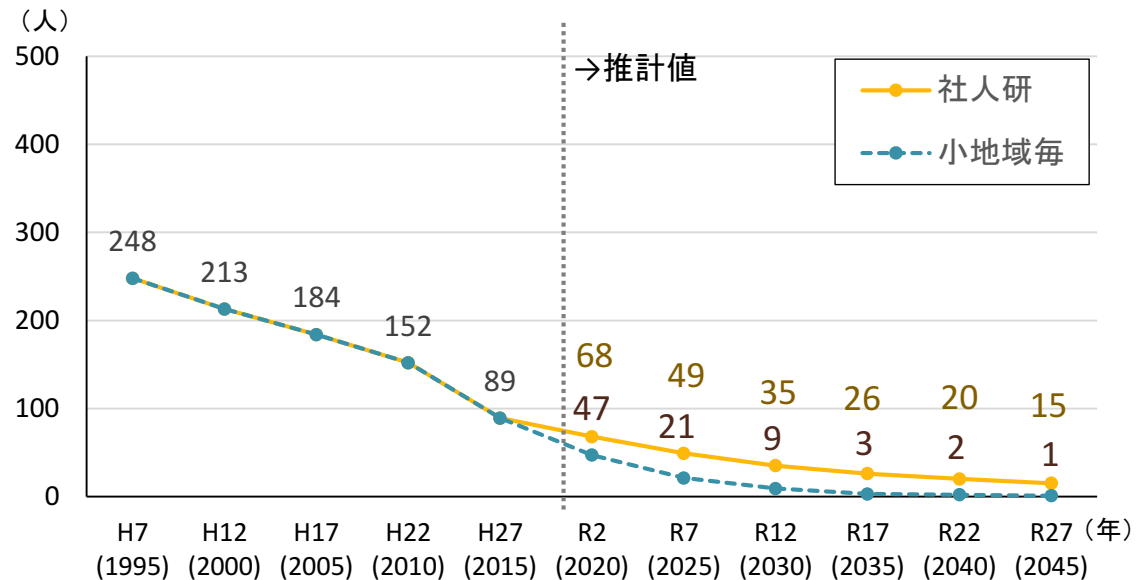


## 楓・登川地区

H27(2015)年人口:89人

R22(2040)年人口:2~20人

人口減少率:77.5%~97.8%



※人口が少ない地域では、推計精度が粗くなり、推計方法によって結果が大きく変化するため参考値とする。

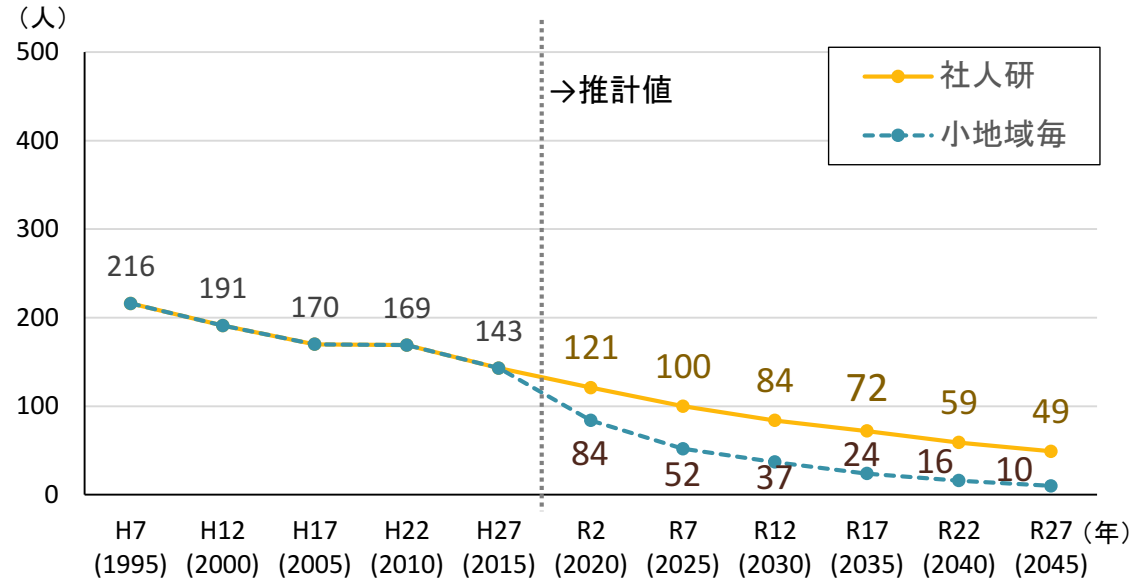
# 【質問1】地区別の将来人口の推計⑥

## 滝ノ上地区

H27(2015)年人口:143人

R22(2040)年人口:16~59人

人口減少率:58.7%~88.8%

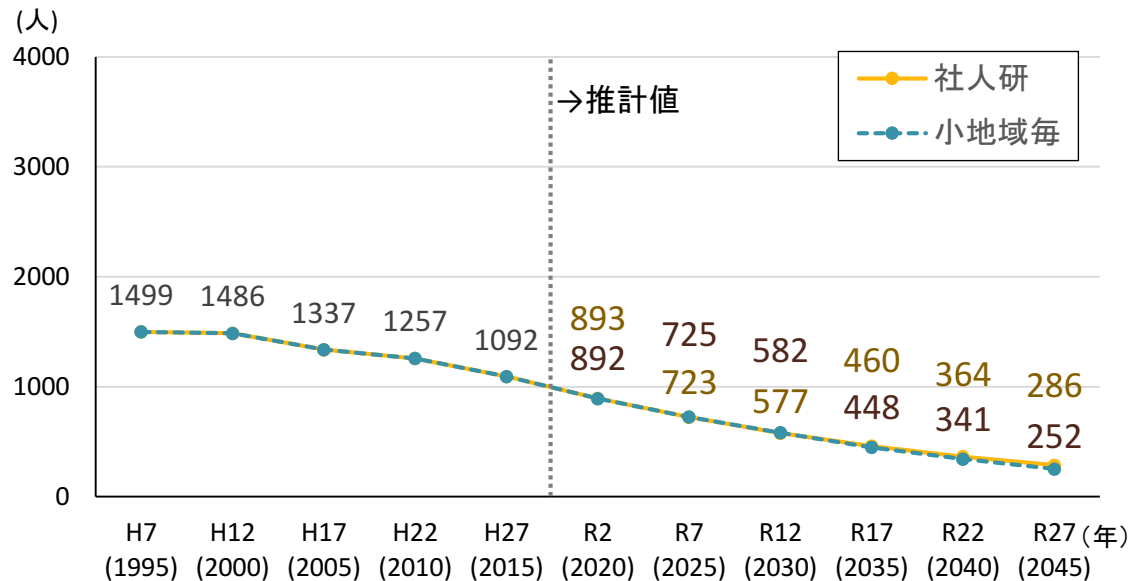


## 紅葉山地区

H27(2015)年人口:1,092人

R22(2040)年人口:341~364人

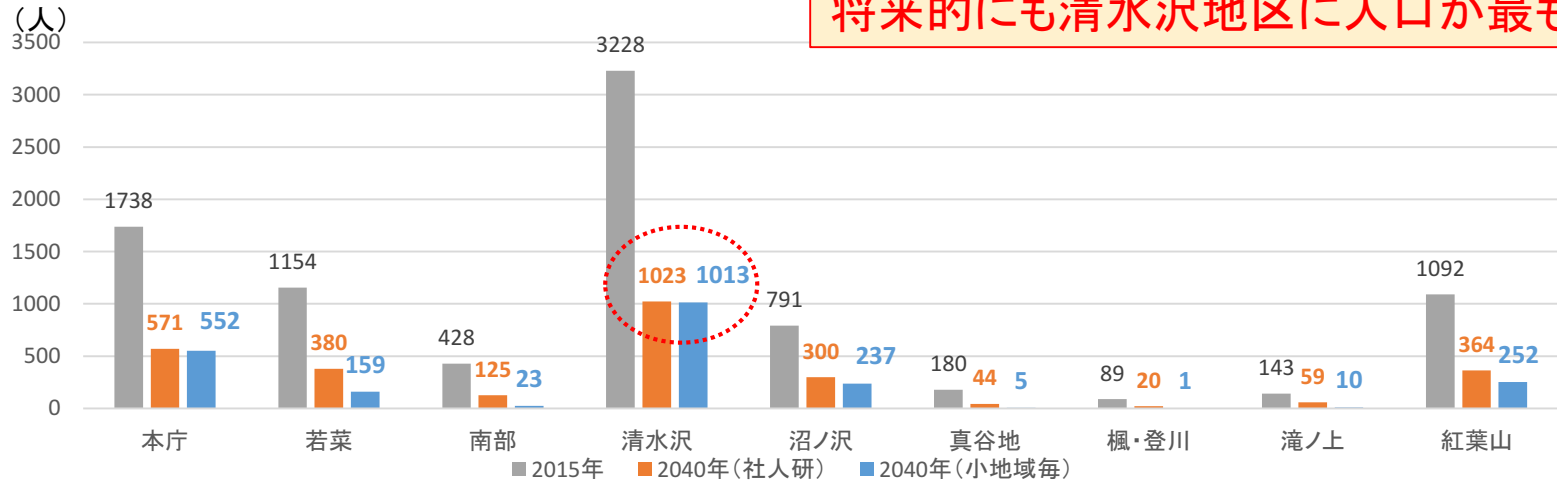
人口減少率:66.7%~68.8%



※人口が少ない地域では、推計精度が粗くなり、推計方法によって結果が大きく変化するため参考値とする。

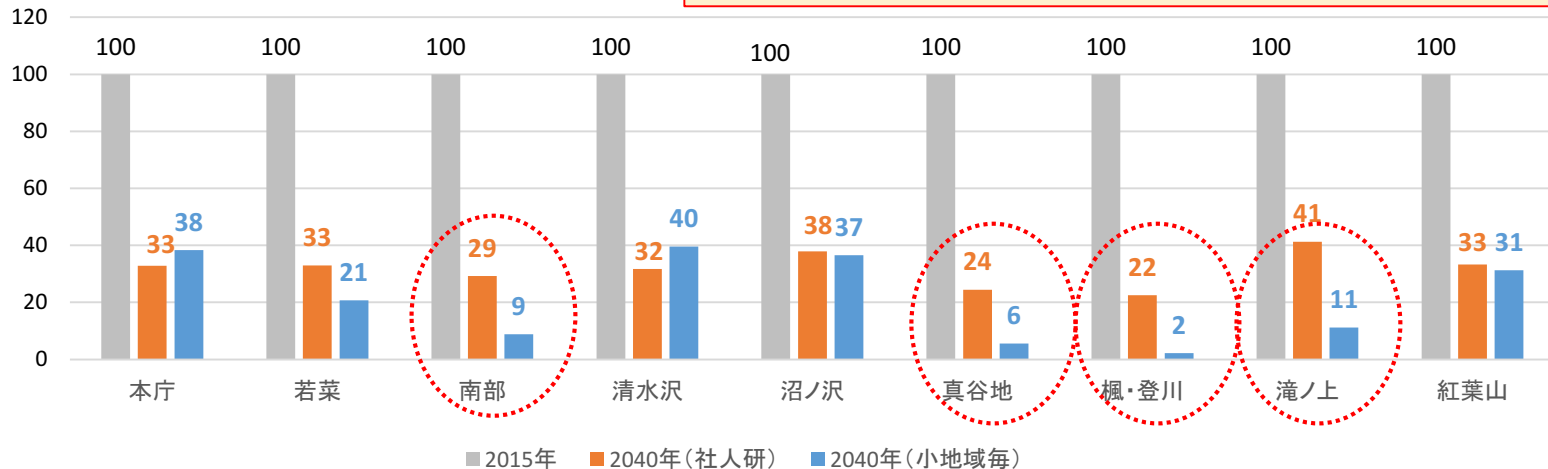
# 【質問1】地区別の将来人口の推計⑦

【図表】地域別将来人口(2040年)の比較



ほとんどの地区で1/3程度に減少  
将来的にも清水沢地区に人口が最も集積

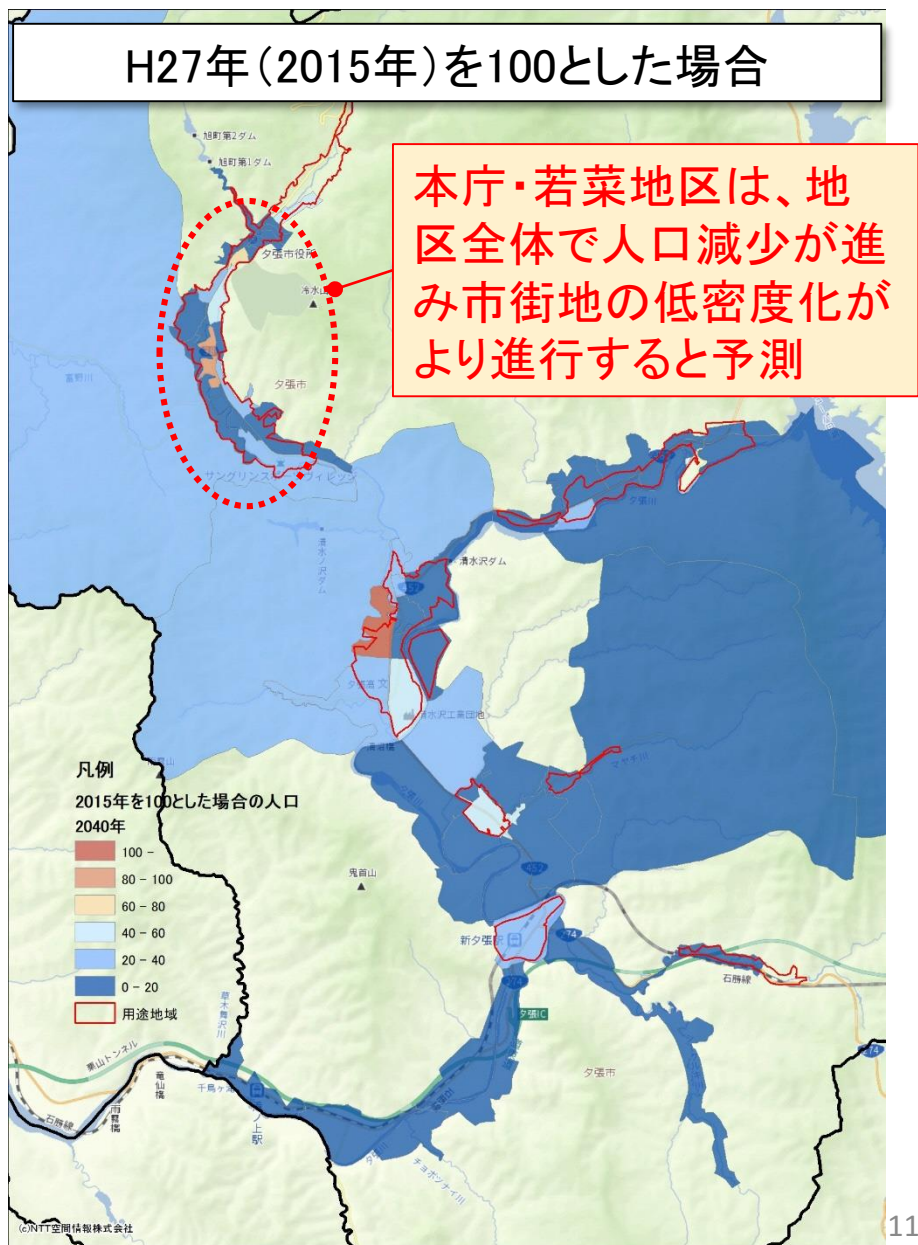
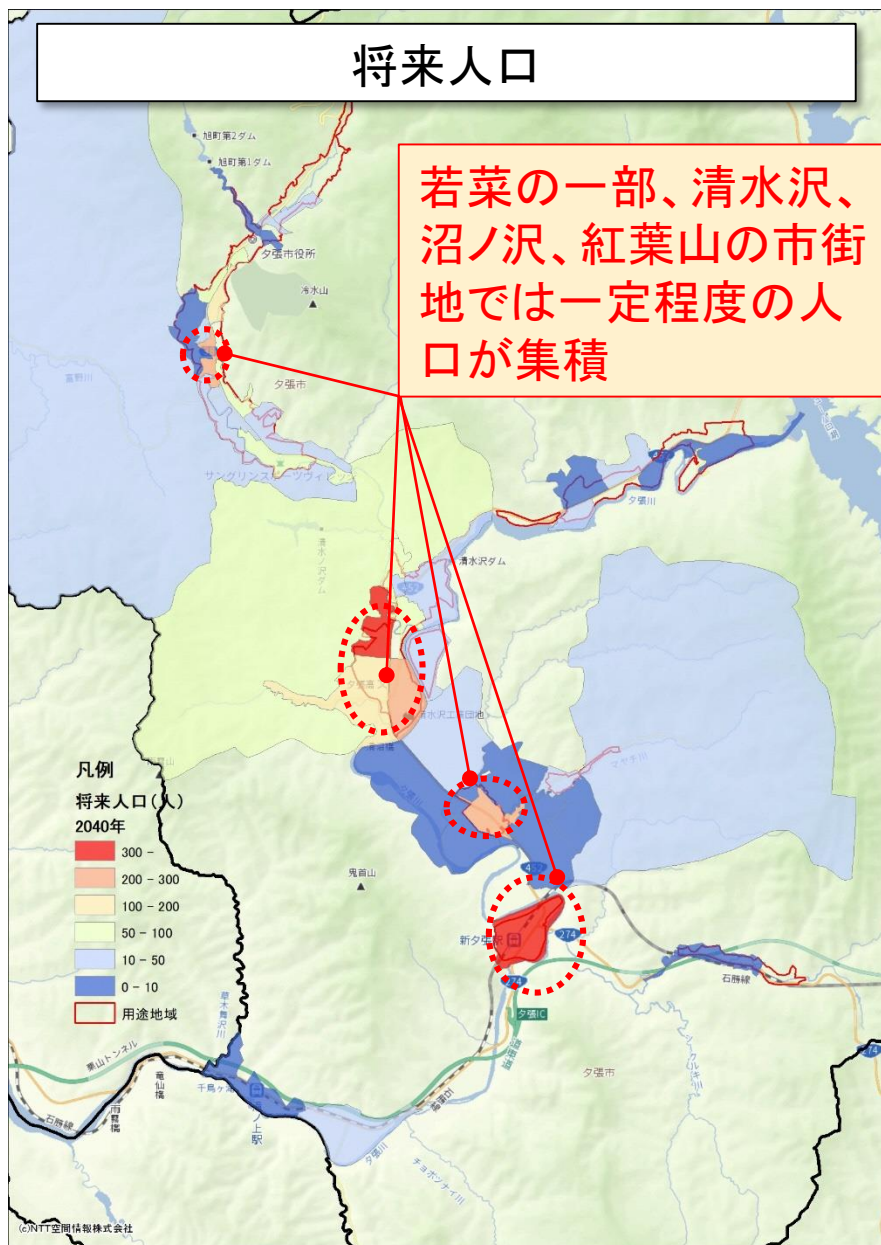
【図表】地域別将来人口(2015年を100とした場合の2040年の人口)の比較



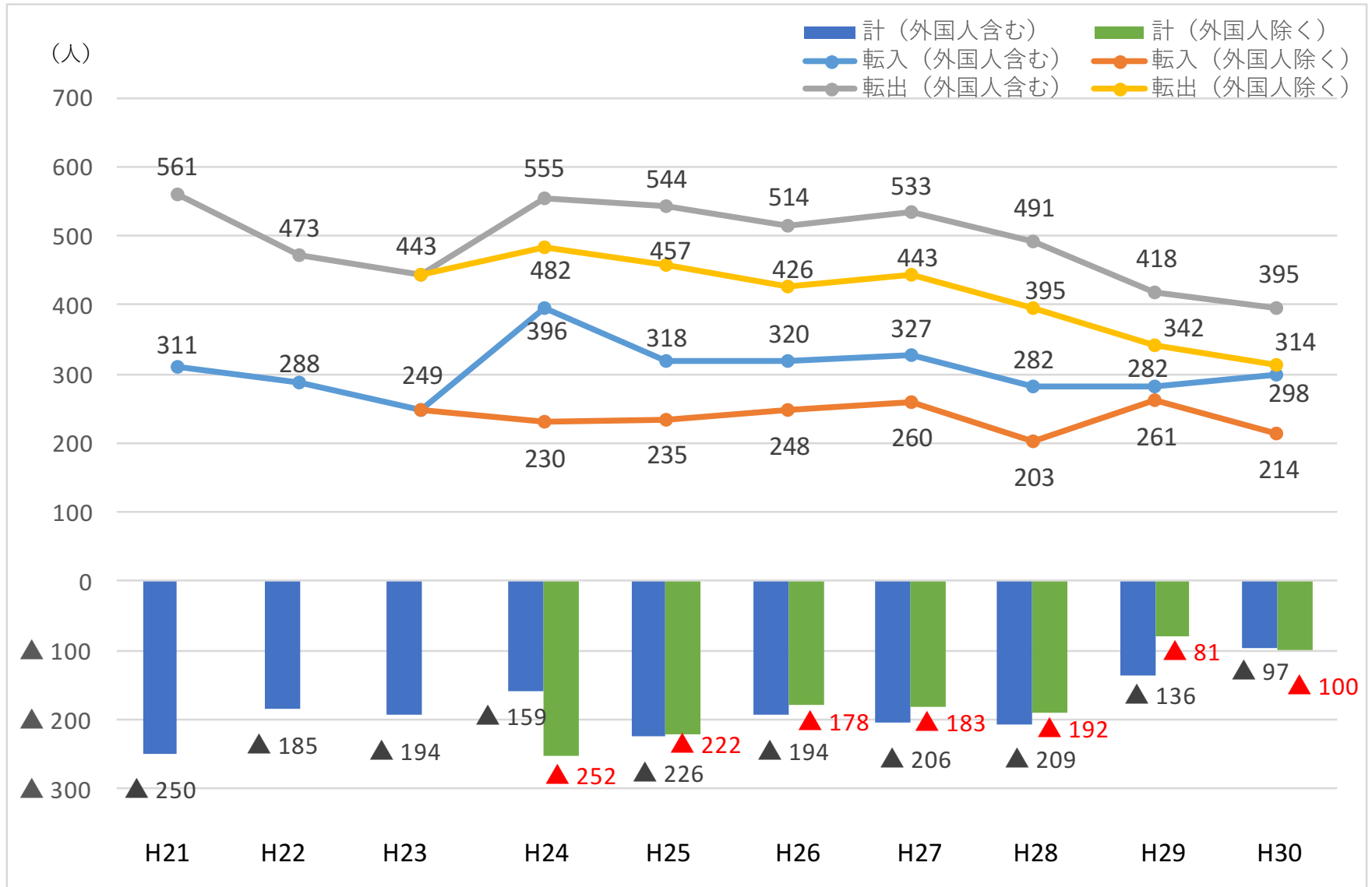
人口の少ない、南部や真谷地、楓・登川、滝ノ上地区での人口減少が激しく進行すると予測

# 【質問1】地区別の将来人口の推計⑧

【R22年(2040年)の将来人口】 ※推計②小地域毎



# 【質問2】社会増減の推移



# 【質問5】第1期総合戦略の検証結果①

## 第1期総合戦略の検証結果

		指標	目標値	実績値	達成率	取組状況（実績・課題等）
【戦略1】若者の定住と子育て支援		40歳未満の市内移住（年間）	40人	—	—	40歳未満の転入者数は概ね横ばい傾向で推移している。
アクションプラン	①若年層・女性向け低家賃賃貸住宅の整備		40戸	62戸	155%	・地区別には、清水沢地区に46戸、本庁・若菜地区に16戸を建設しており地区のコンパクト化に一定程度寄与。 ・建設用地の確保が今後の課題。
	②子育て世帯向け住宅取得・リフォーム支援事業		10件	24件	240%	・新築・中古住宅取得の7割が子育て世帯による取得 ・市外からの転入者による申込が少ないことに対する検討が必要。
	③子育て世帯の公営住宅への入居緩和					緩和要件に該当する世帯の入居実績はなし。
	④子育て支援センターの整備による子育て支援体制の強化					・施設は計画通り整備された。 ・施設供用開始以降に、利用の状況等を鑑み、施設運営方法やソフト事業等について検討する。
	⑤廃校や生活館を活用した地域コミュニティ機能の拡充（集落拠点）					・廃校となった小学校6校全て及び中学校2校が法人等への貸付や譲渡等により活用されている。 ・人口減少及び高齢化により、楓生活館を廃止した。
	⑥空き市営住宅を活用した障がい者自立支援住宅の整備		5戸	2戸	40%	・2戸をサテライト型グループホームとして活用した。 ・市内の事業者に限られ、サテライト型グループホームの設置数に制限があることから、事業の推進が限定的となる。
	⑦遊休市有地を活用したサービス付き高齢者向け住宅の誘致		30戸	0戸	0%	・土地活用方針が未策定のため、具体的な誘致予定地を整理できていない。 ・高齢者が安心・安全に生活できる住環境整備方針が定まっておらず、「サ高住」に対する位置づけが不明確なため、具体的な誘致の動きに至っていない。
	⑧空家バンク制度を活用した不動産の流動化促進					空家実態の把握、情報発信、市内宅建業者との連携が課題。
	⑨認定こども園の整備					令和2年度建設予定。
	⑩子ども達が集う公園整備		新設1 既存3	既存4	67%	・要不要を選別したうえで用途ごとに分類し、使用目的に沿って選出した施設を整備している。 ・市民ニーズの把握、所管部署間の連携、長期的な視点での検討が必要。
	⑪子ども一時預かり機能の強化		2箇所	1箇所	50%	・件数は少ないが利用者ニーズに的確に対応できている。 ・余裕活用型での実施であるため、保育園の入所状況に左右されることが課題。

# 【質問5】第1期総合戦略の検証結果②

## 第1期総合戦略の検証結果

		指標	目標値	実績値	達成率	取組状況（実績・課題等）
【戦略2】新たな人の流れ・交流人口の創出		観光客数	70万人	51万人	73%	観光施設の閉鎖の影響等がある中、石炭博物館・幸福の黄色いハンカチ広場のリニューアル、産業遺産ツーリズム拠点である「清水沢プロジェクト」との連携等により交流人口の拡大を図っており、観光客入込数の減少幅はやや鈍化傾向となっている。
		宿泊者数	11万人	9.8万人	89%	
		関わり人口	1,000人	400人	40%	
アクションプラン	①「活動人口」と「関わり人口」を繋ぐ地域交流プラットフォームづくり					<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の自主的な研修に対する補助制度（地域人材育成事業）の実施、関わり人口となる「夕張Likers!」の創出に向けた取組、新たな観光組織「一般社団法人夕張観光プロモーション」の設立等を行った。</li> <li>・一般社団法人が安定した運用を行うための体制構築が必要。</li> <li>・関わり人口の概念の普及が課題。</li> <li>・関わり人口と活動人口の連携が重要。</li> </ul>
	②みんなの力でつくる「石炭博物館再生プロジェクト」	年間入館者数	3万人	3.2万人	107%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬坑道及び博物館本体の大規模改修及び展示内容のリニューアル、NPO法人による指定管理の導入により、効率的な運営を実施するとともに、市民との協働で博物館をより充実させていくための基盤を形成した。</li> <li>・博物館の運営に関わることでできる人材の不足と炭鉱経験者及び有識者の高齢化が課題。</li> </ul>
	③産業遺産ツーリズム拠点としての「清水沢プロジェクト」	累計来場者数	1万人	4,300人	43%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市が整備した活動拠点を中心として、関係人口と活動人口の交流ゲート機能として、清水沢地区に残る炭鉱関連遺産群のガイドや関係人口の活動支援などを行っている。</li> <li>・地元企業と連携したツアーガイド、SNS等を活用した夕張市の文化財（炭鉱遺産群）の発信を継続し、産業ツーリズムの一角を担っている。</li> </ul>
	④総合スポーツクラブ設置によるスポーツ交流ビジネス創出	新規受入団体	20	13	65%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成31年度4月に総合型地域スポーツクラブが設立された。</li> <li>・クラブの自立（会費・人材など）が課題</li> </ul>
		合宿による宿泊者数	2.6万人	23,486人 (合宿の宿ひまわりの年間利用者数)	90.3%	
	⑤廃校や空き店舗を活用した起業者支援					<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧夕張小学校の空き教室を活用し、衣類販売、母乳育児相談室を開始（創業支援活用）</li> <li>・起業後の支援体制の充実が課題。</li> </ul>
	⑥廃校や遊休施設を活用した合宿誘致の推進・市民の健康増進事業	新規雇用	3名	0名	0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育協会の組織強化を図り、体育施設の指定管理者として事業をスタートさせたが、体育協会等との連携を含めた議論が進んでいない。</li> </ul>
	⑦外部人材を活用した「活動人口」の創出					<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の自主的な研修に対する補助制度（地域人材育成事業）を施行し、個人・団体のスキルアップを推進しているところ。当該制度を活用し、市民団体の研修会や、市外の講師による講演会、また自ら外に出て学ぶ研修などが実施されている。</li> </ul>
	⑧「幸福の黄色いハンカチひろば」再生プロジェクト	年間入館者数	4万人	1.9万人	47.5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示のリニューアル、併設カフェの開設を行った。</li> <li>・毎年来ていただくための継続した取組が必要。</li> </ul>
		雇用	2名	2名	100%	
	⑨桜育樹プロジェクト					<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成19年より（株）ニトリの支援を受け、植樹を行ってきたが、（株）ニトリから管理団体への移行後は年間50本程度の植樹が精一杯で、平成29年をもって新規植樹を中止し、平成19年以降に植樹した桜についても、管理継続を止め、自生管理へと移行することとした。</li> </ul>
⑩空知総合振興局及び管内市町村との広域連携					<ul style="list-style-type: none"> <li>・空知総合振興局及び関係市町と連携し、炭鉱関連遺産（炭鉄港）の日本遺産登録に向けた取組や観光PR等を実施した。</li> <li>・ガイド等の人材育成、受入体制の整備が課題。</li> </ul>	
⑪学生と連携した地域の魅力掘り起こし					<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要施策（黄色いハンカチひろば再生プロジェクト、石炭博物館再生プロジェクト、清水沢プロジェクト）に高校生・大学生を参画させた。また、高校魅力化施策との連携を図り、仮設交通ハブバス予約システムの企画段階において夕張高校生の参画を得て、地域課題という教育資源の魅力掘り起こしを行った。</li> </ul>	

# 【質問5】第1期総合戦略の検証結果③

## 第1期総合戦略の検証結果

		指標	目標値	実績値	達成率	取組状況（実績・課題等）
【戦略3】地域資源を活用した働く場づくり	高齢者や子育てママ資格取得		5名	3名 (子育てママ)	60%	アクションプラン①参照
	ズリ山事業関連雇用		10人	10人	100%	アクションプラン⑤参照
	CBM関連雇用		10人	0人	0%	アクションプラン⑥参照
	障がい者の就労の場		20人	9人	45%	アクションプラン⑦参照
	農業粗生産額		24億円	24.6億円	103%	アクションプラン②参照
アクションプラン	①高齢者や子育てママが働きたいと思う仕事づくり					<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年度に資格取得支援事業を創出。制度の浸透は図られてきているが、子育てママの資格取得は2件である。</li> <li>子育てママの希望就労時間に対応する仕事づくりの創出が課題。</li> </ul>
	②農業者、農協、市の連携による産地力強化					<ul style="list-style-type: none"> <li>H28年度に夕張市農業振興協議会の部会として、若手農業者、農協職員、市職員が構成員となった地域創生部会を立ち上げ、連携の強化を図った。</li> <li>メロンの生産安定対策に係る取組や雇用労働力確保の取組実施等により、農業生産額は順調に推移している。</li> </ul>
	③市有林を活用した薬木産地化への挑戦	薬木植栽面積	24ha	19.26ha	80.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>概ね計画通りに薬木の植栽を実施。</li> <li>薬木植栽地を障がいのある方の就労機会/雇用の場として活用している（林福連携）。</li> </ul>
	④広域連携を通じた森林資源のフル活用・循環利用サイクル確立による雇用創出	新規雇用者数	3名	1名	33.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>茯苓（ブクリョウ）の実証栽培プロジェクトにカラマツ原木を約300m3供給した。</li> <li>薬木植栽地を障がいのある方の就労機会・雇用の場として活用するための準備を実施した。</li> <li>国立研究開発法人森林整備・研究機構林木育種センター北海道育種場と共同試験に関する覚書を締結した。</li> </ul>
	⑤ズリ山（石炭）を活用した稼ぐ防災事業の推進	雇用者数	10名	10名	100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで、新たな雇用者数10名、災害リスクの軽減、市の歳入増（採取料400万円/年、法人事業税等）などの成果を得られているところ。</li> <li>安定的な事業化に向けた支援の継続及び地産地消（石炭）の研究（産学官連携）が必要。</li> </ul>
	⑥炭層メタンガス（CBM）の開発支援やCBMを活用した地場農作物の生産効率化研究	雇用者数	10名	0名	0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産テストの結果、想定よりガス量が少ないため平成30年5月末をもって廃坑とした。</li> </ul>
	⑦障がい者の就労の場確保	新規雇用者数	20名	9名	45%	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハローワーク夕張出張所と連携し、市内の企業等を訪問し、各企業等の状況を聞き取りとともに、障がい者雇用に係る国の助成制度について紹介した。</li> <li>薬草の選別業務について市内の企業と障害福祉サービス事業所を仲介し、作業が軌道に乗るまでの調整を行った。</li> <li>各企業等での雇用は、それぞれの経営状況等に左右されるため、市でできるのは依頼や情報提供にとどまることが課題。</li> </ul>



# 【質問5】第1期総合戦略の検証結果④

## 第1期総合戦略の検証結果

		指標	目標値	実績値	達成率	取組状況（実績・課題等）
【戦略4】夕張の未来を創るプロジェクト		郷土愛教育満足度	80%	—	—	アンケート集計中
		夕張高校への進学希望者率	70%	—	—	アンケート集計中
アクションプラン	①小中高連携による郷土愛教育の推進	実施満足度	80%	—	—	・小・中学校における総合学習において、メロン農家や市内企業・工場等の見学を行い、郷土を深く学ぶ契機とした。また、学習に係る活動費用を補助金として交付している。 ・平成29年度より、スキー学習に係る支援として、リフト代やスキー用具レンタル代の補助を行っている。
	②学習塾と連携した学習意欲向上プロジェクト	参加者満足度	90%	100%	111%	・平成30年度に公設塾「夕張学舎キセキノ」を開設。定期テストや進学試験等の学習サポート、中小企業庁の起業家育成プログラムや海外短期留学参加者向けのオンライン英会話の実施など、学習意欲を向上させる取組を実施している。 ・公設塾を運営できる人材の確保・育成が課題。
	③課題から希望を創る高校魅力化プロジェクト	夕張高校への入学者数	20人	19名 (H31年度)	47.5%	・資格取得、課外活動、入学支度金、海外短期留学などの各種補助金制度を創設。 ・マンツーマンオンライン英会話を実施。 ・公設塾「夕張学舎キセキノ」を開設。
	④ITを活用した既存産業の付加価値化・人材育成					・スクールバスの部活便においてオンライン予約システムを導入。 ・公設塾において、スウェーデンの大学生とオンラインによる英語交流など、外部講師による講演、ゼミをICT機器を活用して遠隔実施。
	⑤石炭産業の歴史と文化映像化・語りべ育成事業	語りべ	20名	20名	100%	・石炭博物館収蔵映像の分類・デジタル化及び有志による市民インタビューと映像化を実施した。 ・H28年度にまちづくり企画室（地域おこし協力隊担当）でボランティアガイド養成講座を実施し、約20名が認定された。 ・炭鉱経験者及び有識者の高齢化が課題。

# 【質問5】第1期総合戦略の検証結果⑤

## 第1期総合戦略の検証結果

		指標	目標値	実績値	達成率	取組状況（実績・課題等）
【戦略5】持続可能なまちづくり （コンパクト化・拠点形成）		南北軸への新規住居創出	100戸	62戸	62%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規住居として、清水沢地区に46戸、本庁・若菜地区に16戸の民間賃貸住宅が建設された。</li> <li>・市営住宅については、政策空き家を設け集約化を図るとともに、建替えと除去を計画的に進めている。</li> </ul>
		交通結節点の構築	1	1	100%	令和2年3月に供用開始となる拠点複合施設に、JR廃線後の路線バスを中心とした交通結節点を設置する予定である。また、拠点複合施設が供用開始になるまでの間、繋ぎの施設として、仮の交通結節点「バスまちスポット」を整備し運営している。
アクションプラン	①都市拠点機能の整備によるコンパクトシティの推進					<ul style="list-style-type: none"> <li>・多世代交流、子どもたちの放課後の居場所及び子育て支援機能、図書機能、公民館機能、交通結節点機能などを持った複合拠点施設を清水沢地区に建設し、R2年3月に供用開始予定。</li> <li>・他地域のコンパクト化に向けた検討が必要。</li> <li>・都市全体の状況が変化してきているため、「夕張市まちづくりマスタープラン」の見直しの検討が必要。</li> </ul>
	②安心の地域医療体制の構築					<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療所の移転改築について、平成30年度に基本計画素案を策定。</li> <li>・診療所の診療科目の充実（H28.4 5診療科→H31.3 8診療科）。</li> <li>・救急出場全件のうち25%、市内分のうち90%（H30.12）を診療所で受入れた。</li> <li>・診療所の移転改築について、病床数や定員等の検討、また現診療所の維持・管理の検討が必要。</li> <li>・初期救急医療体制の整備について、市医師会との連携の強化が必要。</li> </ul>
	③補てん型から利用型の公共交通体系の構築（交通結節点整備・デマンド交通）					<ul style="list-style-type: none"> <li>・南北幹線を軸とした公共交通体系を構築する中で、清水沢地区は拠点複合施設の整備によって交通結節点としての機能を持つこととなっているが、拠点複合施設開設までの間仮設交通結節点「バスまちスポット」を整備し、平成29年9月1日より運用している。</li> <li>・南部及び真谷地においてはデマンド交通、楓・登川及び滝の上方面においてはタクシー乗車料金の補助、スクールバス事業においては予約システム等、新たな交通モードを導入した。</li> <li>・新たな公共交通体系への移行後の利用促進が課題。</li> </ul>
	④公共施設の更なるスリム化と活用ストックの機能充実					<ul style="list-style-type: none"> <li>・財政再建計画、財政再生計画を推進するうえで行った施設の統廃合、市営住宅の再編事業については、人的にも経費削減の面でも効果があったところ。</li> <li>・財源確保と住民の理解が課題。</li> </ul>

## 【参考資料2】

＜第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略＞  
（国の総合戦略の概要）

## 第2期「総合戦略」 <第2期の主な取組の方向性>

### 1. 東京一極集中の是正に向けた取組の強化

①地方への移住・定着の促進



②地方とのつながりを強化

- ・関係人口の創出・拡大
- ・企業版ふるさと納税の拡充

地方移住の裾野を拡大

### 2. まち・ひと・しごと創生の横断的な目標に基づく施策の推進

①多様な人材の活躍を推進する

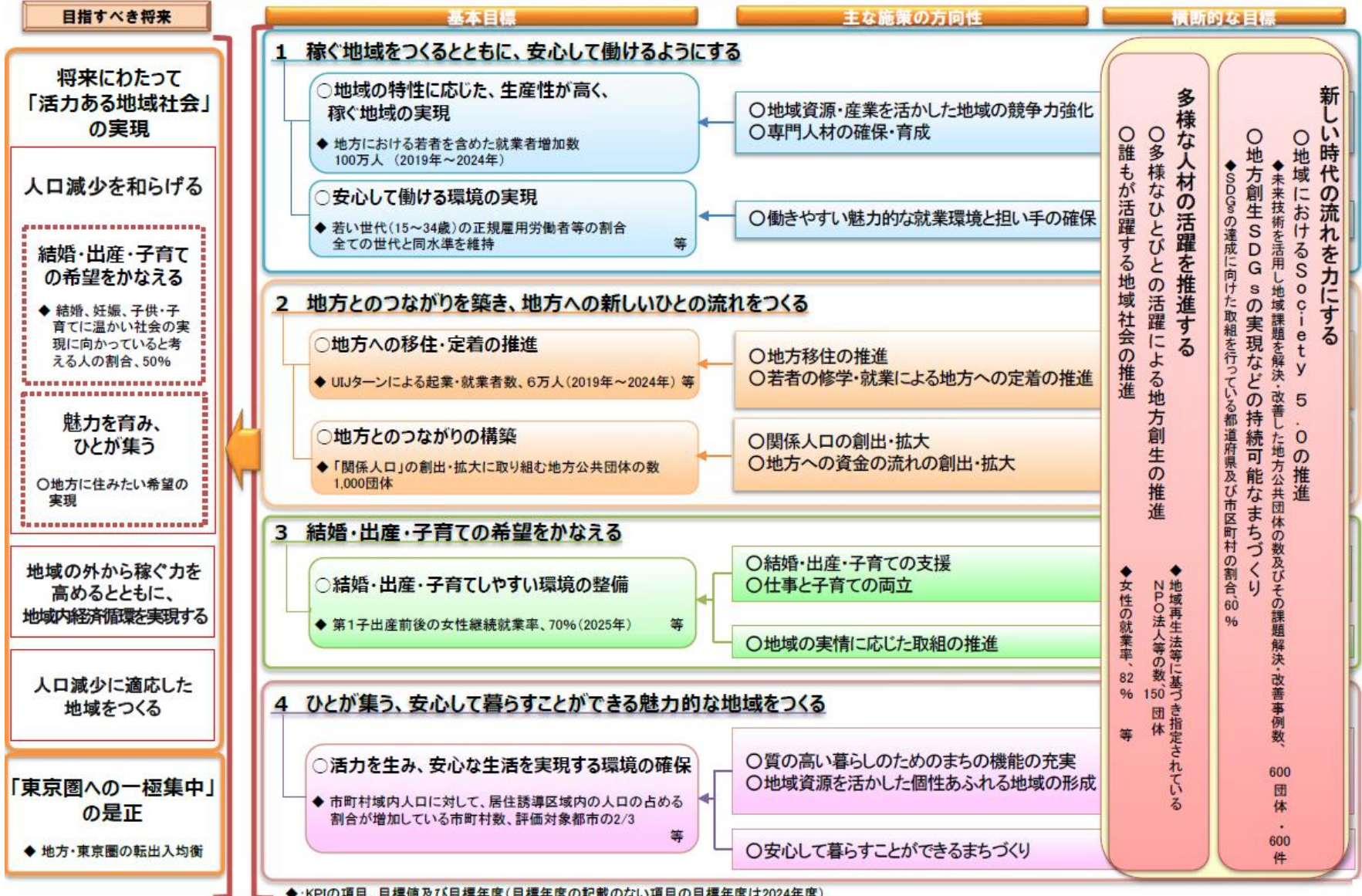
- ・多様なひとびとの活躍による地方創生の推進 等

②新しい時代の流れを力にする

- ・地域におけるSociety 5.0の推進 等

# 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略(令和元年12月20日)概要②

## 第2期「総合戦略」 <第2期「総合戦略」の政策体系>



◆:KPIの項目、目標値及び目標年度(目標年度の記載のない項目の目標年度は2024年度)

# 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略(令和元年12月20日)概要③

## 第2期総合戦略の政策体系と施策等

基本目標	主な施策の方向性	主な施策	具体的な施策
<b>1 稼ぐ地域をつくるとともに、安心して働けるようにする</b>			
1-1 地域の特性に応じた、生産性が高く、稼ぐ地域の実現	(1) 地域資源・産業を活かした地域の競争力強化	①地域企業の生産性革命の実現	設備投資への支援、特例税制、IT導入や販路開拓等への支援、経営指導等
		②地域経済を牽引する企業に対する集中的な支援	地域の中堅・中小企業のうち、「承認地域経済牽引事業者」を中心として、海外展開や高付加価値化事業に対する重点的な支援
		③農林水産業の成長産業化	・農業の生産コスト低減、6次産業化や農泊等の複合的な経営の推進、生産性向上に向けたスマート農業の推進 ・林業の集積・集約化の推進、林業イノベーションの推進、多様な担い手の確保・育成、高付加価値化、新たな木材需要の創出、「森林サービス産業」の創出・推進、森林の多面的機能の維持・向上
		④地域の魅力のブランド化と海外の力の取り込み	・地域商社やDMOの育成・支援、地域ビジネス人材の地域展開の促進 ・地域資源を活用した産業の支援（観光業との連携）、海外からの投資誘致
		⑤継続的な地域発イノベーション等の創出	地域資源を活用したイノベーションエコシステムの構築、産学官連携による地域密着型事業の立ち上げ、地域エネルギーシステムの構築、未来技術の社会実装、シェアリングエコノミー等の促進
		⑥地域産業の新陳代謝促進と活性化	・地域における起業と移住への支援 ・事業承継の支援、事業再生の支援
		⑦地域金融機関等との連携による経営改善・成長資金の確保等	官民一体となったリスク性資金供給の推進
1-2 安心して働ける環境の実現	(2) 専門人材の確保・育成	人材のマッチング支援	プロフェッショナル人材戦略拠点の拡充、地域金融機関や商工会議所等との連携
	(1) 働きやすい魅力的な就業環境と担い手の確保	・働きやすい魅力的な就業環境と担い手の確保 ・多様な働き方の実現	・若者雇用対策や正社員化・待遇改善など職場の魅力向上、女性の活躍に向けた意識改革、女性・高齢者・障がい者等の就労支援、人材の掘り起こし ・テレワークや兼業・副業等、多様な働き方の推進
<b>2 地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる</b>			
2-1 地方への移住・定住の推進	(1) 地方移住の推進	①地方移住の推進	起業と移住の支援、地方の中小企業等とのマッチング、農地付き空き家の取得推進、地方の魅力発信、東京出身者の1ターン支援
		②地方移転の推進	サテライトオフィス開設・誘致の加速
	(2) 若者の修学・就業による地方への定着の推進	①地方大学の振興等による地域産業の担い手づくり	地元企業でのインターンシップ参加促進
2-2 地方とのつながりの構築	(1) 関係人口の創出・拡大	②高等学校の機能強化等	「ふるさと教育」等による地域に誇りを持つ人材の育成推進、地域と高等学校の連携・協働、地域留学の推進、専門高校等における実践的な職業教育の推進、早い段階からの職業意識の形成
		①関係人口になるきっかけづくり・土壌づくり	・受入地域における中間支援組織等の育成・支援 ・地方の暮らし体験（農泊、子供の農山漁村体験、地域留学等）の促進 ・多様な形態での雇用のマッチング支援 ・既存住宅の流通促進による二地域居住の推進
	(2) 地方への資金の流れの創出・拡大	②受入地域における取組	関係人口のコーディネート・相談体制の構築支援、取組事例の深化と横展開、トップマネジメントによる支援体制
		・企業版ふるさと納税	・税額控除割合の引き上げや手続きの簡素化等の見直しの実施 ・企業と地方公共団体のマッチング支援等
		・ふるさと納税	引き続き、積極的な活用を図る

# 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略(令和元年12月20日)概要④

基本目標	主な施策の方向性	主な施策	具体的な取組
<b>3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる</b>			
3-1 結婚・出産・子育てしやすい環境の整備	(1) 結婚・出産・子育ての支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援</li> <li>・子育てや教育にかかる費用負担の軽減、待機児童の解消</li> <li>・若い世代の経済的基盤の安定</li> <li>・子育てに温かい社会づくり・機運の醸成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「子育て世代包括支援センター」の整備、周産期医療体制の確保</li> <li>・幼児教育・保育の無償化、低所得者世帯に対する高等教育の無償化</li> <li>・保育所等の整備と保育人材の確保</li> <li>・若者・非正規雇用対策等の推進</li> <li>・結婚の希望をかなえる取組、ライフデザインセミナー、男性の家事育児参画促進セミナー等の取組の支援</li> </ul>
	(2) 仕事と子育ての両立	①仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男性の育休取得の促進、長時間労働の見直し、テレワークの導入等による柔軟な働き方の普及・促進等</li> </ul>
		②女性活躍の推進	積極的に取り組む企業・地方公共団体の支援
(3) 地域の実情に応じた取組（地域アプローチ）の推進		「少子化対策地域評価ツール」の整備・活用促進、「職住育近接のまちづくり」等の取組の推進	
<b>4 ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる</b>			
4-1 活力を生み、安心な生活を実現する環境の確保	(1) 質の高い暮らしのためのまちの機能の充実	①魅力的な地方都市生活圏の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市のコンパクト化と周辺等の交通ネットワーク形成</li> <li>・地域交通の維持・確保</li> </ul>
		②魅力的な集落生活圏の形成（「小さな拠点」の形成等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種生活サービス機能が一定のエリアに集約され、生活圏内外をつなぐ交通ネットワークが確保された「小さな拠点」の形成促進</li> <li>・地域住民による地域運営組織の形成促進</li> </ul>
		③国際競争力強化による魅力的な都市の形成	地方経済のコアとなる都市の発展
		④地域間連携による魅力的な地域圏の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広域連携や経済圏レベルでの連携の促進</li> <li>・連携中枢都市圏や定住自立圏の取組の深化</li> </ul>
	(2) 地域資源を活かした個性あふれる地域の形成	①地域資源を活用した農山漁村（むら）づくり	農泊や農福連携、ジビエの利活用などの取組の推進
		②観光地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光地域づくり法人の育成、地域資源を活かしたコンテンツづくりの推進、戦略的な訪日プロモーション</li> <li>・キャッシュレス対応、多言語対応、無料Wi-Fi整備等の受入環境整備の推進</li> </ul>
		③文化によるまちづくり	文化財の保全と活用、魅力発信
		④スポーツ・健康まちづくり	スポーツツーリズムの推進、スポーツ施設の有効活用の推進
		⑤地域のエネルギー資源を活用したまちづくり	地域のエネルギー資源を活用した取組の推進
	(3) 安心して暮らすことができるまちづくり	①医療・福祉サービス等の機能の確保	地域包括支援システム構築の推進、スマートウェルネス住宅整備の支援
		②地域防災の確保	防災まちづくり、地域エネルギーシステムの構築、消防団や自主防災組織等の充実・強化、ICTの利活用
		③地域の交通安全の確保	生活道路や通学路の安全対策

# 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略(令和元年12月20日)概要⑤

基本目標	主な施策の方向性	主な施策	具体的な取組
<b>【横断的な目標1】多様な人材の活躍を推進する</b>			
横1-1 多様なひとびとの活躍による地方創生の推進	(1) 一人ひとりが魅力づくりの担い手となる地方創生		人材のマッチング支援、民間資金の活用促進
	(2) 地方公共団体等における多様な人材の確保		専門人材の確保・育成支援
	(3) 地域コミュニティの維持・強化		地域運営組織の活動支援、エリアマネジメント活動の推進
横1-2 誰もが活躍する地域社会の推進	(1) 誰もが居場所と役割を持つ地域社会の実現	①新たな全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」の推進強化	全世代を対象とした「生涯活躍のまち」の推進
		②官民連携による女性、高齢者、障害者、就職氷河期世代の方々等の新規就業及び社会参加の促進等	支援対象者の掘り起こし、企業の職場環境改善、マッチングなどの取組の促進
	(2) 地域における多文化共生の推進	③地方就労・自立支援事業等を通じた「活躍推進型就労」の展開	地方就労・自立支援事業の推進、女性活躍の推進、障害の特性に応じた就労支援・農福連携等
<b>【横断的な目標2】新しい時代の流れを力にする</b>			
横2-1 地域におけるSociety5.0の推進	(1) 地域における情報通信基盤等の環境整備	①5Gなどの情報通信基盤の早期整備	5G基地局や光ファイバ等のICTインフラ整備、5G利活用促進
		②デジタル人材の育成・確保	デジタル専門人材の地方公共団体への派遣
		③データ活用基盤の整備	オープンデータ活用の促進
	(2) 未来技術の活用による地域課題の解決、地域の魅力向上	①農林水産	ロボット、AI、IoT等の活用による生産性の向上や安定生産を可能とするスマート農林水産業の推進
		②サービス産業	多言語音声翻訳、AIチャットボット、キャッシュレス決済等の推進による、観光振興等を通じたサービス産業の活性化
		③教育	EdTech、遠隔教育、STEAM教育等の推進による教育の質の維持・向上
		④生活	サテライトオフィス・テレワークの推進
	⑤医療	オンライン診療の普及推進、遠隔医療の推進	
	⑥交通	自動運転、MaaS等の新たなモビリティサービス、ドローンを活用した配送サービス等の推進	
	⑦公共・社会基盤	効率的なインフラ維持管理や地域防災の強化、官民共同利用型キャッシュレス決済基盤の構築	
横2-2 地方創生SDGsの実現などの持続可能なまちづくり			モデル事業形成の支援、地方公共団体による地域事業者等を対象にした登録・認証制度の展開、事業評価手法の構築、近隣地域等と地域資源を補完する「地域循環共生圏」の創造、地域課題の解決を図る中小企業等の取組の支援



## 【参考資料3】

＜市民アンケート結果（速報版）＞

# (1)市民アンケートの対象者

	①市民 アンケート	②通勤者 アンケート	③高校生 アンケート		④中学生 アンケート
対象	夕張市内に居住する18歳以上の市民	市内の事業所に市外から通勤して勤務している就業者	・夕張高校に通学する生徒65名	・夕張中学校を卒業後、市外の高校に通学している生徒24名	夕張中学校生徒119人(3学年)
配布・回収方法	郵送配布 郵送回収	各事業所を通じて配布・回収	高校を通して配布・回収	郵送配布 郵送回収	中学校を通して配布・回収
配布数	1,000人	250人	65票	40票	103票
回収数	310人	146人	56票	11票	89票
回収率	31.0%	58.4%	86.2%	27.5%	86.4%

※ 数字は令和2年1月9日時点のもの  
(最終版の回答数は更に増える予定)

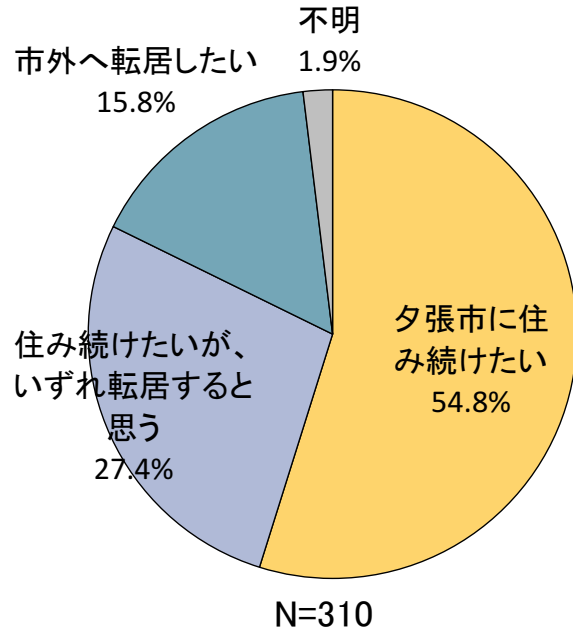
## (2)市民の居住意向

### ■年代別にみた今後の居住意向

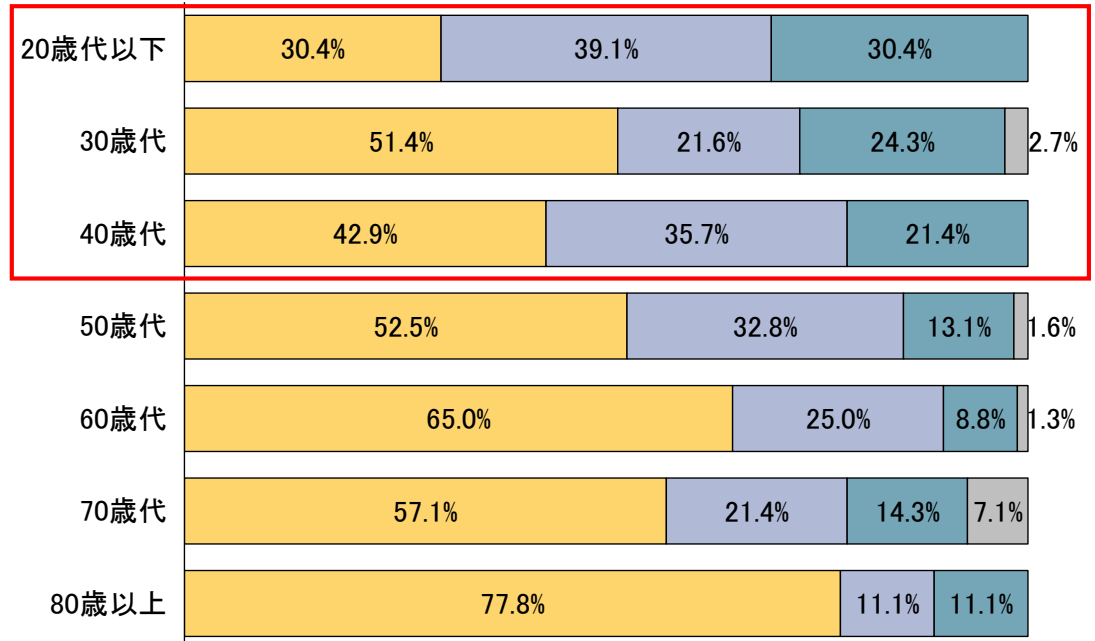
- ・「夕張市に住み続けたい」が約55%、「夕張市に住み続けたいが、いずれ市外へ転居すると思う」が約27%を占める。
- ・20～40歳代では「夕張市に住み続けたい」の割合が全体より少なく、「市外へ転居したい」の割合が全体より多くなっている。

### 【居住意向】

### 【年代別集計】



- 夕張市に住み続けたい
- 夕張市に住み続けたいが、いずれ市外へ転居すると思う
- 市外へ転居したい
- 不明



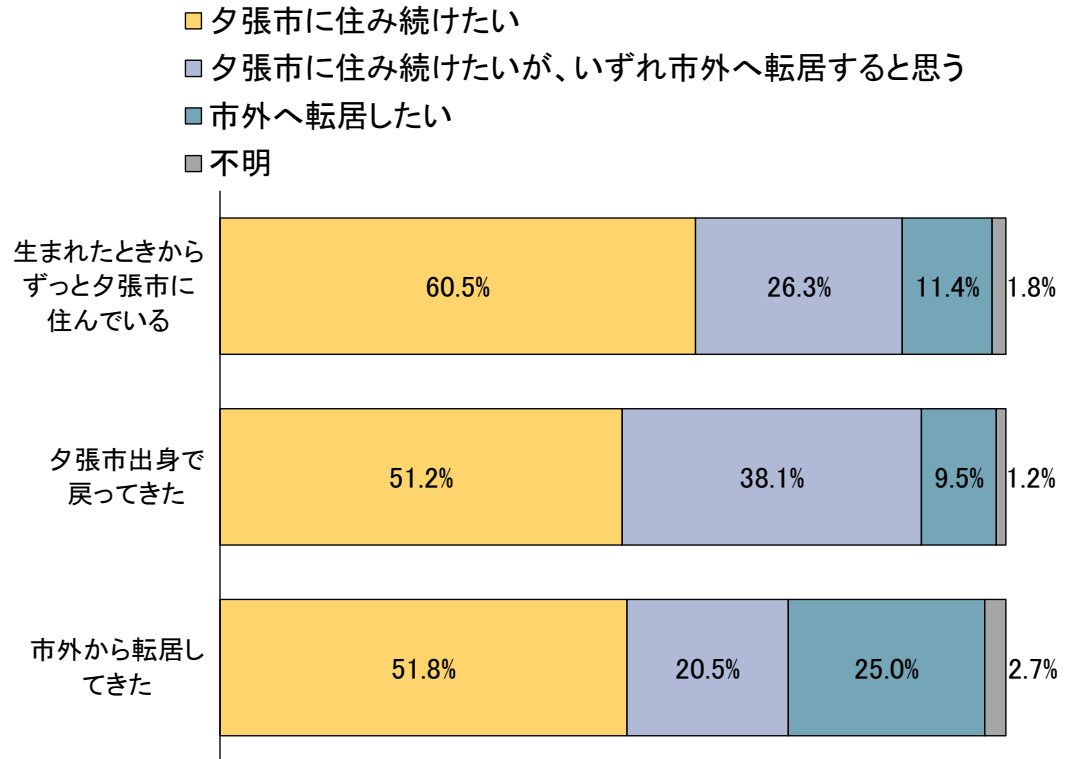
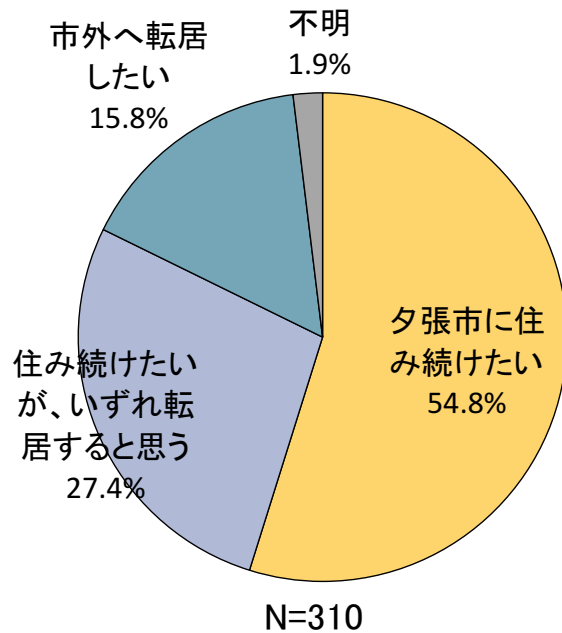
## (2)市民の居住意向

### ■ 居住歴別にみた今後の居住意向

・生まれたときから夕張市に住んでいる方は、夕張市への居住意向は強いが、**市外で居住経験のある方が「夕張市に住み続けたい」割合が低い。**

#### 【居住意向】

#### 【居住歴別集計】

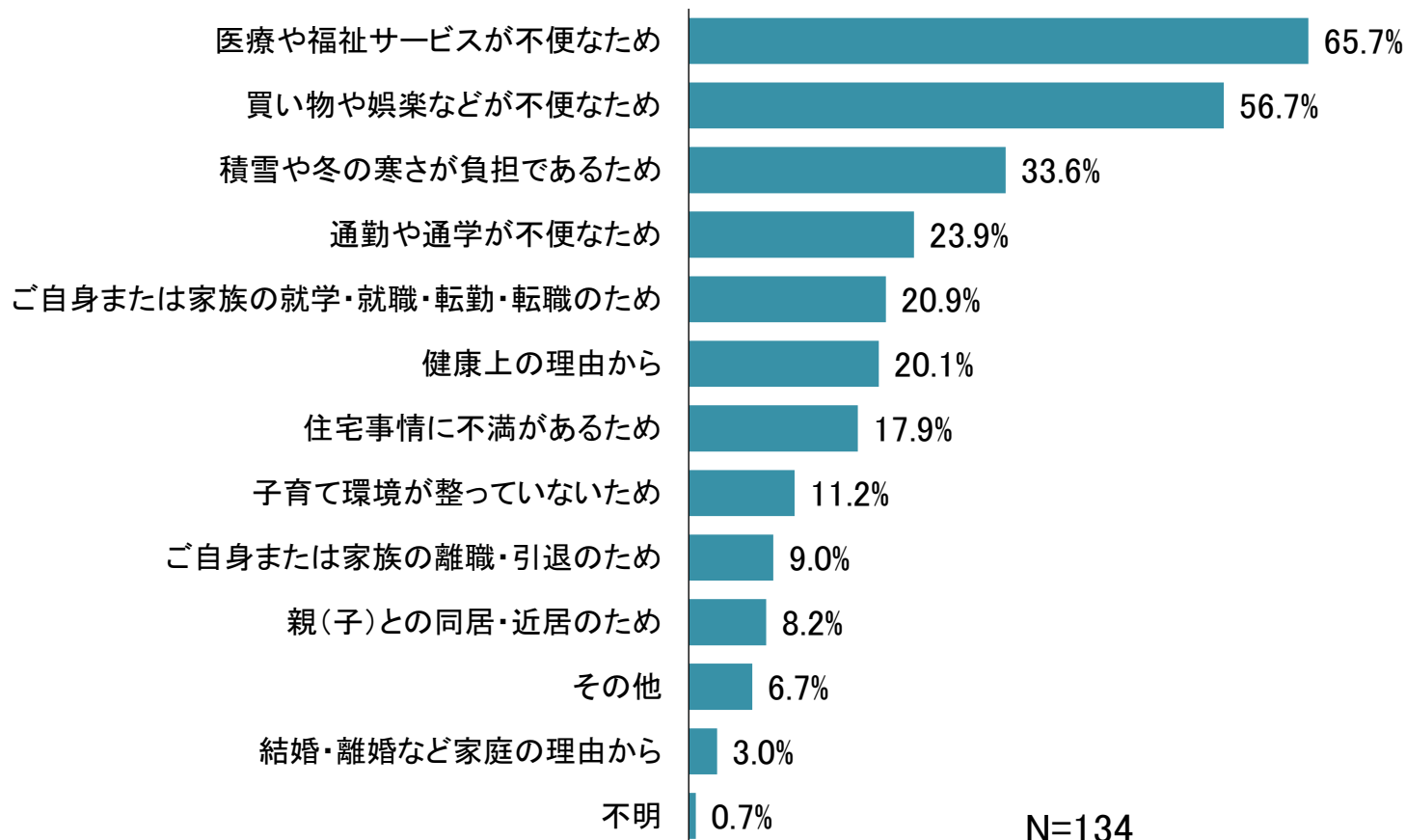


## (2)市民の居住意向

### ■市外に転居したい理由

・「医療や福祉サービスが不便なため」が約66%と最も多く、次に「買い物や娯楽などが不便なため」が約57%となっており、2項目が突出している。

【市外へ転居するまたは転居したい理由】 ※複数回答のため合計は100%にならない



N=134

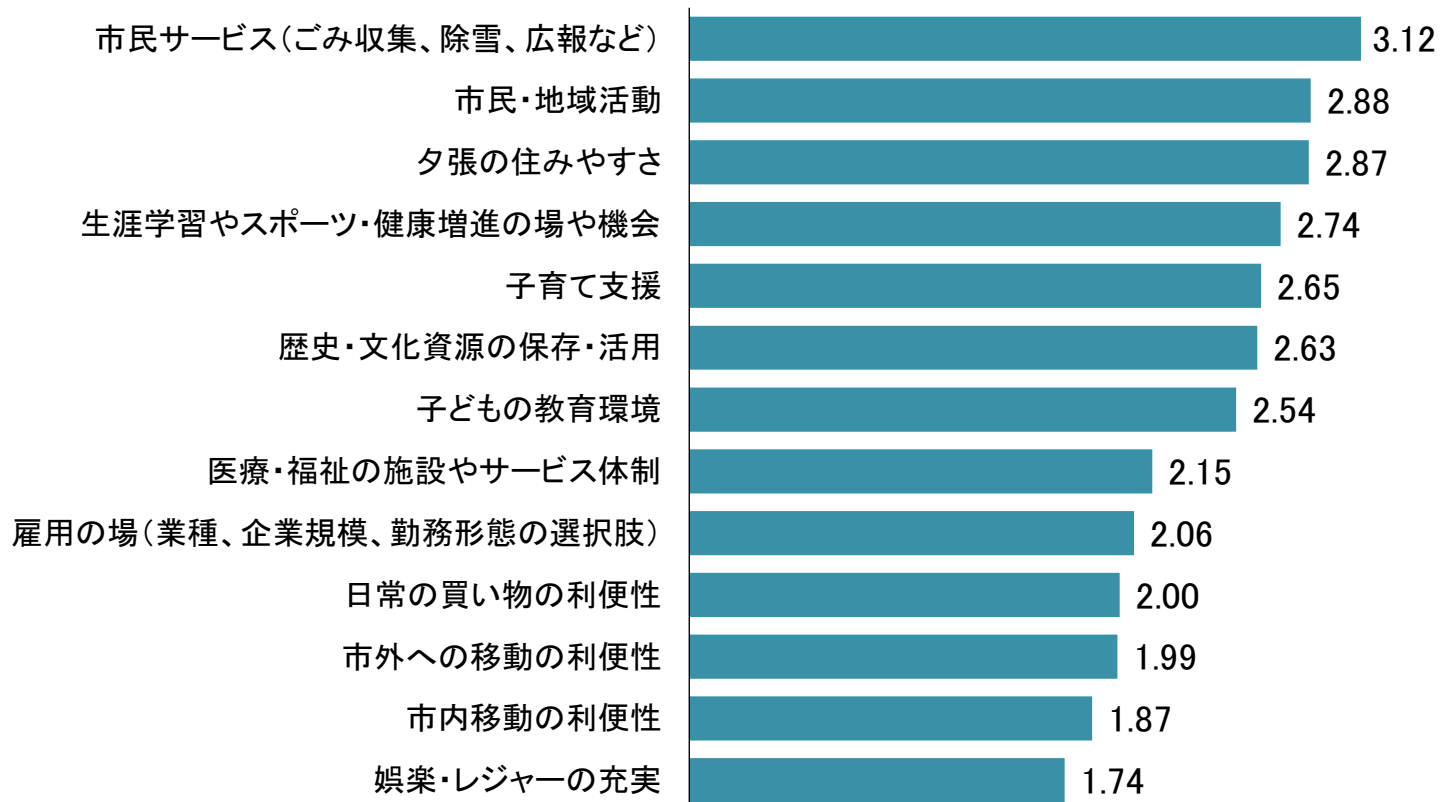
# (3)まちの満足度

## ■まちの満足度

- ・「市民サービス(ごみ収集、除雪、広報など)」が最も高く、唯一3.0を超える。
- ・「娯楽・レジャーの充実」、「市内移動の利便性」、「市外への移動の利便性」、「日常の買い物の利便性」は2.0以下となっており、満足度が低い。

### 【夕張のまちに対する満足度】

※満足=5、やや満足=4 どちらとも言えない=3 やや不満=2 不満=1とした場合の平均点

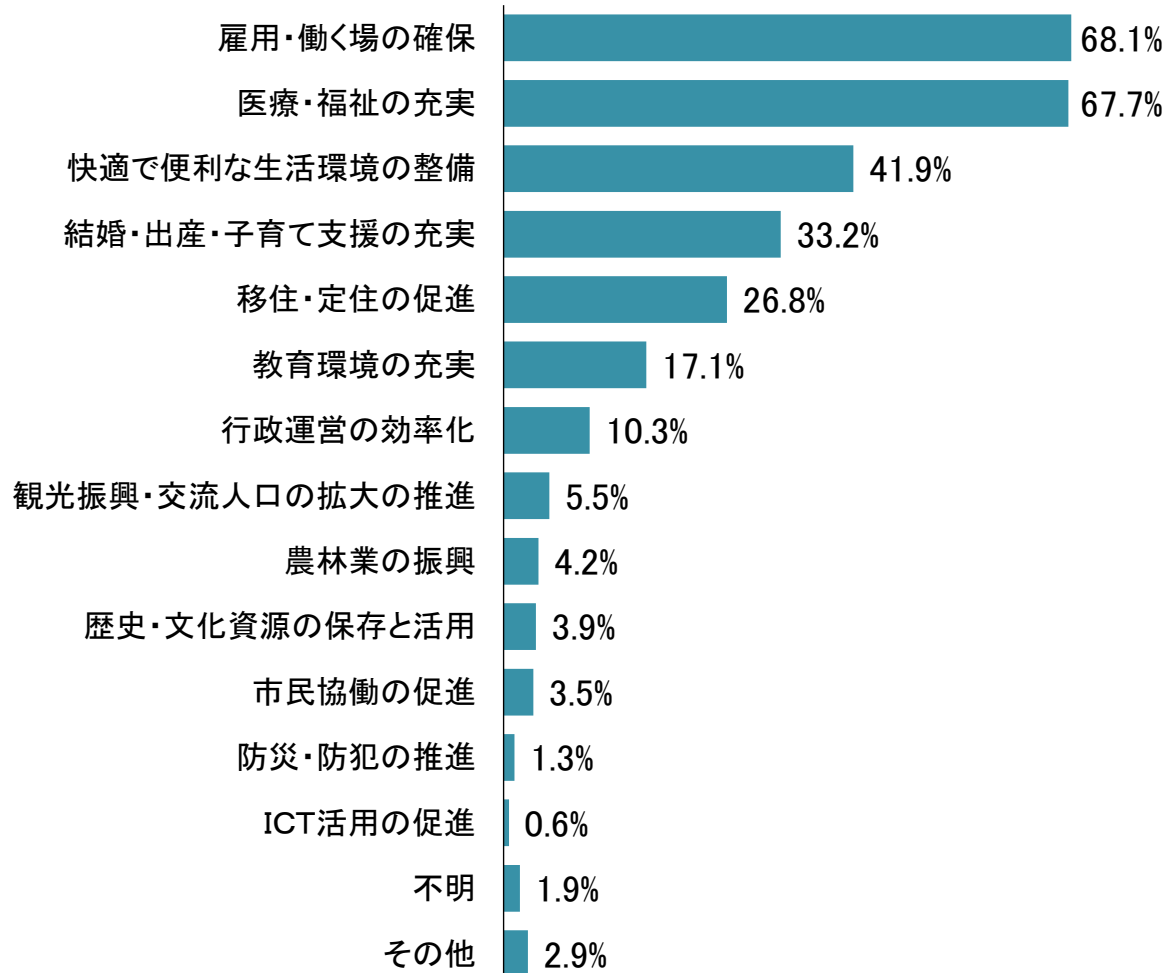


## (4) 今後のまちづくりについて

### ■ 人口減少を克服するために、市が優先的に取り組むべき施策

・「雇用・働く場の確保」が68.1%と最も高く、「医療・福祉の充実」が67.7%と2項目が突出している。

【人口減少を克服するための優先すべき政策分野】 ※複数回答のため合計は100%にならない

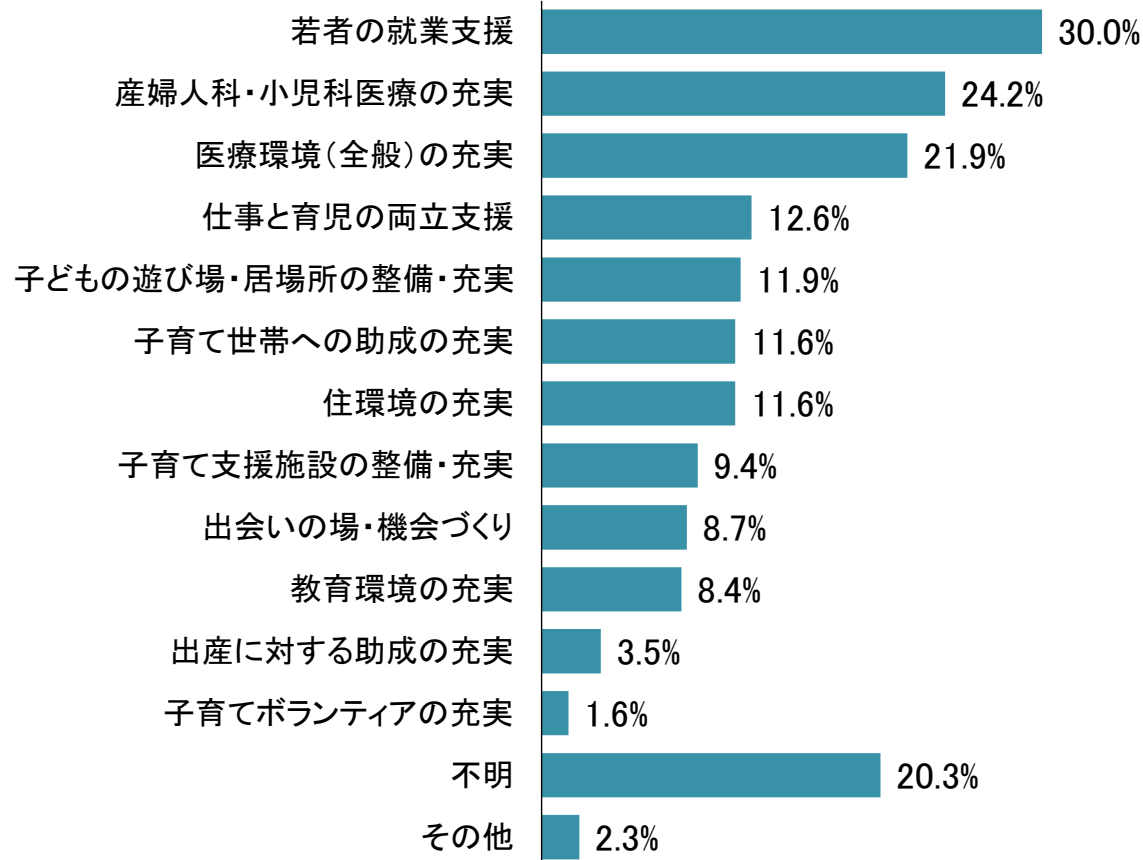


## (4) 今後のまちづくりについて

### ■ 結婚・出産・子育て支援のために、市が優先的に取り組むべき施策

・「若者の就業支援」が30.0%と最も高く、「産婦人科・小児科医療の充実」、「医療環境(全般)の充実」が20%を超えている。

【結婚・出産・子育て支援のため優先すべき政策分野】 ※複数回答のため合計は100%にならない



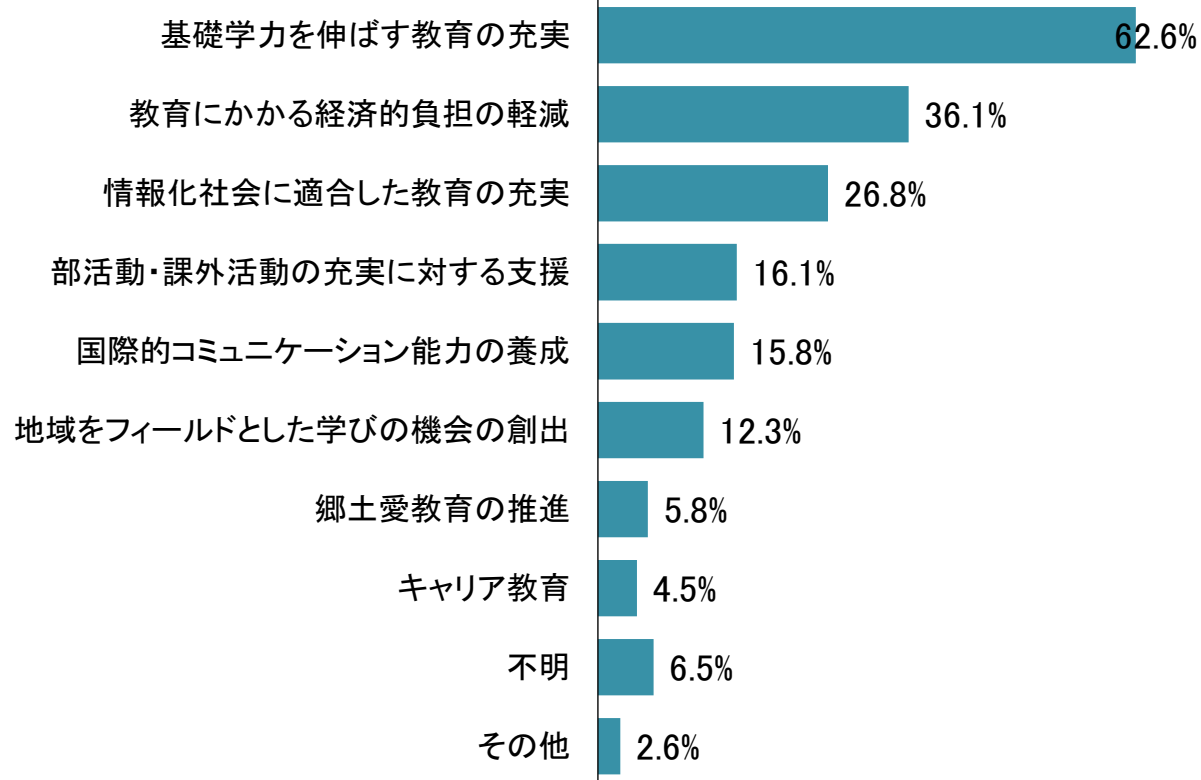


## (4)今後のまちづくりについて

### ■学校教育の充実のために、市が優先的に取り組むべき施策

- 「基礎学力を伸ばす教育の充実」が62.6%と最も高く、「教育にかかる経済的負担の軽減」が36.1%と次に多い。

【学校教育の充実のため優先すべき政策分野】 ※複数回答のため合計は100%にならない

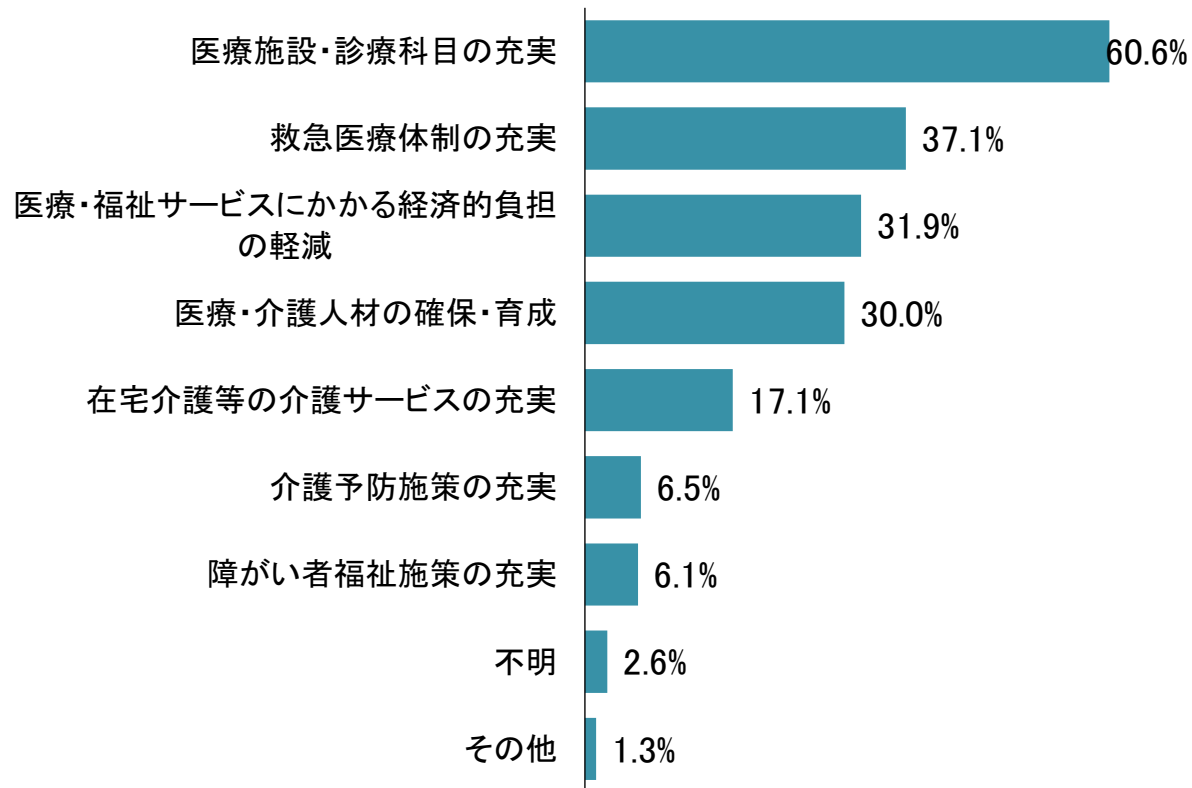


## (4)今後のまちづくりについて

### ■医療・福祉の充実のために、市が優先的に取り組むべき施策

・「医療施設・診療科目の充実」が60.6%と最も高く、「救急医療体制の充実」が37.1%と次に多い。

【医療・福祉の充実のため優先すべき政策分野】 ※複数回答のため合計は100%にならない

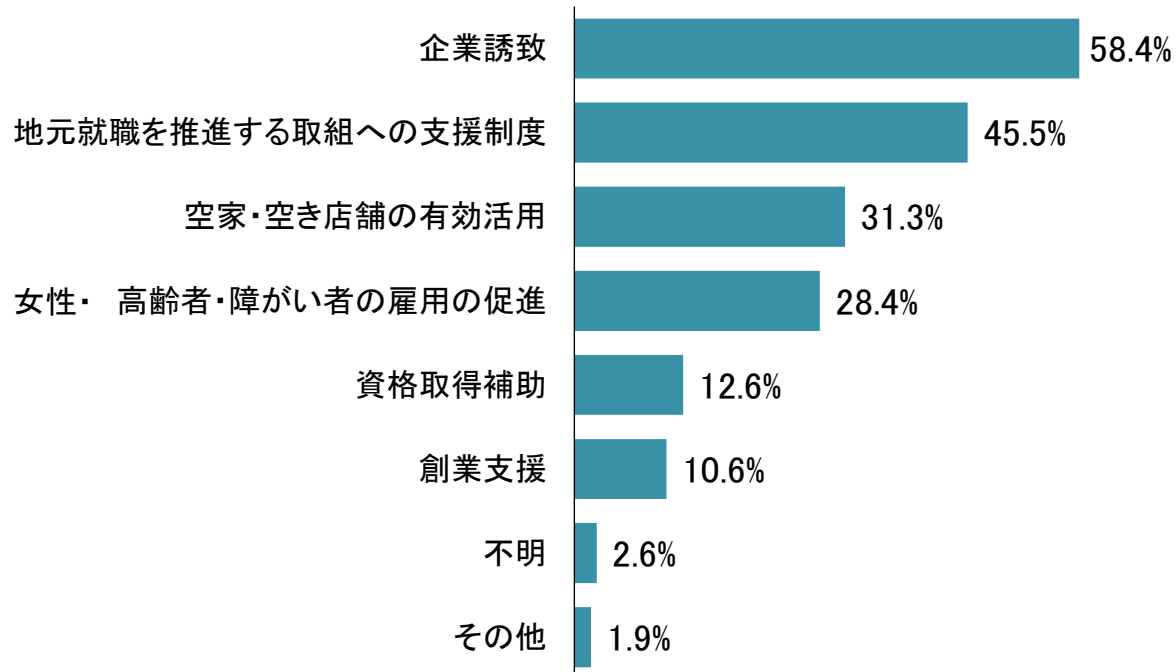


## (4)今後のまちづくりについて

### ■雇用・働く場の確保のために、市が優先的に取り組むべき施策

・「企業誘致」が58.4%と最も高く、「地元就職を推進する取り組みへの支援制度」が45.5%と次に多い。

【雇用・働く場の確保のため優先すべき政策分野】 ※複数回答のため合計は100%にならない

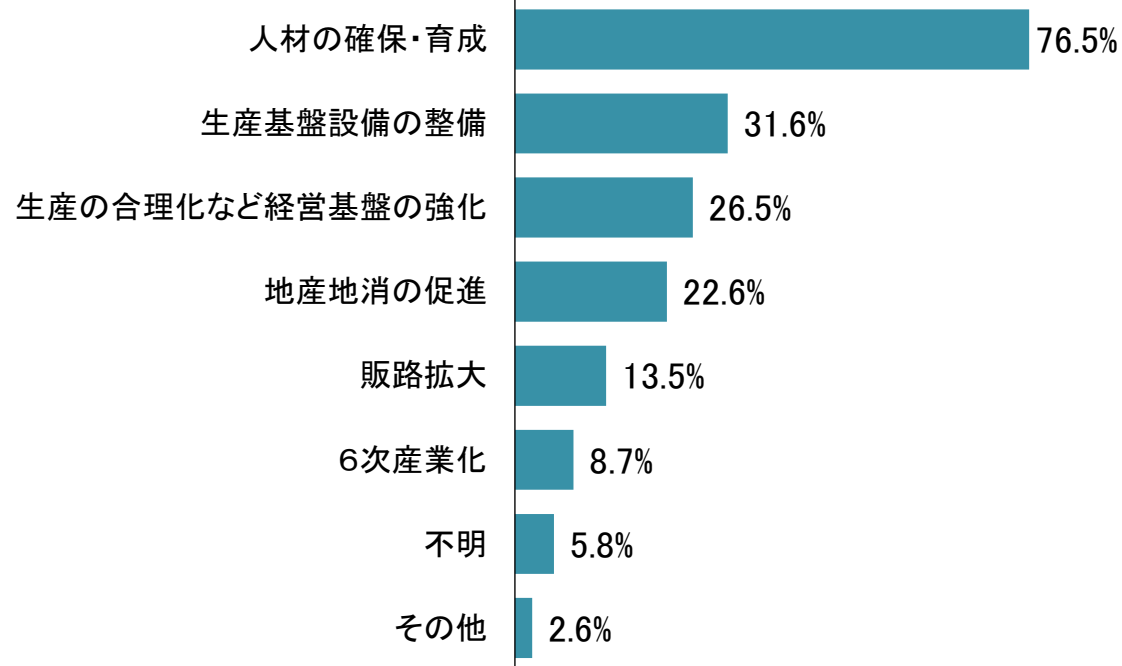


## (4)今後のまちづくりについて

### ■農林業の振興のために、市が優先的に取り組むべき施策

・「人材の確保・育成」が76.5%と最も高い。

【農林業の振興のため優先すべき政策分野】 ※複数回答のため合計は100%にならない

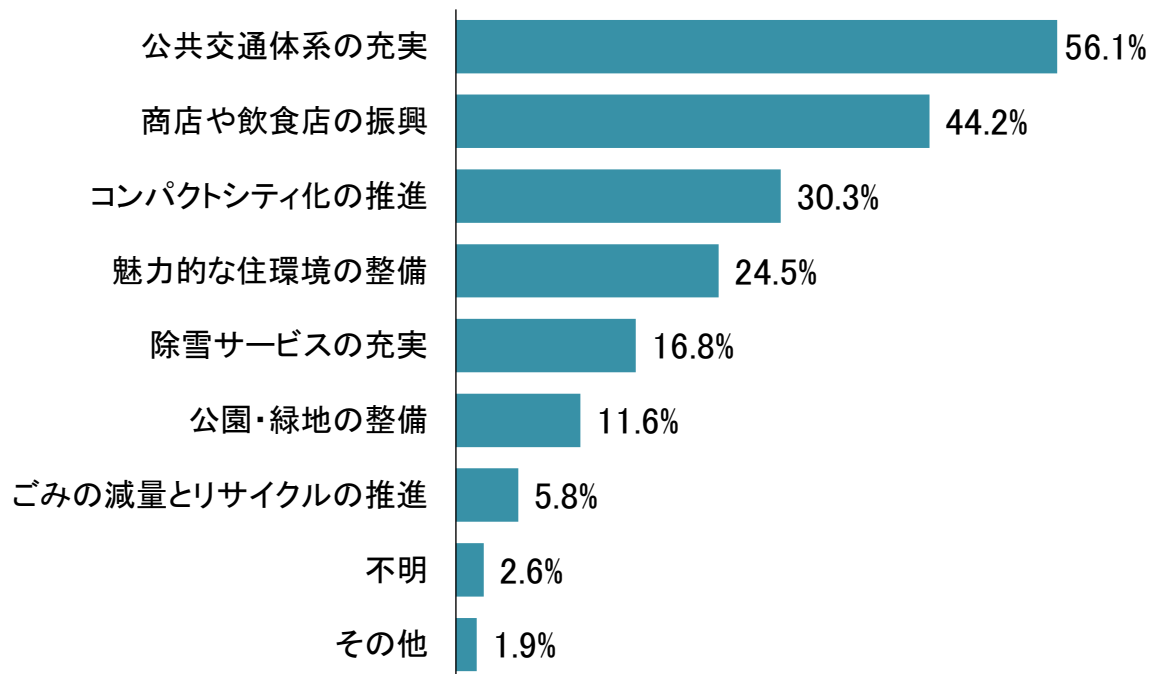


## (4) 今後のまちづくりについて

### ■ 快適で便利な生活環境のために、市が優先的に取り組むべき施策

・「公共交通体系の充実」が56.1%と最も高く、「商店や飲食店の振興」が44.2%と次に多い。

【快適で便利な生活環境のため優先すべき政策分野】 ※複数回答のため合計は100%にならない

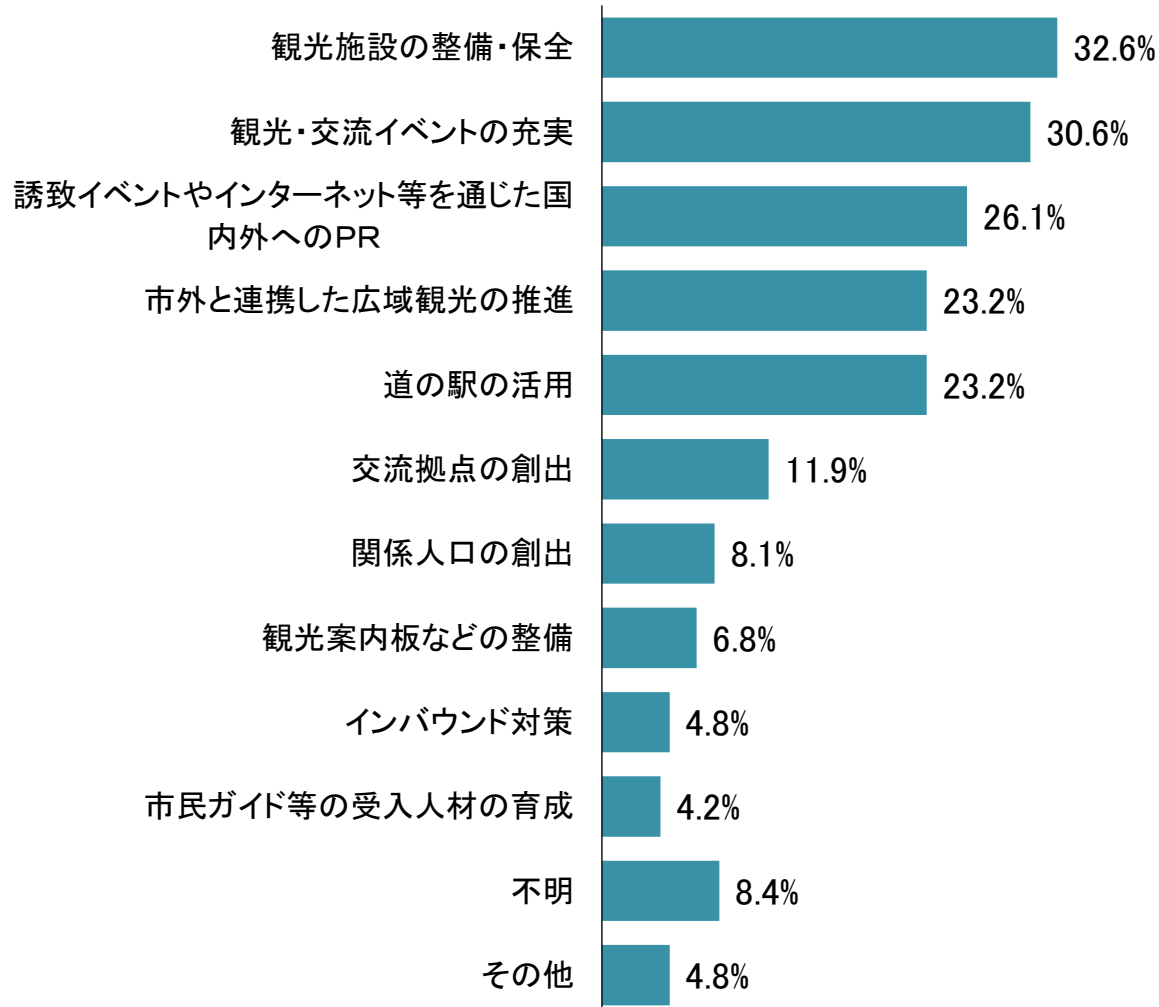


## (4)今後のまちづくりについて

### ■観光振興・交流人口の拡大のために、市が優先的に取り組むべき施策

・「観光施設の整備・保全」が32.6%と最も高く、「観光・交流イベントの充実」が30.6%と次に多い。

【観光振興・交流人口拡大のため優先すべき政策分野】 ※複数回答のため合計は100%にならない

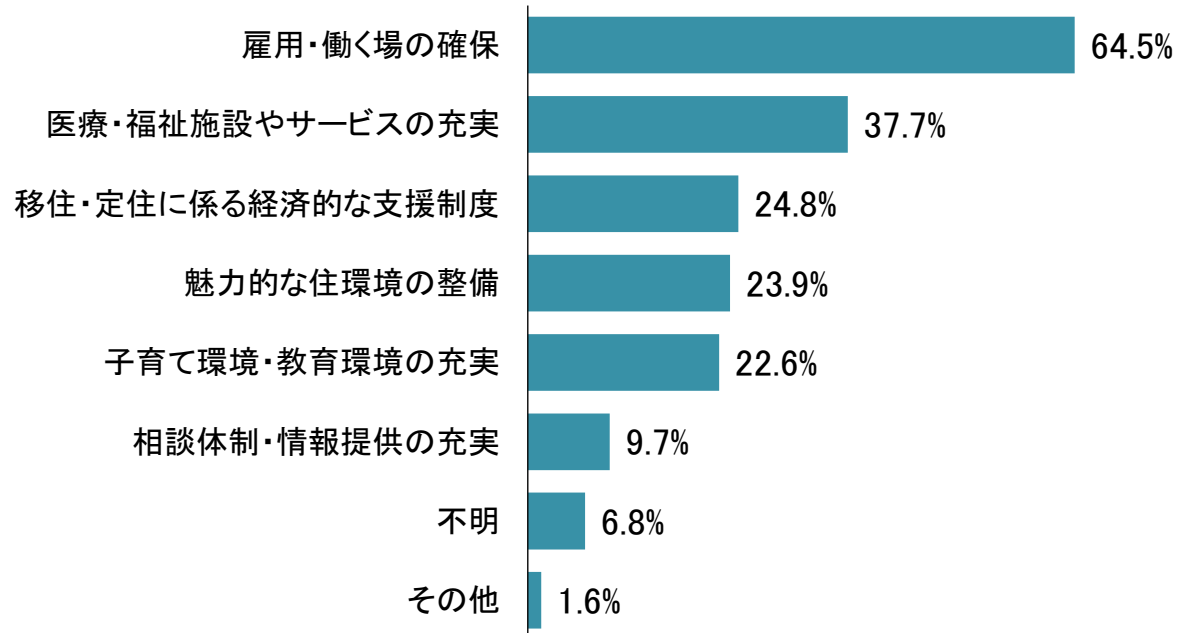


## (4)今後のまちづくりについて

### ■移住・定住の促進のために、市が優先的に取り組むべき施策

・「雇用・働く場の確保」64.5%と最も高く、「医療・福祉施設やサービスの充実」が37.7%と次に多い。

【移住・定住の促進のため優先すべき政策分野】 ※複数回答のため合計は100%にならない



# (5)【参考】第1期総合戦略に対する評価

## ■総合戦略の各項目に対する満足度

任意回答の項目です

- 「持続可能なまちづくり(コンパクト化・拠点形成)」が最も高く、「若者の定住と子育て支援」が最も低い。

【総合戦略の各項目に対する満足度】

※満足=5 おおむね満足=4 どちらでもない=3 やや不満=2 不満=1とした場合の平均点

戦略	満足度
【戦略1】若者の定住と子育て支援	2.39
【戦略2】新たな人の流れ・交流人口の創出	2.44
【戦略3】地域資源を活用した働く場づくり	2.68
【戦略4】夕張の未来を創るプロジェクト	2.88
【戦略5】持続可能なまちづくり(コンパクト化・拠点形成)	2.93



# (5)【参考】第1期総合戦略に対する評価

## ■【戦略1】若者の定住と子育て支援に関する施策の評価

任意回答の項目です

満足度＝2.39 (5/5位)

・「こども一時預かり機能の強化」が最も高く、「空き家バンク制度を活用した不動産の流動化促進」が最も低い。

### 【各施策の評価】

※効果的＝4 どちらかと言うと効果的＝3 あまり効果的ではない＝2 効果的ではない＝1とした

施策	得点
① 若年層・女性向け低家賃賃貸住宅の整備	2.62
② 子育て世帯向け住宅取得・リフォーム支援事業	2.62
③ 子育て世帯の公営住宅への入居緩和	2.81
④ 子育て支援センターの整備による子育て支援体制の強化	2.77
⑤ 廃校や生活感を活用した地域コミュニティ機能の拡充(集落拠点)	2.59
⑥ 空き市営住宅を活用した障がい者自立支援住宅の整備	2.62
⑦ 遊休市有地を活用したサービス付き高齢者向け住宅の誘致	2.66
⑧ 空き家バンク制度を活用した不動産の流動化促進	2.52
⑨ 認定こども園の整備	2.86
⑩ こども達が集う公園整備	2.73
⑪ こども一時預かり機能の強化	2.95

# (5)【参考】第1期総合戦略に対する評価

## ■【戦略2】新たな人の流れ・交流人口の創出に関する施策の評価

任意回答の項目です

満足度＝2.44 (4/5位)

・「学生と連携した地域の魅力掘り起し」が最も高く、「幸福の黄色いハンカチ広場再生プロジェクト」が最も低い。

### 【各施策の評価】

※効果的＝4 どちらかと言うと効果的＝3 あまり効果的ではない＝2… 効果的ではない＝1とした

施策	得点
① 「活動人口」と「関わり人口」を繋ぐ地域交流プラットフォームづくり	2.42
② みんなの力でつくる「石炭博物館再生プロジェクト」	2.42
③ 産業遺産ツーリズム拠点としての「清水沢プロジェクト」	2.52
④ 総合スポーツクラブ設置によるスポーツ交流ビジネス創出	2.72
⑤ 廃校や空き店舗を活用した起業者支援	2.69
⑥ 廃校や遊休施設を活用した合宿誘致の推進・市民の健康増進事業	2.74
⑦ 外部人材を活用した「活用人口」の創出	2.58
⑧ 「幸福の黄色いハンカチひろば」再生プロジェクト	2.38
⑨ 桜育樹プロジェクト	調査対象外
⑩ 空知総合振興局及び管内市町村との広域連携	2.67
⑪ 学生と連携した地域の魅力掘り起こし	2.84

# (5)【参考】第1期総合戦略に対する評価

任意回答の項目です

## ■【戦略3】地域資源を活用した働く場づくりに関する施策の評価

満足度＝2.68 (3/5位)

・「農業者、農協、市の連携による産地力強化」が最も高く、「ズリ山(石炭)を活用した稼ぐ防災事業の推進」が最も低い。

### 【各施策の評価】

※効果的＝4 どちらかと言うと効果的＝3 あまり効果的ではない＝2… 効果的ではない＝1とした

施策	得点
① 高齢者や子育てママが働きたいと思う仕事づくり	2.76
② 農業者、農協、市の連携による産地力強化	2.85
③ 私有林を活用した薬木産地化への挑戦	2.75
④ 広域連携を通じた森林資源のフル活用・循環利用サイクル確立による雇用創出	2.70
⑤ ズリ山(石炭)を活用した稼ぐ防災事業の推進	2.50
⑥ 炭層メタンガス(CBM)の開発支援やCBMを活用した地場農作物の生産効率化研究	調査対象外
⑦ 障がい者の就労の場確保	2.75

# (5)【参考】第1期総合戦略に対する評価

## ■【戦略4】夕張の未来を創るプロジェクトに関する施策の評価

任意回答の項目です

満足度＝2.88 (2/5位)

- ・「課題から希望を創る高校魅力化プロジェクト」が最も高く、「石炭産業の歴史と文化映像化・語りべ育成事業」が最も低い。

### 【各施策の評価】

※効果的＝4 どちらかと言うと効果的＝3 あまり効果的ではない＝2… 効果的ではない＝1とした

施策	得点
① 小中高連携による郷土愛教育の推進	2.72
② 学習塾と連携した学習意欲向上プロジェクト	2.87
③ 課題から希望を創る高校魅力化プロジェクト	2.92
④ ITを活用した既存産業の付加価値化・人材育成	2.86
⑤ 石炭産業の歴史と文化映像化・語りべ育成事業	2.49
⑥ 地域を活性化させるためのキャリア教育	2.70

# (5)【参考】第1期総合戦略に対する評価

任意回答の項目です

## ■【戦略5】持続可能なまちづくり(コンパクト化・拠点形成)に関する施策の評価

満足度=2.93 (1/5位)

- ・「都市拠点機能の整備によるコンパクトシティの推進」が最も高く、「公共施設の更なるスリム化と活用ストックの機能充実」が最も低い。

### 【各施策の評価】

※効果的=4 どちらかと言うと効果的=3 あまり効果的ではない=2… 効果的ではない=1とした

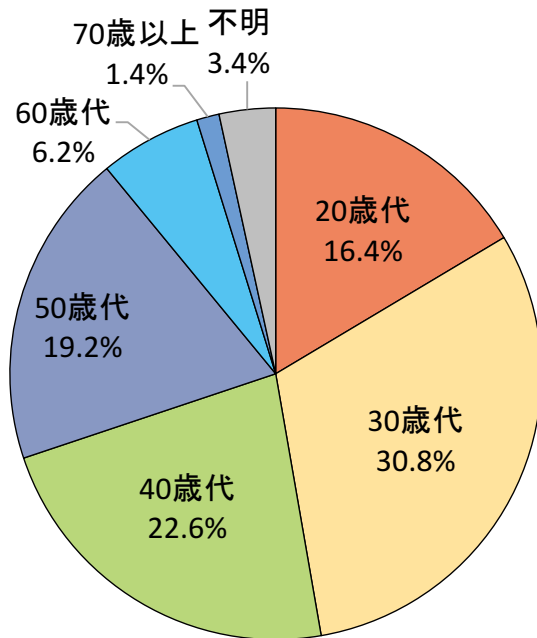
施策	得点
① 都市拠点機能の整備によるコンパクトシティの推進	2.86
② 安心の地域医療体制の構築	2.76
③ 補てん型から利用型の公共交通体系の構築 (交通結節点整備・デマンド交通)	2.65
④ 公共施設の更なるスリム化と活用ストックの機能充実	2.62

# (6)通勤者アンケート結果

## ■回答者属性

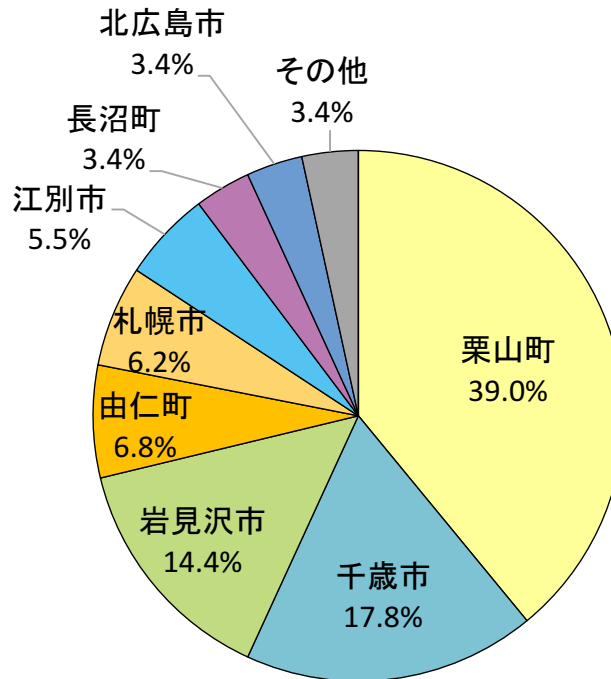
- 回答者の年代は、20代が16.4%、30代が30.8%と全体の半分近くを占めている。
- 居住地は、栗山町が39.0%、千歳市が17.8%、岩見沢市が14.4%。
- 住宅の種類は、持ち家(一戸建)が48.6%と半分近くを占めているが、**民間の賃貸マンション・アパートが41.1%**と次に多くなっている。

【年代】



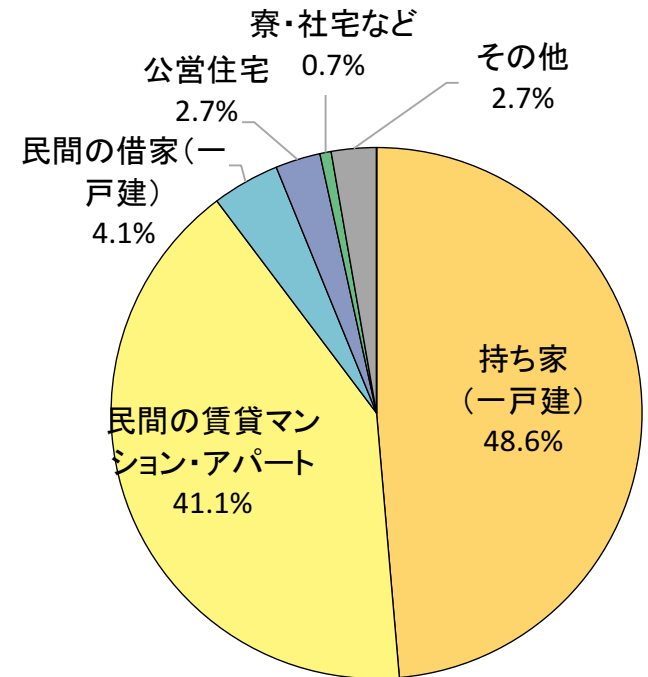
N=146

【居住地】



N=146

【住宅の種類】



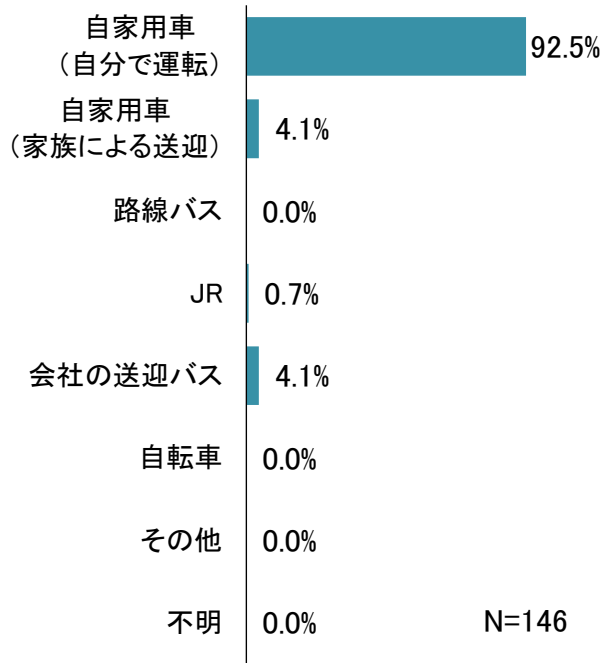
N=146

# (6)通勤者アンケート結果

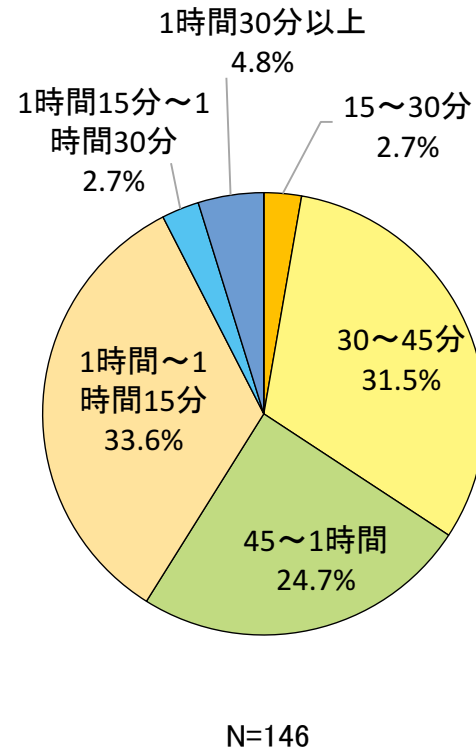
## ■回答者属性

- 通勤手段は、ほとんどが自家用車(自分で運転)で、1時間以上かけて通勤している方が4割以上を占めている。
- 通勤で困っていることとしては、「冬場の運転が大変」が67.1%と、突出している。

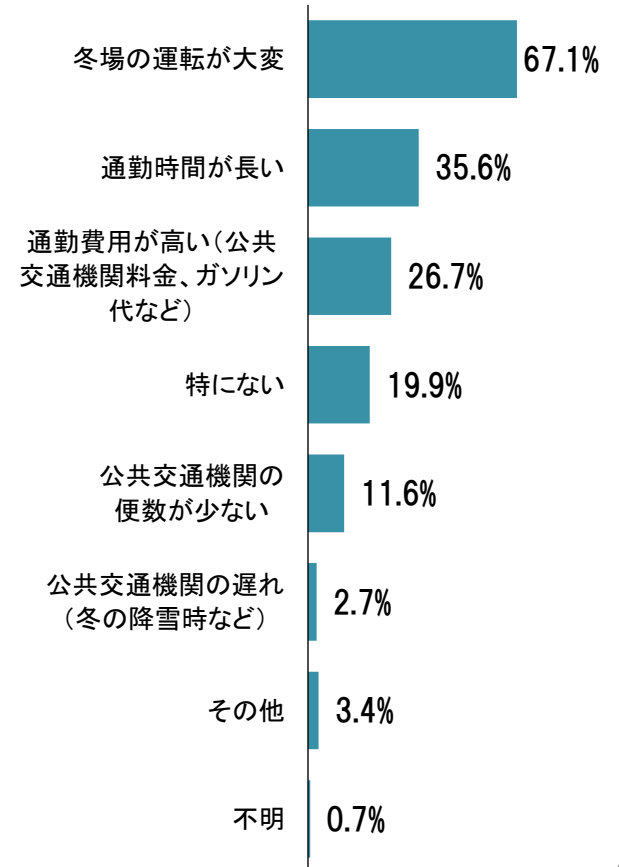
【通勤手段】



【通勤時間】



【通勤で困っていること】



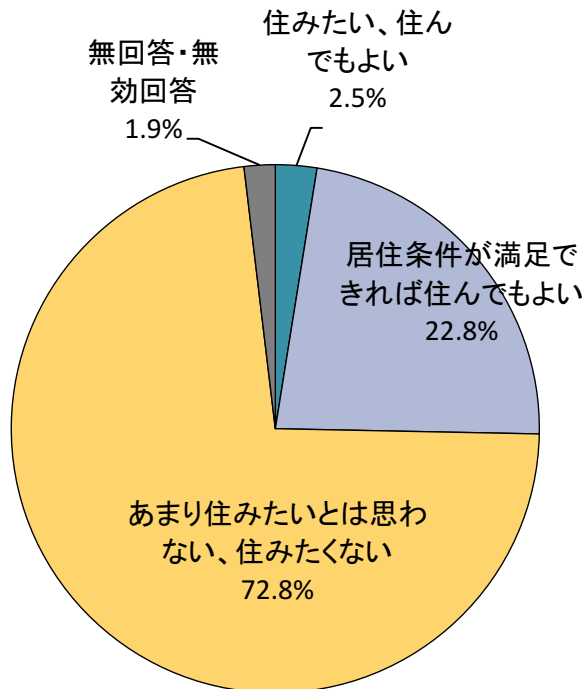
※複数回答のため合計は100%にならない

# (6)通勤者アンケート結果

## ■夕張市への居住意向

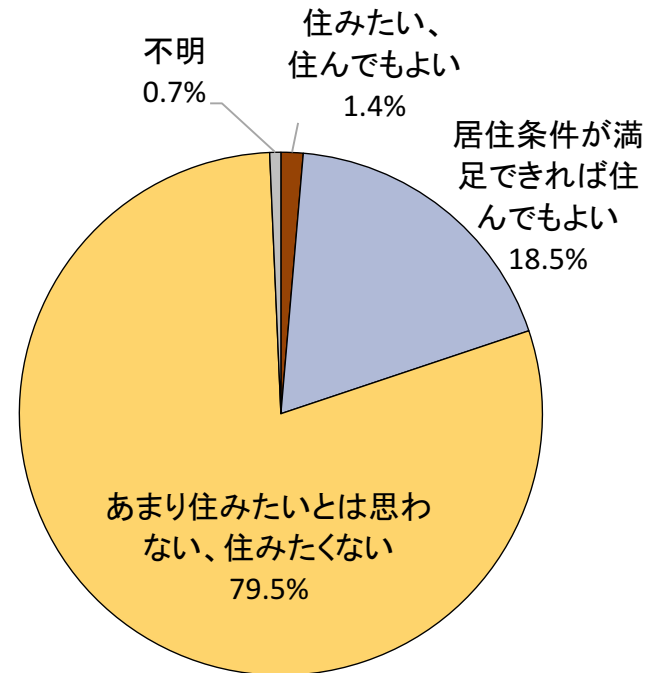
- 「あまり住みたいとは思わない、住みたくない」が79.5%を占める一方、「居住条件が満足出来れば住んでもよい」が18.5%、「住みたい、住んでもよい」が1.4%に留まっている。
- 前回調査と比較して、「あまり住みたいとは思わない、住みたくない」がやや増加し、「居住条件が満足できれば住んでもよい」、「住みたい、住んでもよい」がやや減少している。

【H27調査結果】



N=158

【本調査結果】



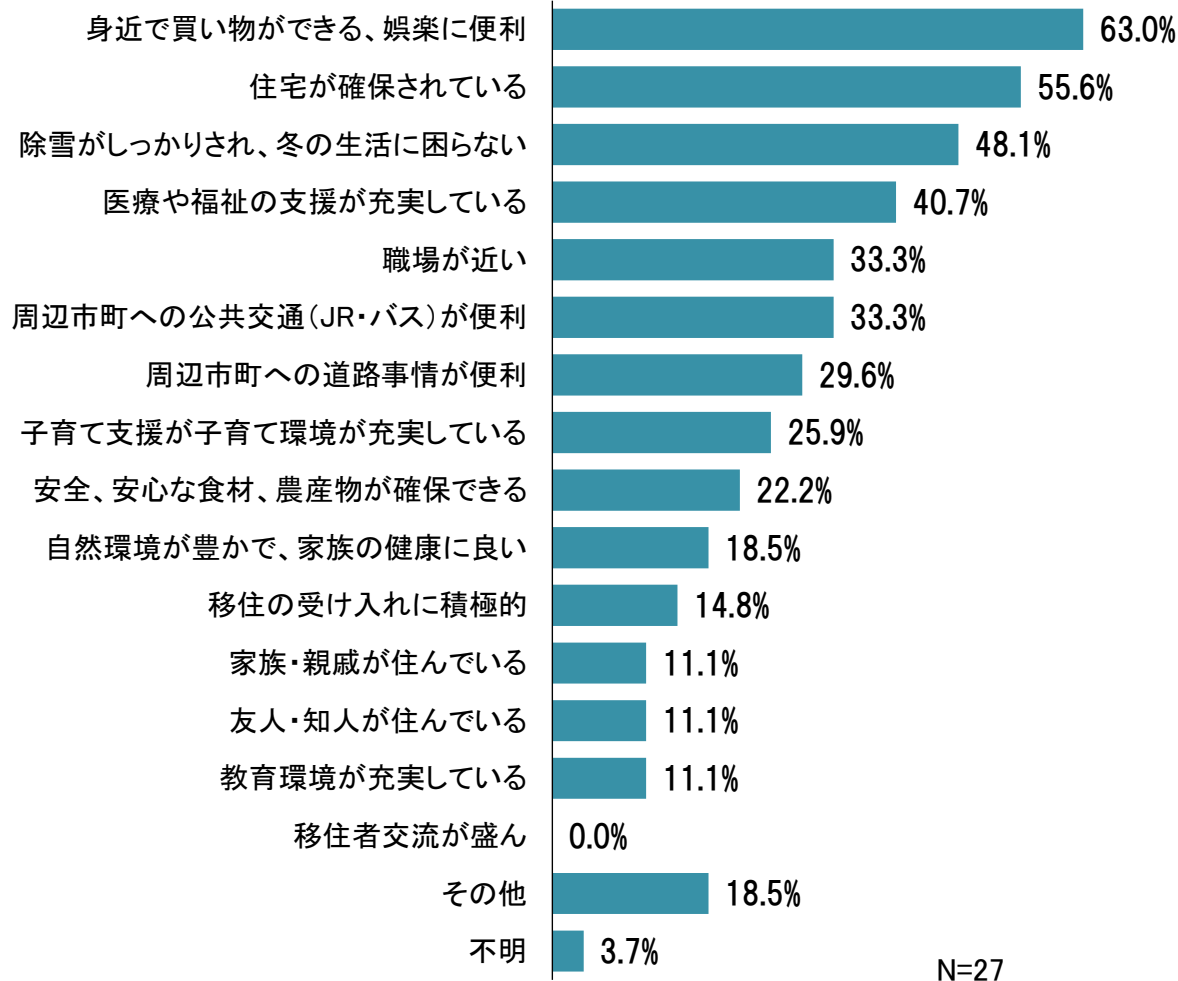
N=146



# (6)通勤者アンケート結果

## ■夕張市に住むための、満足できる居住条件

・「身近で買い物ができる、娯楽に便利」が63.0%と最も多く、「住宅が確保されている」が55.6%と次に多くなっている。



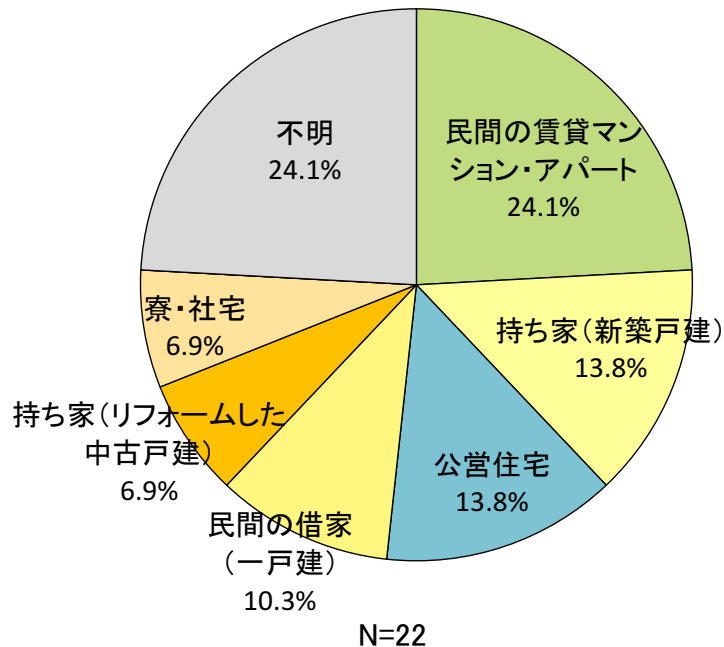
※複数回答のため合計は100%にならない

## (6)通勤者アンケート結果

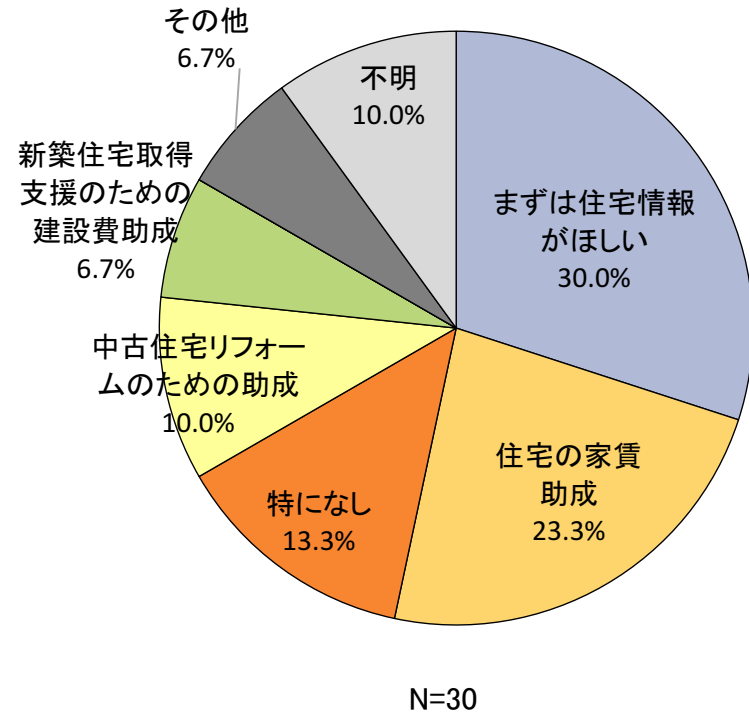
### ■夕張市に住む場合、希望する住宅・住宅支援策として選ぶもの

- 希望する住宅は、「民間の賃貸マンション・アパート」が24.1%と最も多い。
- 住宅支援策として選ぶものは、「まずは住宅情報がほしい」が30.0%と最も多い。

【希望する住宅】



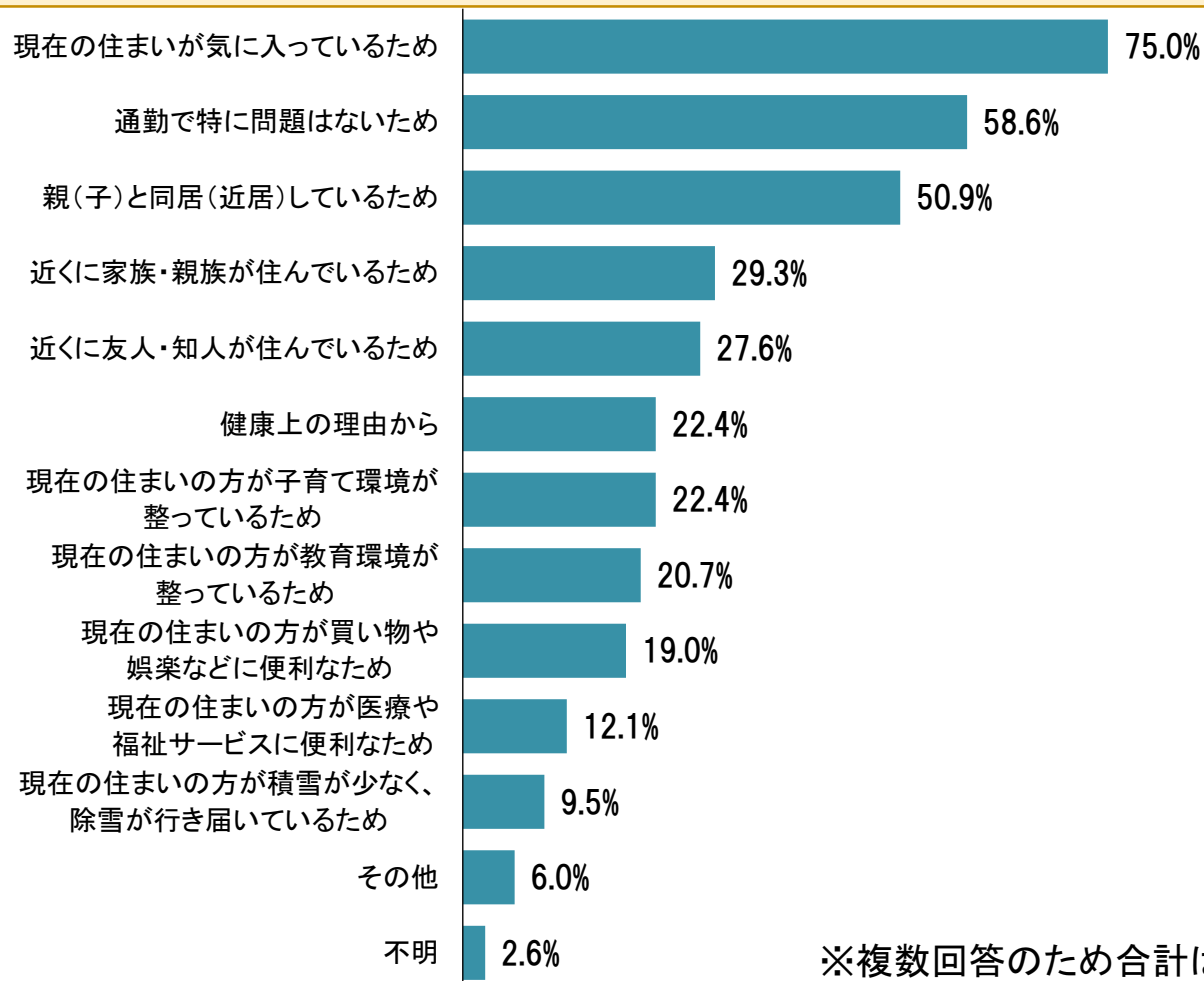
【住宅支援策として選ぶもの】



## (6)通勤者アンケート結果

### ■「あまり住みたいと思わない、住みたくない」とした理由

- 「現在の住まいが気に入っているため」が75.0%と最も多く、「通勤で特に問題がないため」が58.6%と次に多くなっている。
- 「現在の住まいの方が子育て環境が整っているため」、「現在の住まいの方が教育環境が整っている為」という回答が22.4%あった。



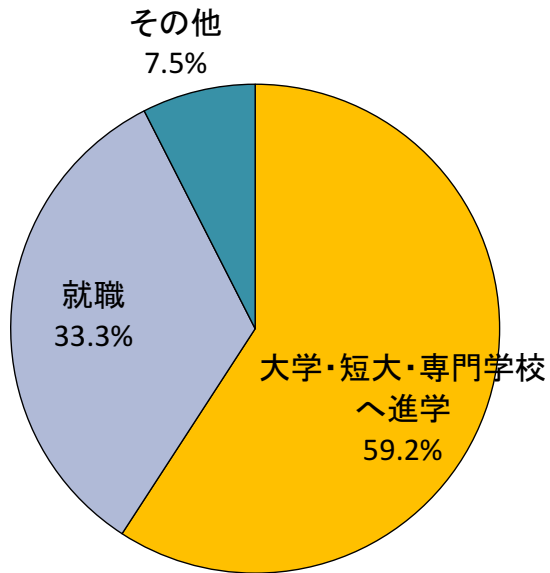
※複数回答のため合計は100%にならない

# (7)高校生アンケート調査結果

## ■高校卒業後の進路

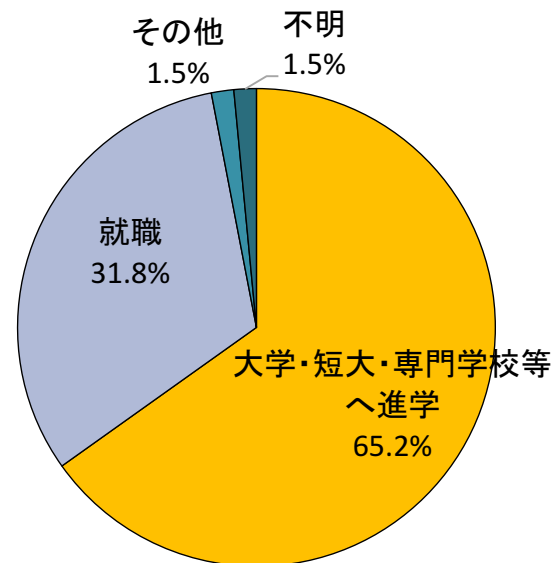
- 高校卒業後は、「**大学・短大・専門学校へ進学**」が約**65.2%**を占め、「**就職**」が**31.8%**を占める。
- 平成27年のアンケート調査結果と傾向は変わっていない。

【H27調査結果】



N=120

【本調査結果】



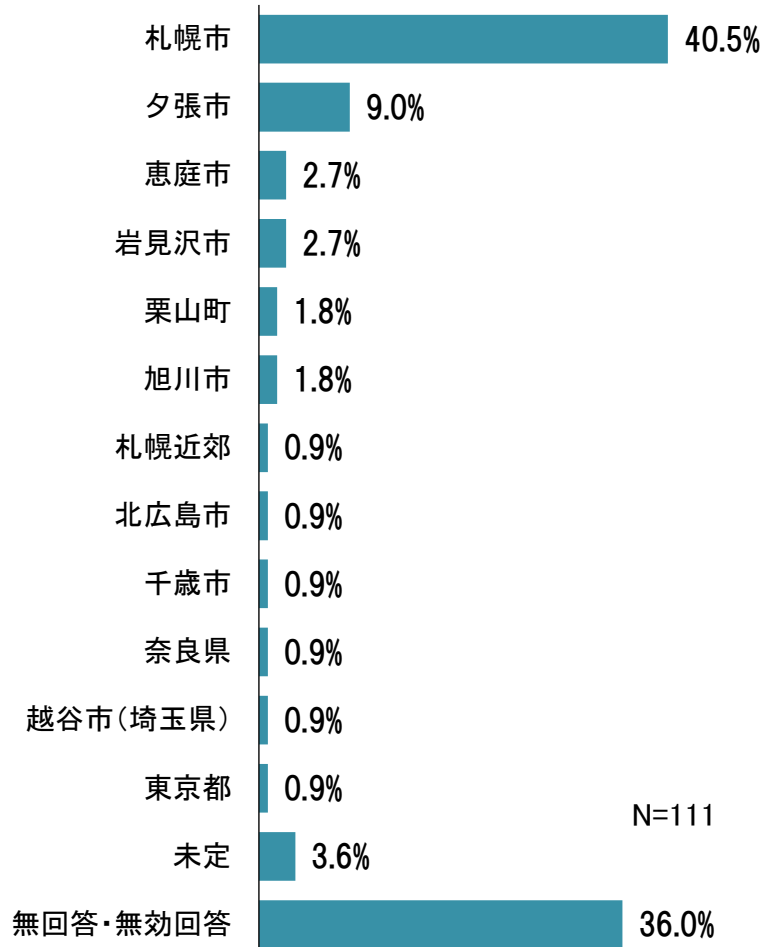
N=66

# (7)高校生アンケート調査結果

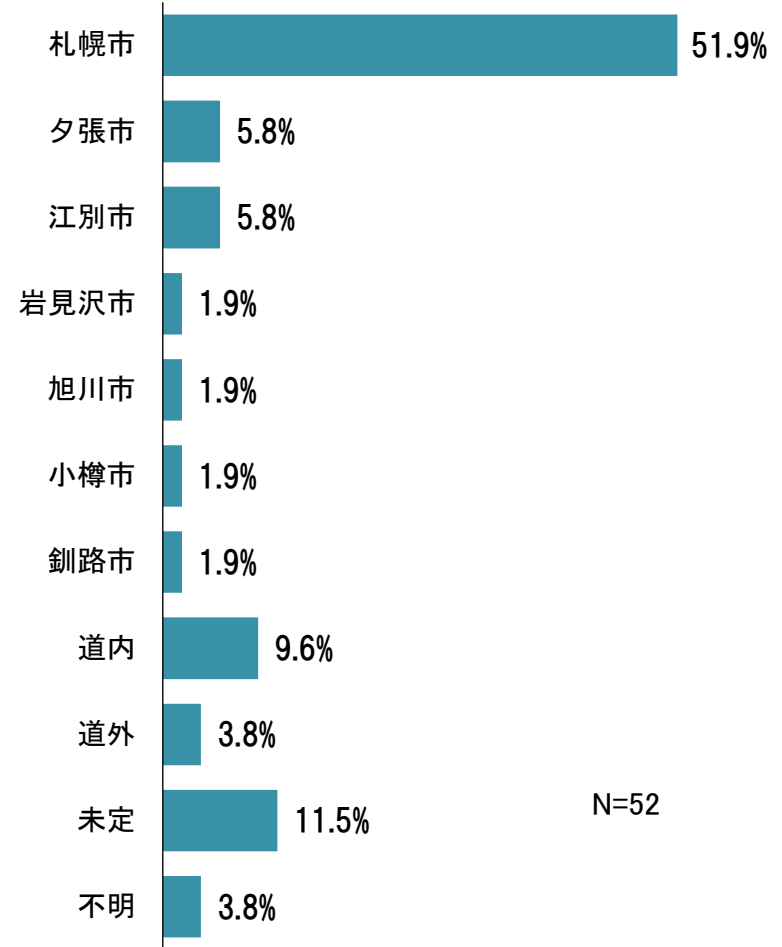
## ■進学先・就職先の市町村

- 進学先・就職先としては、「札幌市」が5割以上を占め最も多く、「夕張市」は5.8%となっている。
- 前回調査時と比較して、「札幌市」の割合が増加し、「夕張市」の割合が減少している。

【H27調査結果】



【本調査結果】

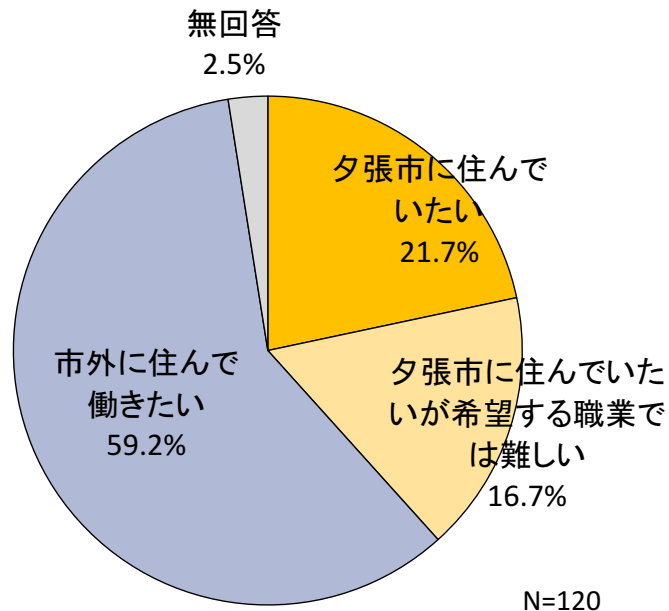


# (7)高校生アンケート調査結果

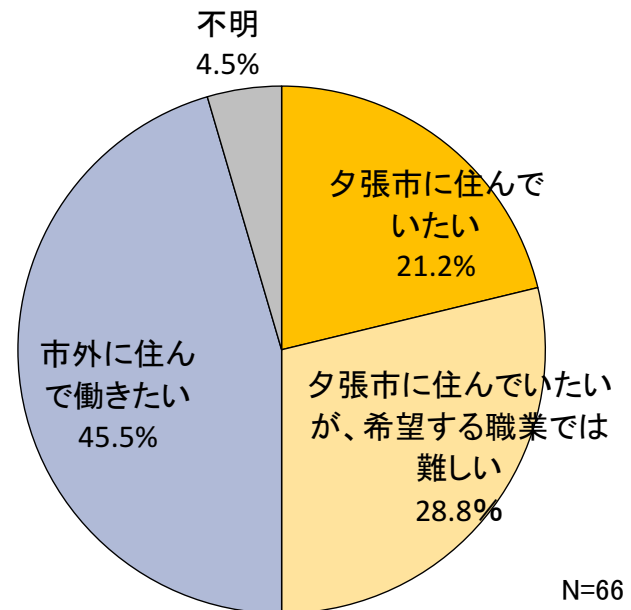
## ■就職後の夕張市への居住意向

- 「市外に住んで働きたい」が45.5%を占め、「夕張市に住んでいたい」は21.2%となっている。
- 前回調査時と比較して、「市外に住んで働きたい」の割合が減少し、「夕張市に住んでいたい」が、希望する職業では難しい」の割合が増加している。

【H27調査結果】



【本調査結果】

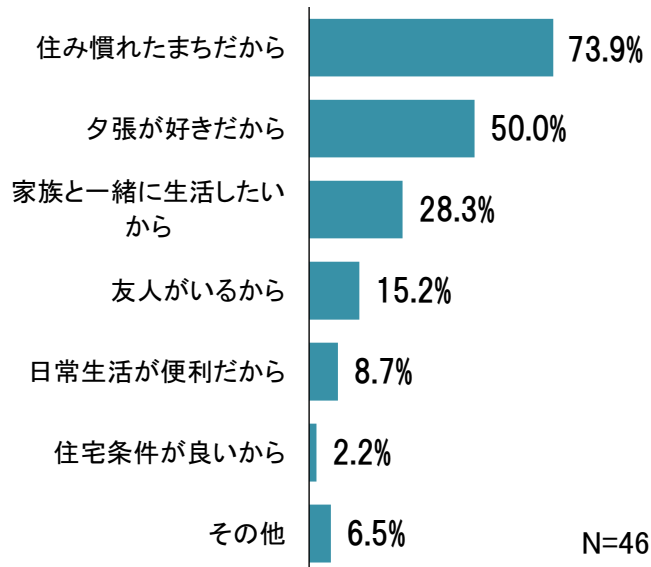


# (7)高校生アンケート調査結果

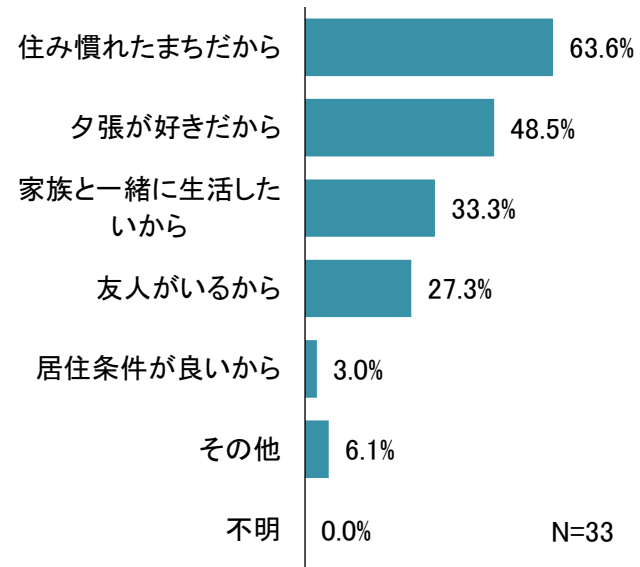
## ■就職後に夕張市に住んでいたい理由

- 就職後に夕張市に住んでいたい理由として「住み慣れたまちだから」が63.6%、次いで「夕張が好きだから」が48.5%と続く。
- 前回調査と比較して、大きな傾向は変わっていない。

【H27調査結果】



【本調査結果】



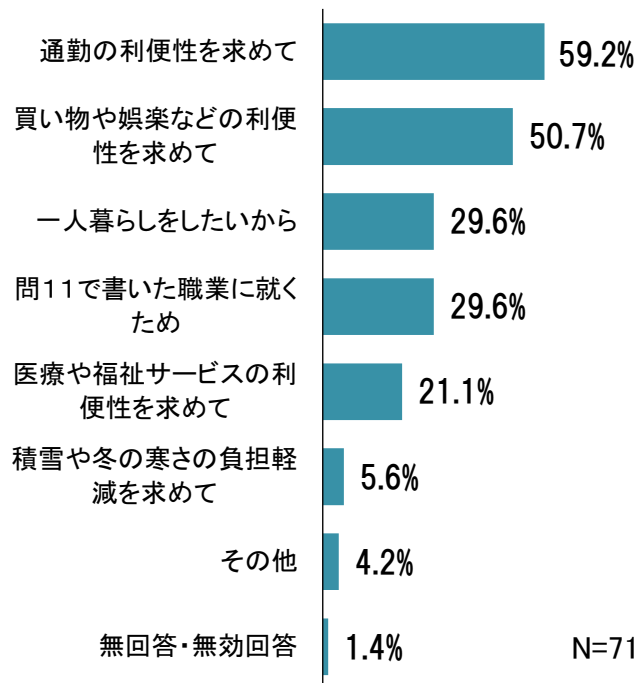
※複数回答のため合計は100%にならない

# (7)高校生アンケート調査結果

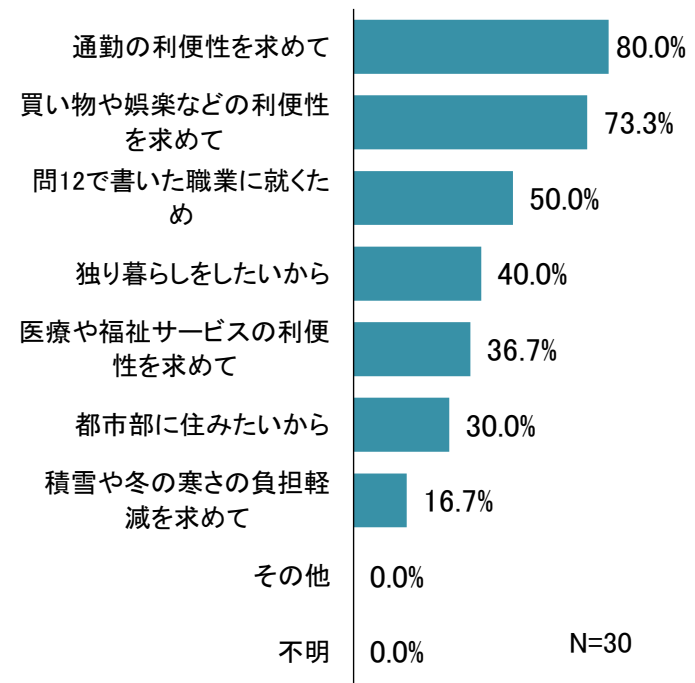
## ■就職後に市外に住みたい理由

- 就職後に市外に住みたい理由は、「通勤の利便性を求めて」が80.0%、「買い物や娯楽などの利便性を求めて」が73.3%となっている。
- 前回調査と比較して、大きな傾向は変わっていない。

【H27調査結果】



【本調査結果】



※複数回答のため合計は100%にならない



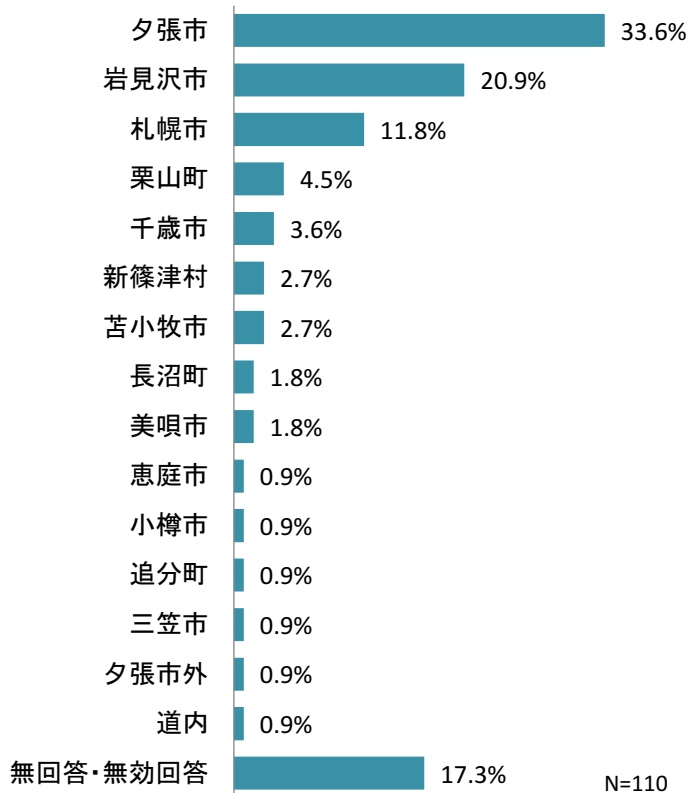
# (8)中学生アンケート調査結果

## ■ 中学卒業後の進路

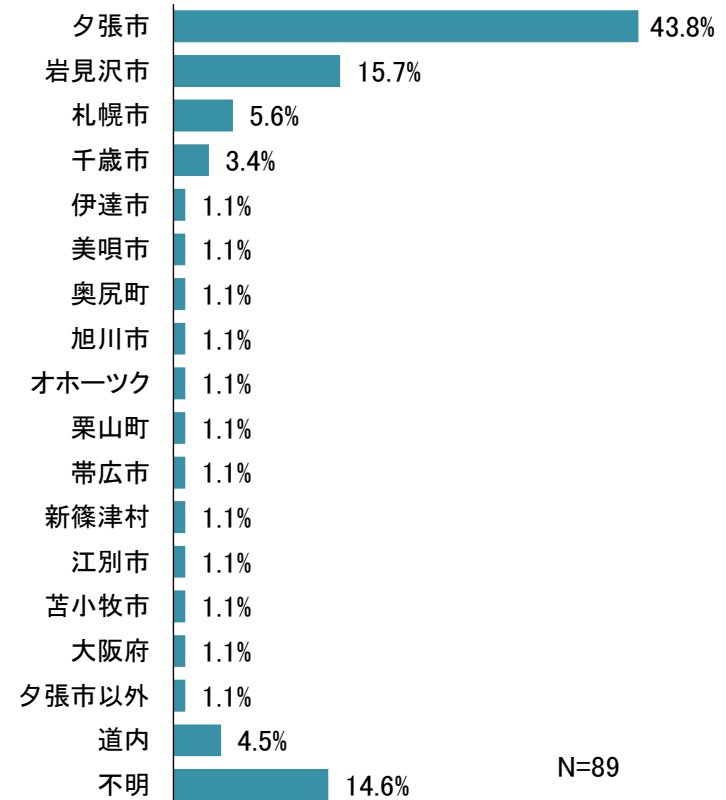
- 進学先・就職先としては、「夕張市」が43.8%と最も多く、次いで「岩見沢市」が15.7%となっている。
- 前回調査と比較して、**夕張市の割合が多くなり**、他市町村の割合が減少している。

進学先・就職先の市町村

【H27調査結果】



【本調査結果】

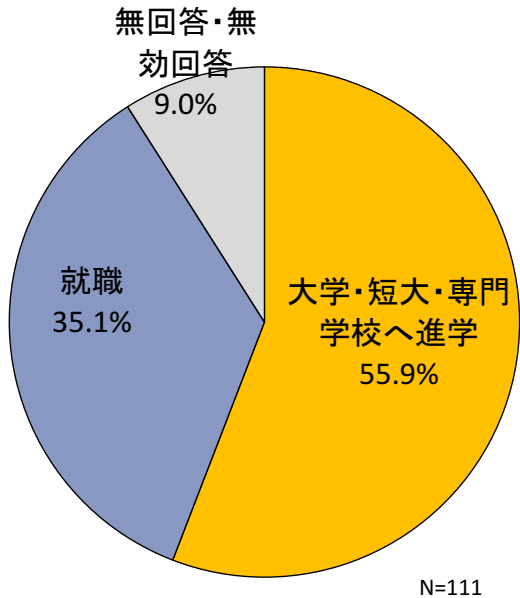


# (8)中学生アンケート調査結果

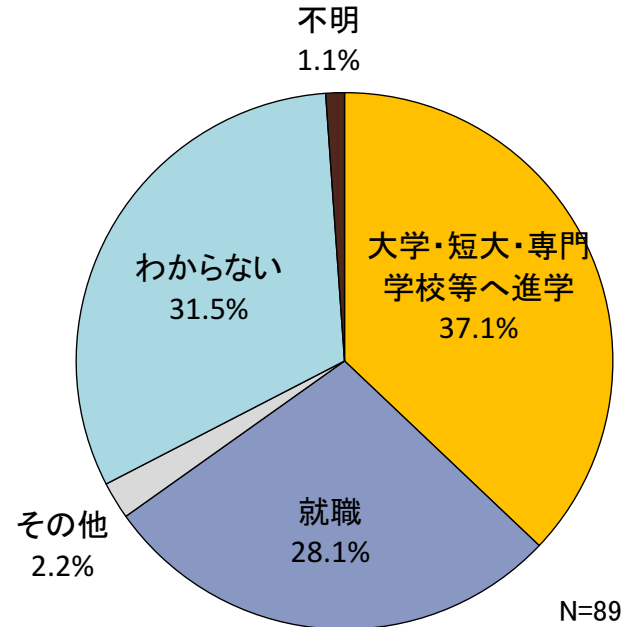
## ■高校卒業後の進路

・高校卒業後は、「大学・短大・専門学校へ進学」が37.1%と最も多く、「就職」が28.1%となっている。

【H27調査結果】



【本調査結果】

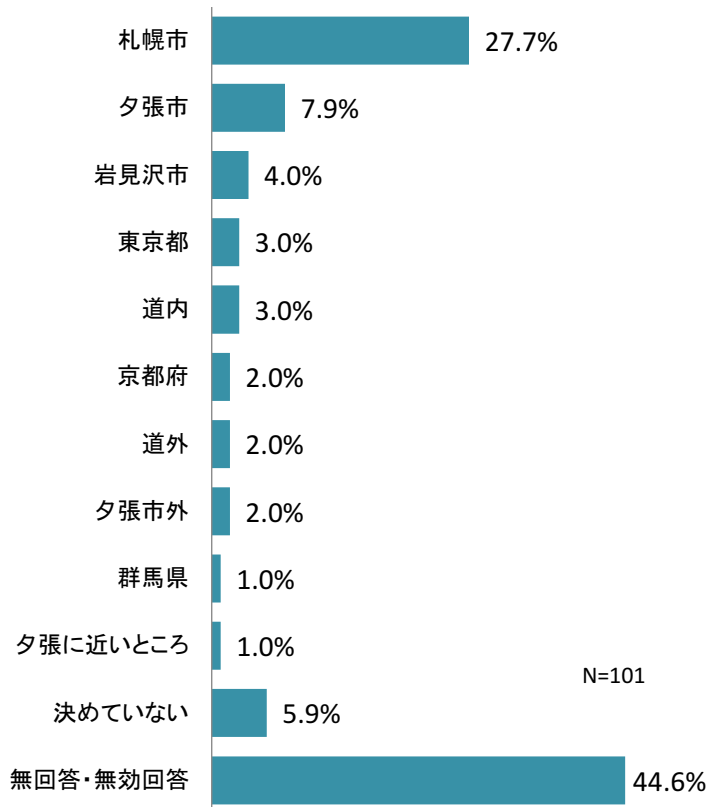


## (8)中学生アンケート調査結果

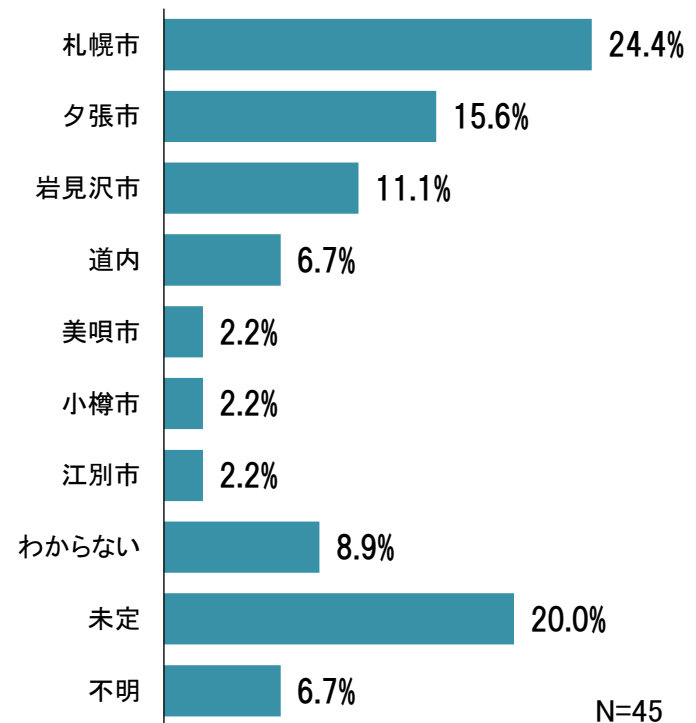
### ■高校卒業後の進学先・就職先の市町村

- 進学先・就職先としては、「札幌市」が24.4%と最も多く、次いで「夕張市」が15.6%となっている。
- 前回調査と比較して、「夕張市」の割合が増加している。

【H27調査結果】



【本調査結果】



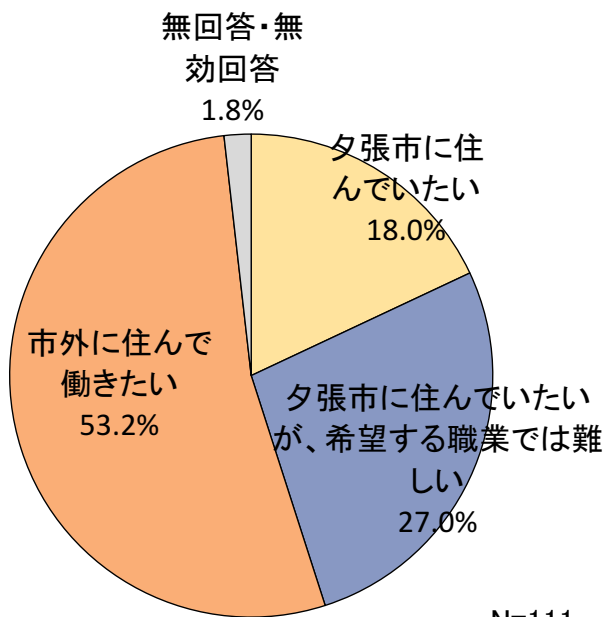
※複数回答のため合計は100%にならない

## (8)中学生アンケート調査結果

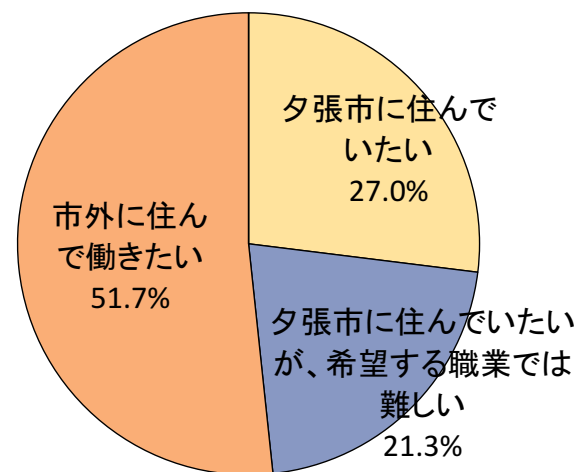
### ■就職後の夕張市への居住意向

- 「市外に住んで働きたい」が51.7%と最も多いが、「夕張市に住んでいたい」「夕張市に住んでいたい  
が、希望する職業では難しい」と合計すると48.3%と半数近い。
- 前回調査と比較して、「夕張市に住んでいたい」の割合が増加している。

【H27調査結果】



【本調査結果】

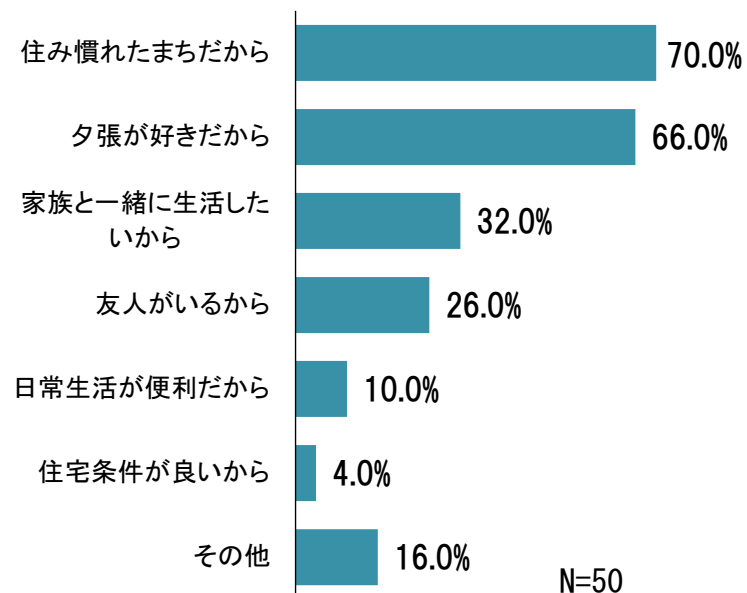


## (8)中学生アンケート調査結果

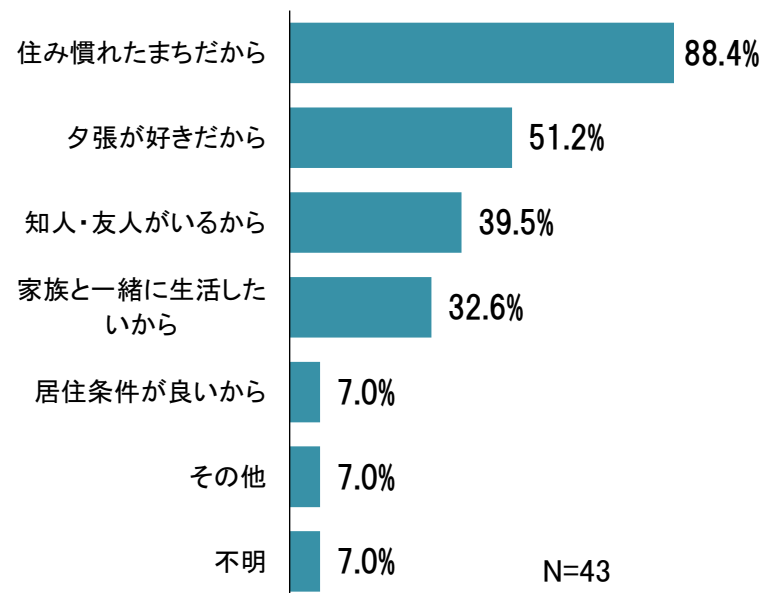
### ■就職後に夕張市に住んでいたい理由

- 就職後に夕張市に住んでいたい理由は、「住み慣れたまちだから」が88.4%と最も多く、「夕張が好きだから」が51.2%と続く。
- 前回調査と同様の傾向となっている。

【H27調査結果】



【本調査結果】



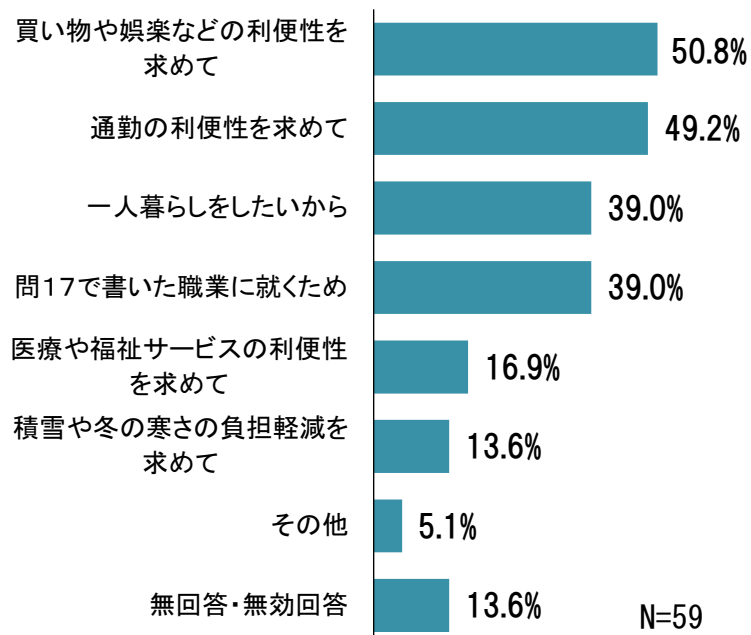
※複数回答のため合計は100%にならない

## (8)中学生アンケート調査結果

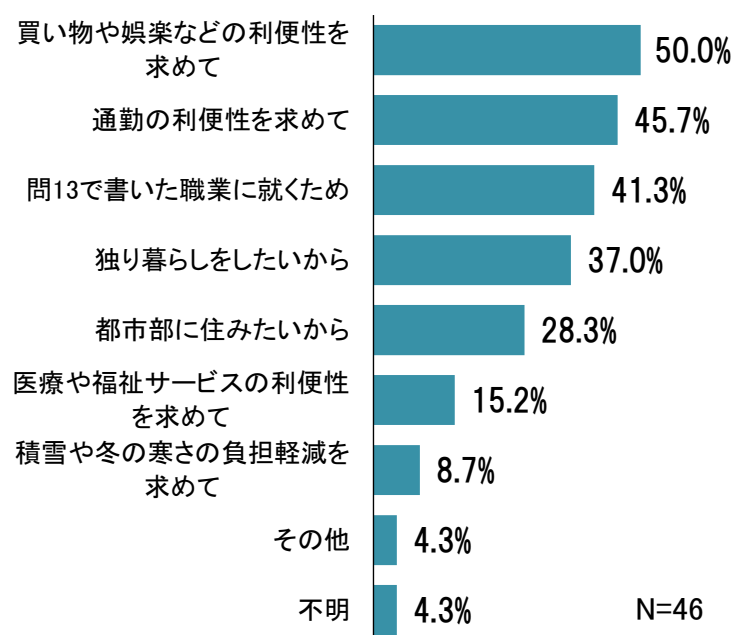
### ■就職後に市外に住みたい理由

- ・市外に住みたい理由は、「買い物や娯楽などの利便性を求めて」が50.0%と最も多く、「通勤の利便性を求めて」が45.7%で次に多くなっている。
- ・前回調査と同様の傾向になっている。

【H27調査結果】



【本調査結果】



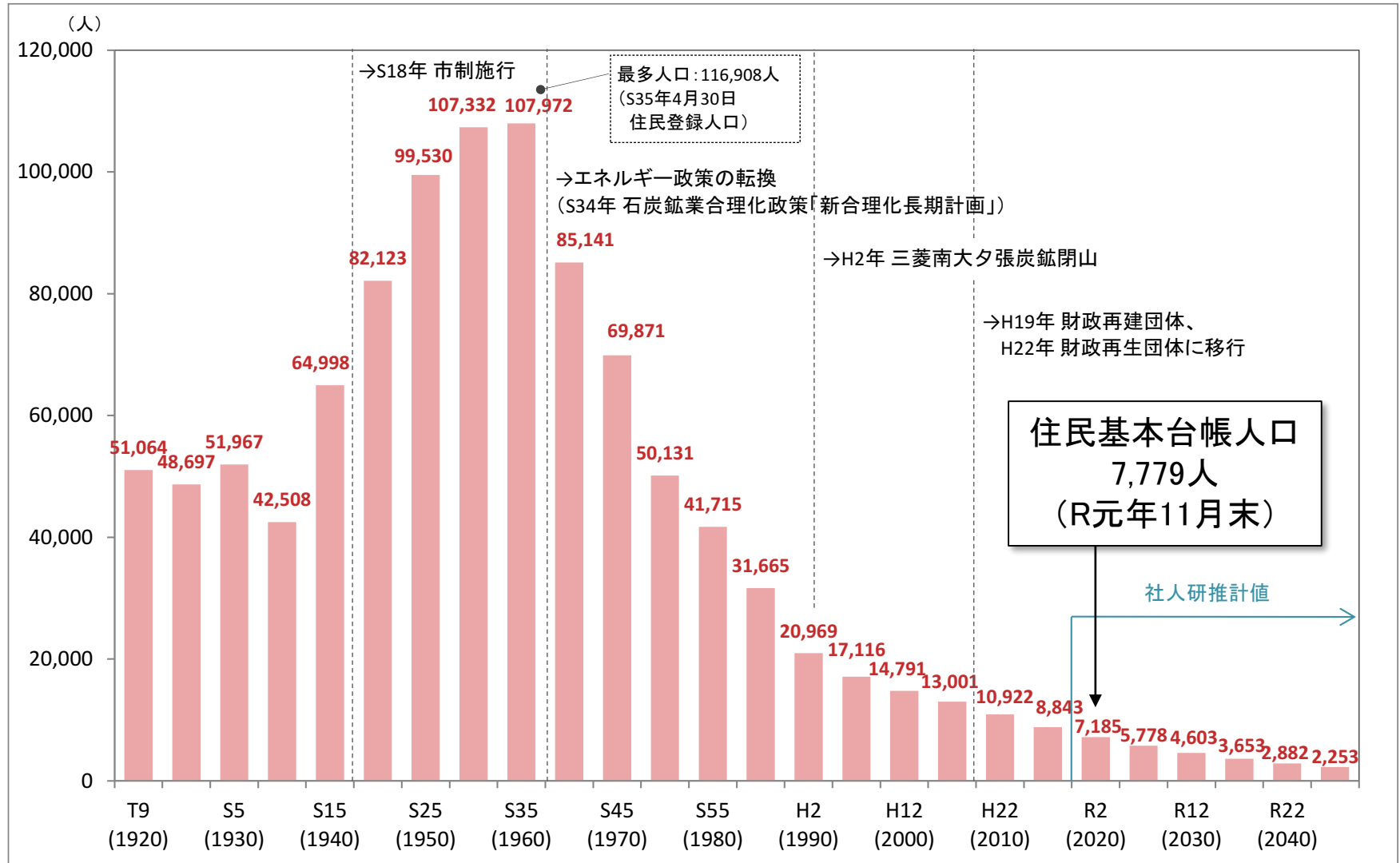
※複数回答のため合計は100%にならない

## 【参考資料4】

<人口動向分析について>

# (1)人口の推移

【図表】総人口の推移と将来人口推計



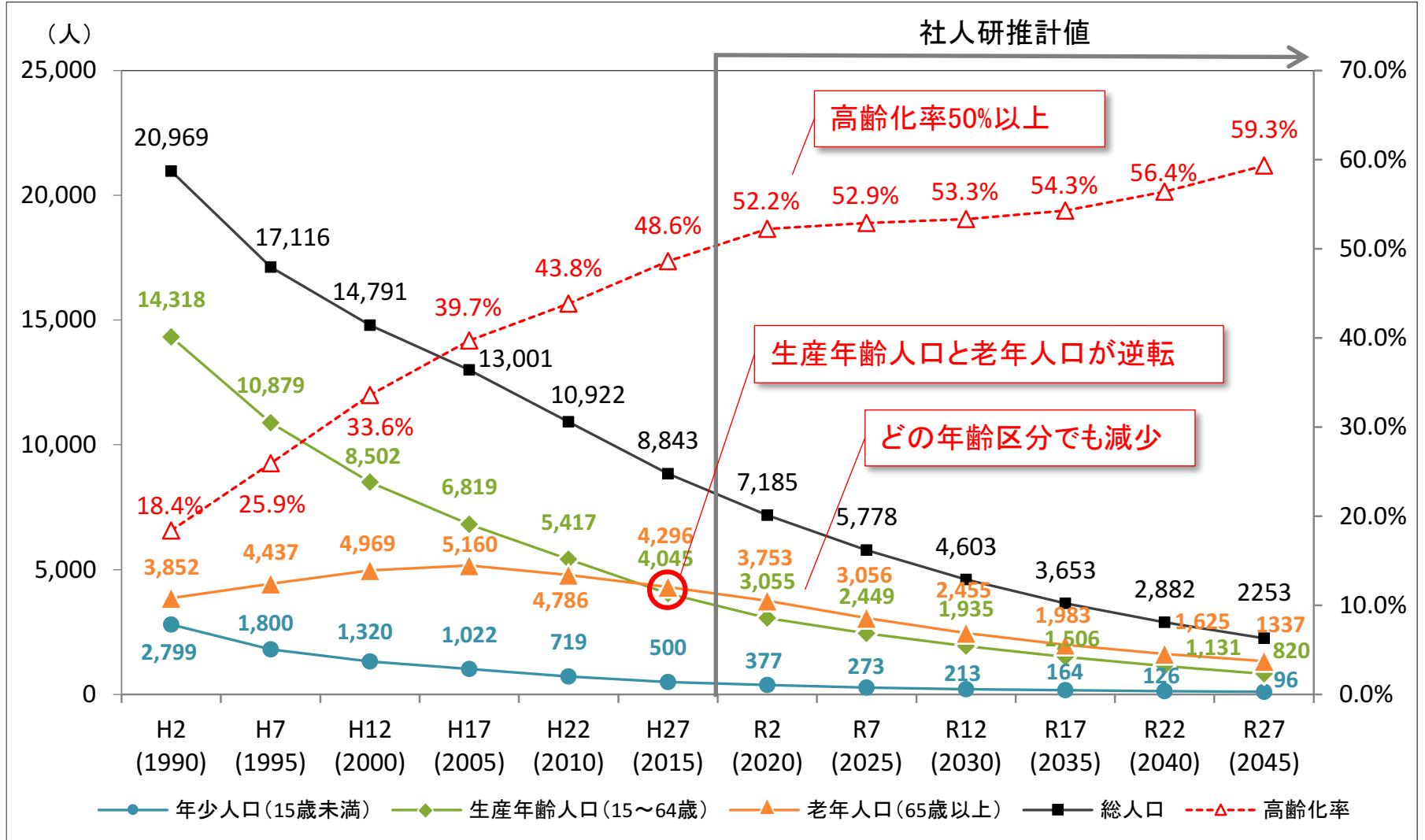
資料：総務省「国勢調査」(大正9年～平成27年)

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口推計(平成30年3月推計)」(令和2年～令和27年)



# (2)年齢別人口の将来推計

【図表】年齢3区分別人口・高齢化率の推移と将来推計

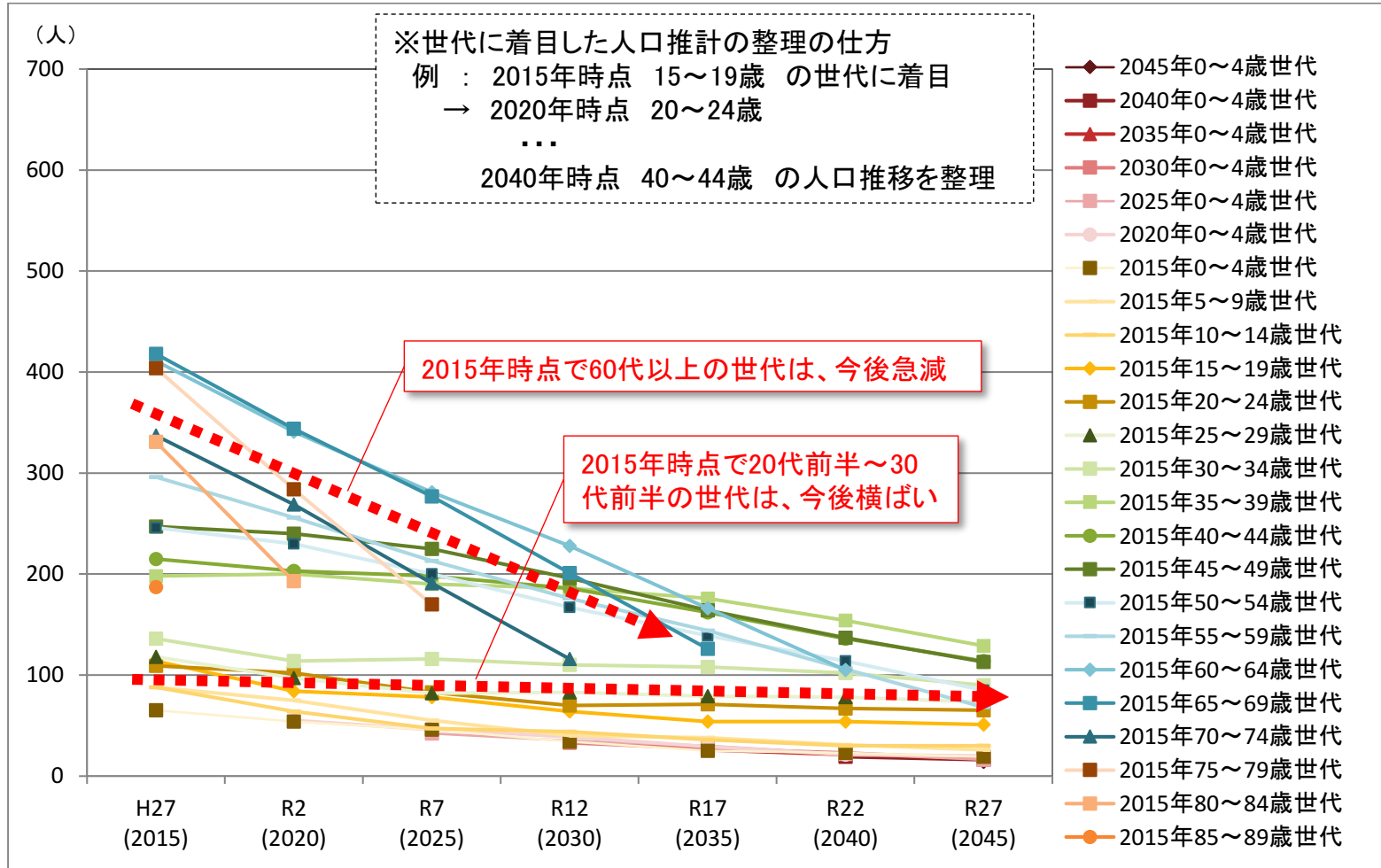


資料:総務省「国勢調査」(平成2年~平成27年)

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口推計(平成30年3月推計)」(平成30年~令和27年)

# (2)年齢別人口の将来推計

【図表】世代に着目した年齢5歳階級別人口の将来推計(男)

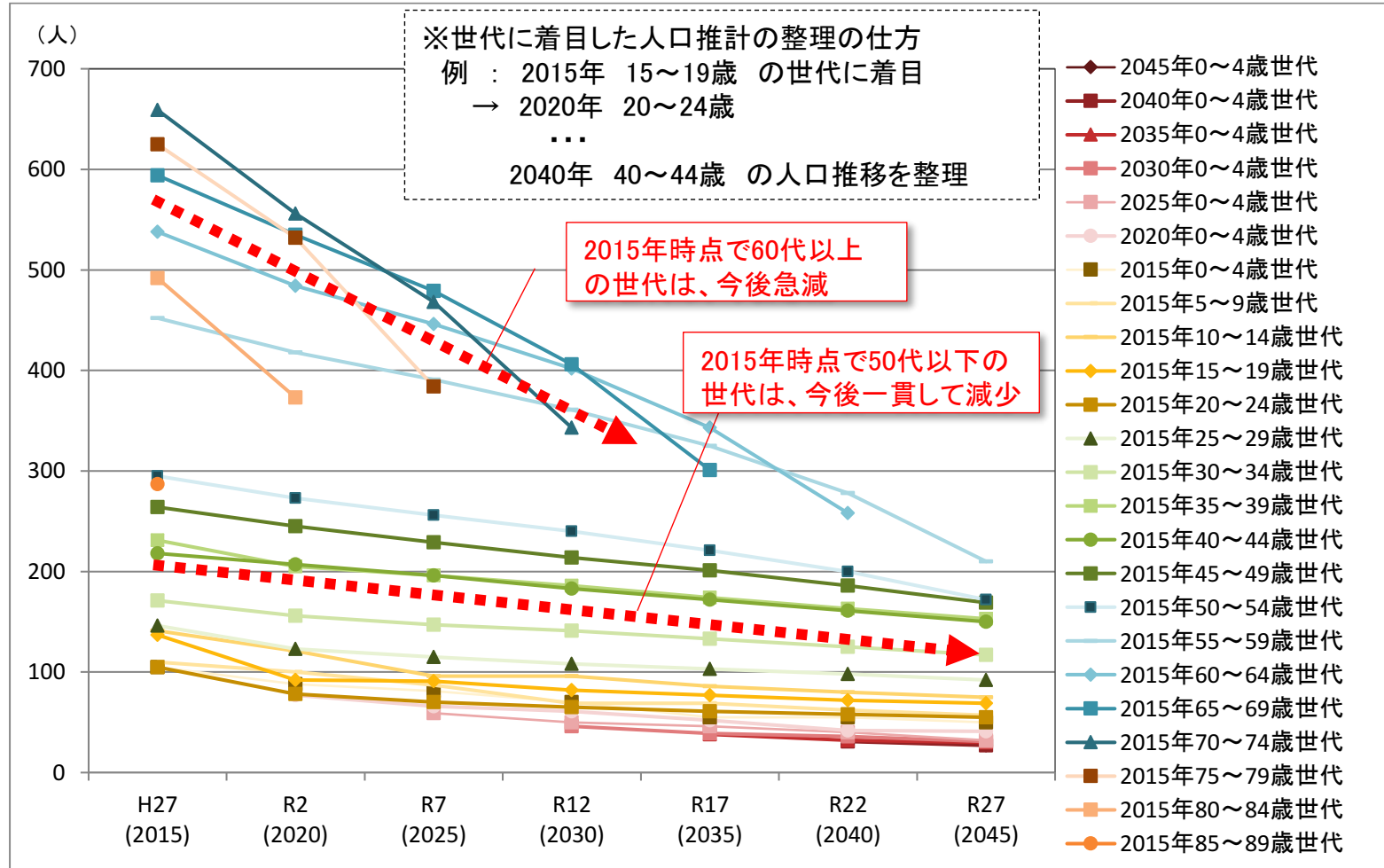


※5歳階級別の世代に着目した推移を示しているため、「90歳以上」の人口は除いて整理している。

※ここでの整理は、男女別年齢・5歳階級別の将来人口推計の結果をもとに作成したものであり、世代ごとに人口推計をしているわけではないことに留意する。

# (2)年齢別人口の将来推計

【図表】世代に着目した年齢5歳階級別人口の将来推計(女)

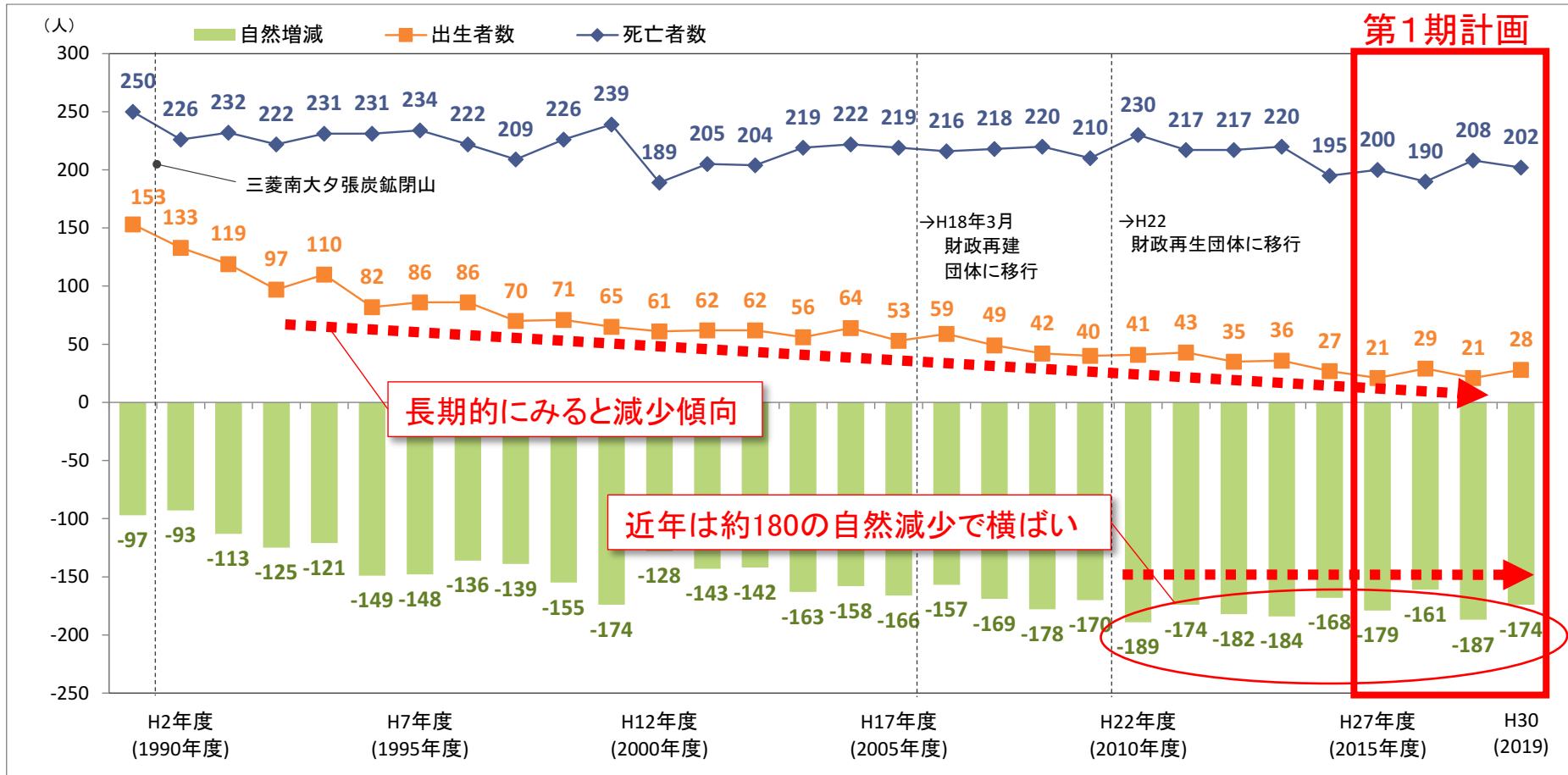


※5歳階級別の世代に着目した推移を示しているため、「90歳以上」の人口は除いて整理している。

※ここでの整理は、男女別年齢・5歳階級別の将来人口推計の結果をもとに作成したものであり、世代ごとに人口推計をしているわけではないことに留意する。

# (3)人口の自然増減の推移

【図表】自然増減の推移



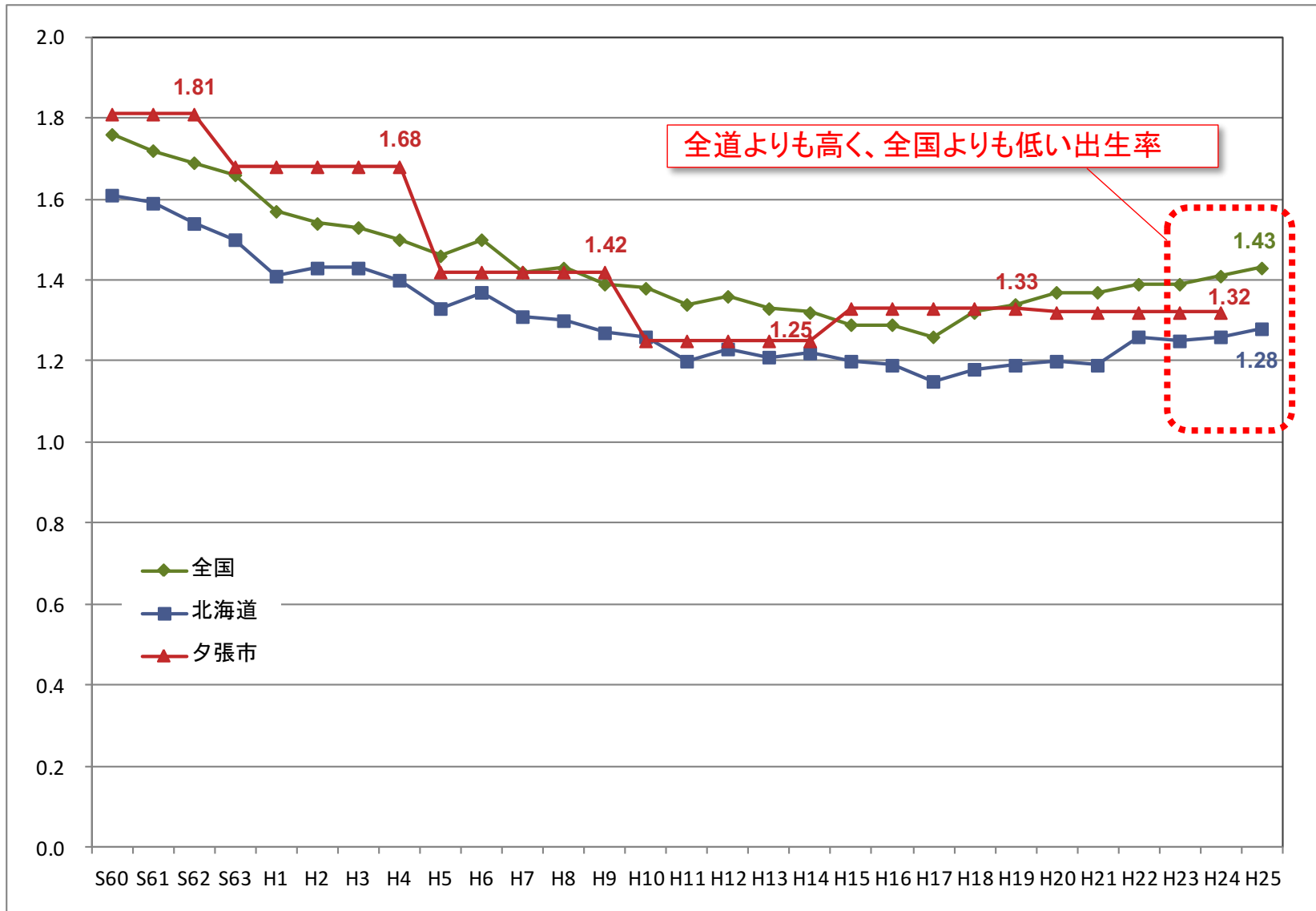
資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

(平成2年度～平成24年度は4月1日～翌年3月31日の人口動態、平成25年以降は1月1日～12月31日の人口動態)

※調査基準日の変更により、平成25年1月1日～3月31日の出生者数と死亡者数は重複して集計。

# (4)出生率の推移

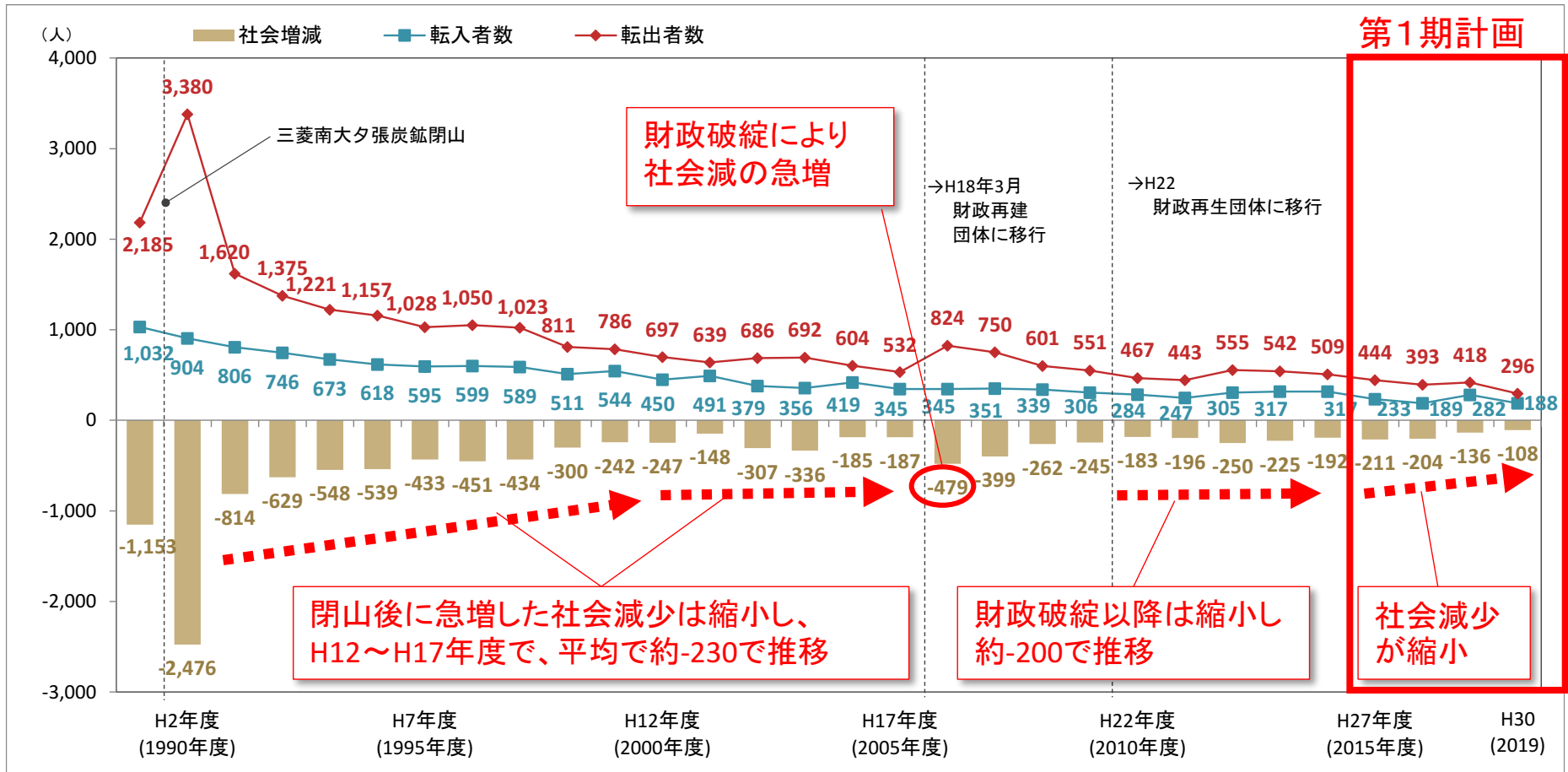
【図表】 合計特殊出生率の推移



資料:厚生労働省「人口動態保健所・市町村別統計」

# (5)人口の社会増減の推移

【図表】 社会増減の推移



資料: 総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

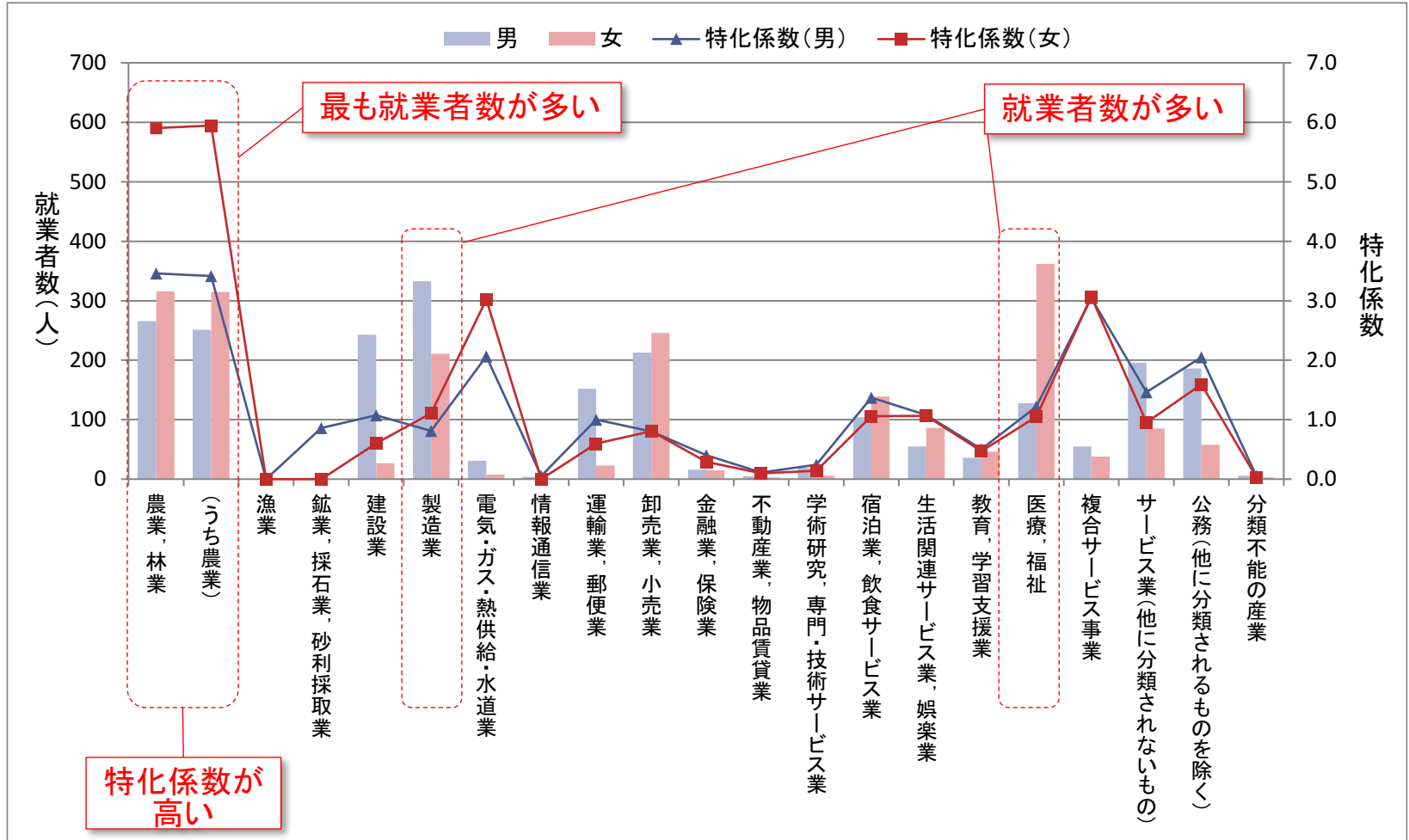
(平成2年度～平成24年度は4月1日～翌年3月31日の人口動態、平成25年以降は1月1日～12月31日の人口動態)

※調査基準日の変更により、平成25年1月1日～3月31日の出生者数と死亡者数は重複して集計。

# (6)雇用等に関する分析

【図表】夕張市で働く産業別・男女別就業者数と特化係数

※【特化係数】=【夕張市の就業者比率】÷【全国の就業者比率】



※「複合サービス事業」は、信用事業、保険事業又は共済事業と併せて複数の大分類にわたる各種のサービスを提供する事業所であって、法的に事業の種類や範囲が決められている郵便局、農業協同組合等が分類される。

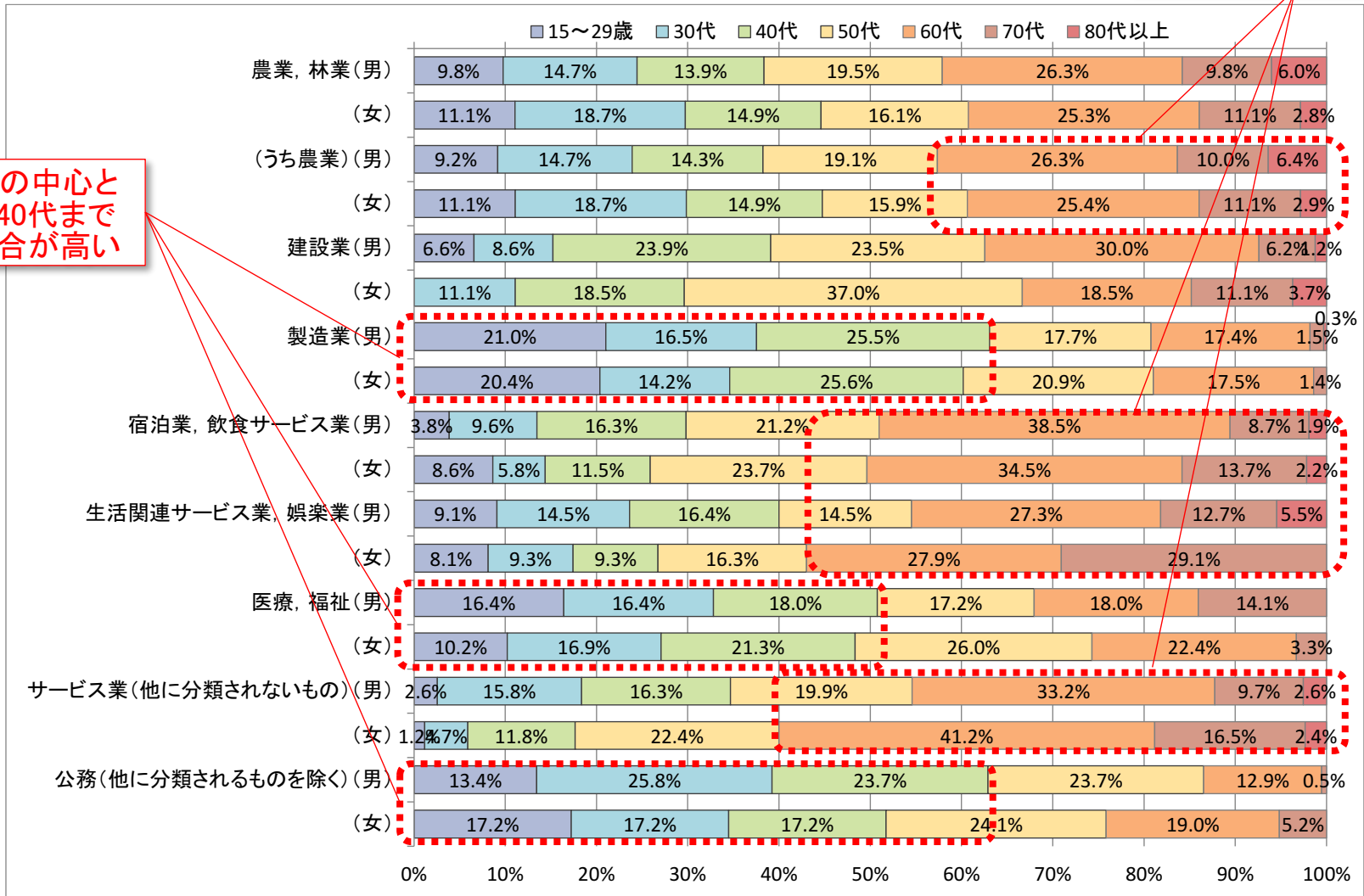
# (6)雇用等に関する分析

【図表】夕張市で働く産業別・男女別・年齢別就業者数の割合

※就業者数が100人以上で、男女いずれかの特化係数が1を超える産業について分析

60代以上が4～5割を占め、高齢化が進行

労働の中心となる40代までの割合が高い

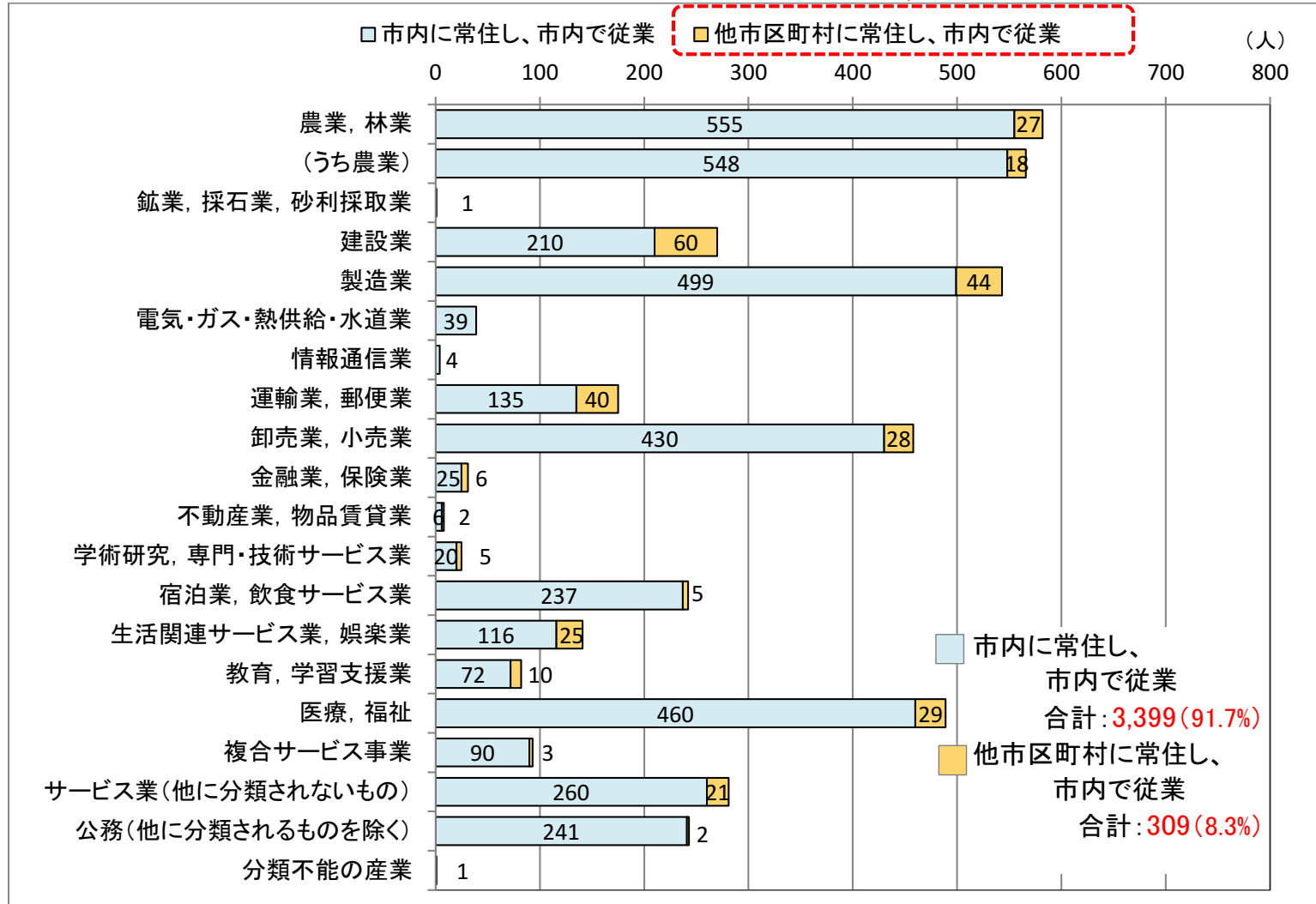




# (6)雇用等に関する分析

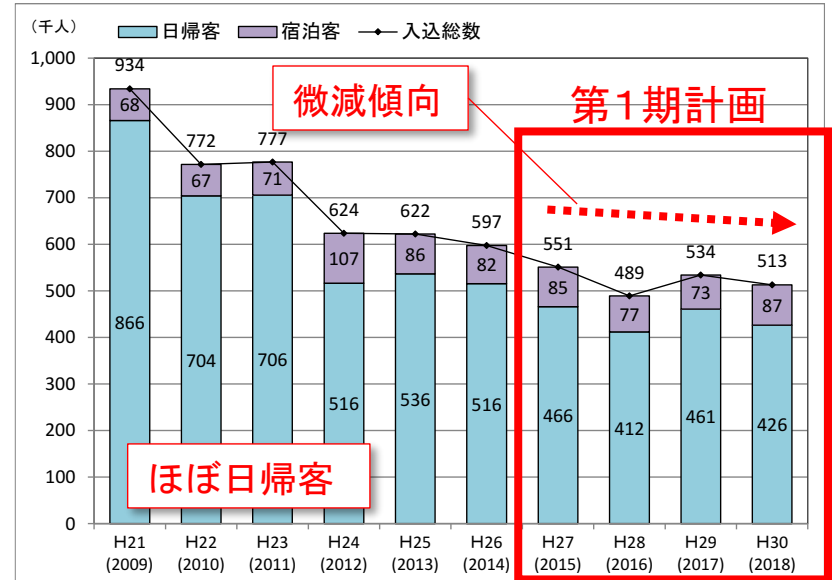
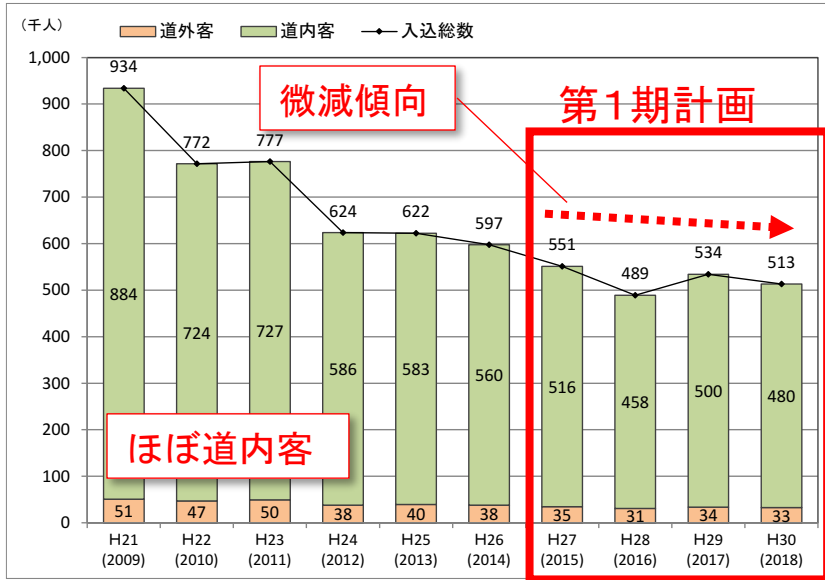
定住促進のターゲット

【図表】夕張市で働く産業別就業者数



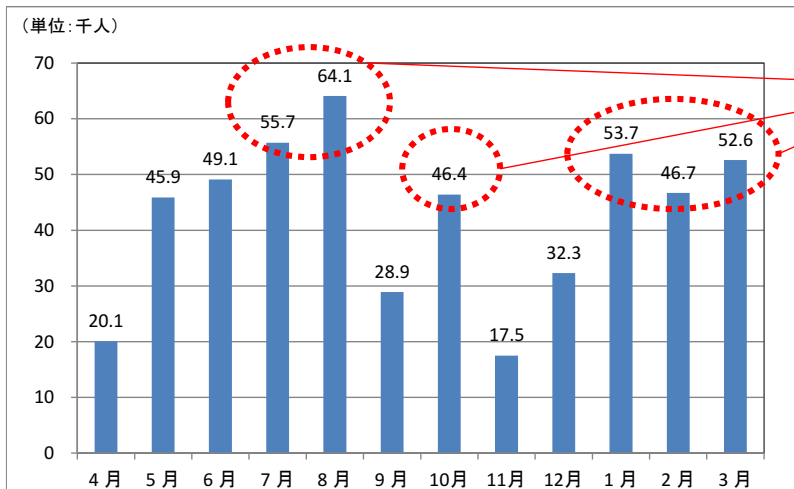
# (7)観光に関する分析

【図表】夕張市の観光入込客数の推移(左:道内外客別 右:日帰・宿泊客別)



資料:北海道「北海道観光入込客数調査」

【図表】夕張市の月別の観光入込客数(H30)



観光のピークは、夏季の7~8月。  
その他、紅葉シーズンは10月、  
冬季は1~3月の観光客が多い。

資料:北海道「平成30年度北海道観光入込客数調査」